

平成29年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔4月調査〕
結果報告

平成29年7月10日(月)

佐賀県教育委員会

－ 目 次 －

I	調査の実施概要	1
II	教科に関する調査の概要	4
III	教科ごとの調査結果とその分析	
	◎ 国語	
	(1) 結果の概要	6
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	8
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	10
	(4) 地域別の正答率	21
	◎ 算数・数学	
	(1) 結果の概要	22
	(2) 成果と課題及び指導改善のポイント	24
	(3) 各学年の設問ごとの正答率	26
	(4) 地域別の正答率	37
IV	児童生徒意識調査（小学5年生・中学1年生・中学2年生）、 児童生徒質問紙調査（小学6年生・中学3年生）、学校質問紙 調査及び教師意識調査の概要	
	(1) 授業に対する関心、理解度、有用性について	39
	(2) 学校での学習について	48
	(3) 家庭での学習について	55
	(4) 学校生活、家庭生活について	61
	(5) 教師意識調査から	67
	(6) 地域別の状況	71
	(7) 結果のまとめと指導改善のポイント	88

I 調査の実施概要

1 調査の目的

学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。

なお、調査に当たっては、市町教育委員会と県教育委員会が連携・協力し、実施する。

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

2 調査実施日

小・中学校とも平成 29 年 4 月 18 日(火)

3 調査内容

- ① 各教科の目標や内容の実現状況に関する「教科に関する調査」
 - ・ 小学 5 年生、小学 6 年生 国語、算数
 - ・ 中学 1 年生、中学 2 年生、中学 3 年生 国語、数学
- ② 学習に対する意識や生活習慣等に関する「児童生徒意識調査」
- ③ 学習指導法等に関する「教師意識調査」
 - ※ 小学 6 年生及び中学 3 年生は、全国学力・学習状況調査の「教科に関する調査」「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」を活用

4 調査方法

- ① 教科に関する調査
 - ・ 小学校 各教科 45 分（小学 6 年生は、全国調査の活用のため 40 分）
各学校で時間を設定して実施
 - ・ 中学校 各教科 50 分（中学 3 年生は、全国調査の活用のため 45 分）
各学校で時間を設定して実施
- ② 児童生徒意識調査
 - ・ 小学校及び中学校 15 分程度
各学校で時間を設定して実施
- ③ 教師意識調査
 - ・ 小学校 小学 4 年生、小学 5 年生、小学 6 年生の国語、社会、算数、理科の担当教職員が対象（平成 29 年 2 月実施）
 - ・ 中学校 中学 1 年生、中学 2 年生の国語、社会、数学、理科、英語の担当教職員が対象（平成 29 年 2 月実施）

5 調査の成果指標

① 教科に関する調査

学習指導要領の目標や内容の実現状況を到達基準〔注1〕として、「おおむね達成」と「十分達成」の2つの基準値を設定し、全学年・全教科において「十分達成」を超えることを目指している。

② 児童生徒や教師に対する意識調査

児童生徒の学習に対する意識・態度、学校や家庭での学習習慣、生活習慣、教師の指導方法などについて、経年での改善・向上を目指している。

6 調査対象及び調査人数

	学校数	学年	人数
小学校調査	165	第5学年	7,559
		第6学年	7,381
中学校調査	94	第1学年	7,337
		第2学年	7,254
		第3学年	7,454
		計	36,985

小学校調査学校数及び人数は、義務教育学校前期課程（5校、485名）県立特別支援学校小学部（4校、9名）を含みます。中学校調査学校数及び人数は、義務教育学校後期課程（5校、790名）県立中学校（4校、1,397名）及び県立特別支援学校中学部（4校、7名）を含みます。

〔注1〕 到達基準について

佐賀県では、平成20年度調査から、学習指導要領の目標や内容に照らして、児童生徒に求められる正答率の目標値を「到達基準」として設定している。これにより、同じ指標による経年比較も可能となる。

「到達基準」は、修正エーベル法〔注2〕の考え方に沿って、小問ごとに設定した「期待正答率」を集約したものである。「期待正答率」とは、受検した児童生徒のうち正答することが期待される者の人数の割合であり、問題の特性や難易度に応じて判断し、小問ごとに「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

「到達基準」のうち

○「十分達成」の到達基準は、学習内容の習得が十分であると判断される基準（目標到達基準）

○「おおむね達成」の到達基準は、最低限これを上回ることが必要であると判断される基準（最低到達基準）

このように、事前に設定した「到達基準」と調査結果を比較することにより、到達度を測ることができる。

また、各学校においては、この到達基準を基に、自校の調査結果を分析し、自校の取組を検証するとともに、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導の工夫・改善に取り組む。

〔注2〕 修正エーベル法について

- 1972年にエーベルが提唱したエーベル法に橋本重治が修正を加えて考案した到達基準の設定方法で、個々の小問の判断に基づくエーベル法をより簡略化して利用できるようにしたもの。
- 各小問を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。
- 関連性は、「基礎的・基本的」（後の学習への関連性が高く、その学年でぜひとも身に付けさせたい目標を測る問題）と「発展的・応用的」（比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くないが、その学年で身に付けることが望ましい目標を測る問題）の2区分である。
- 困難度は次の分類表のとおり、「平易」「普通」「困難」の3区分。ただし、「基礎的・基本的」に分類される「困難」な問題は妥当ではないので、分類から除外する。全ての小問が、(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

■修正エーベル法における問題の分類表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	(A)	(B)	
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

- 本調査では、過去の調査結果の傾向を踏まえて、次の表のように小・中学校別に期待正答率を設定している。

■小・中学校別期待正答率

(注) 上の数字は「十分達成」、下の数字は「おおむね達成」の場合を示している。

		平易	普通	困難
小学校	基礎的・基本的	(A) 0.85(85%) 0.65(65%)	(B) 0.80(80%) 0.60(60%)	
	発展的・応用的	(C) 0.75(75%) 0.55(55%)	(D) 0.70(70%) 0.50(50%)	(E) 0.65(65%) 0.45(45%)
中学校	基礎的・基本的	(A) 0.75(75%) 0.55(55%)	(B) 0.70(70%) 0.50(50%)	
	発展的・応用的	(C) 0.65(65%) 0.45(45%)	(D) 0.60(60%) 0.40(40%)	(E) 0.55(55%) 0.35(35%)

Ⅱ 教科に関する調査の概要

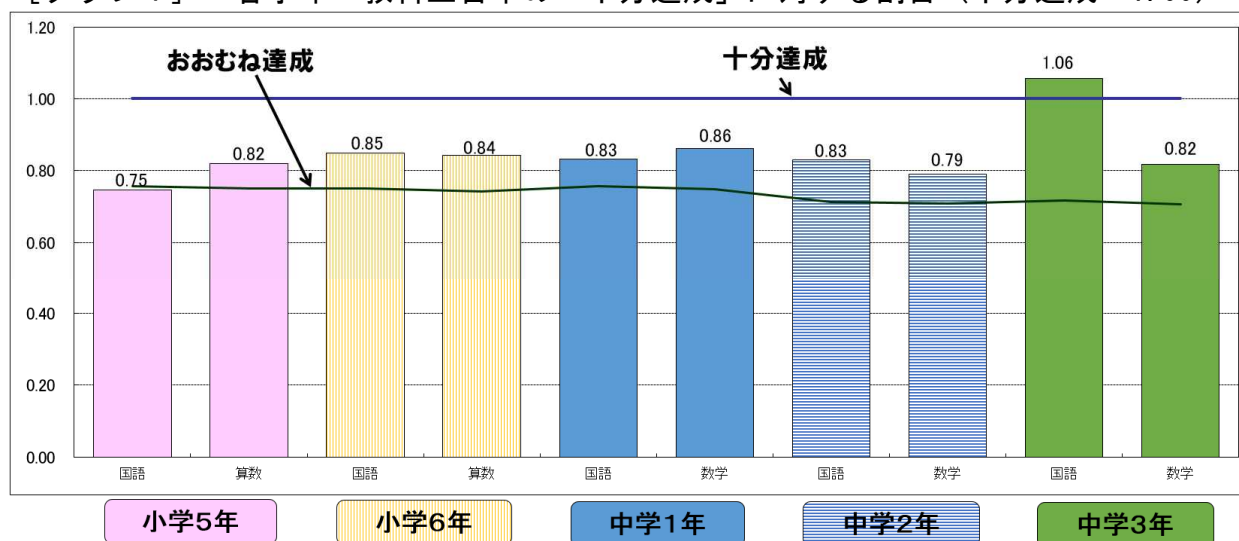
- 平成29年度[4月調査]の到達状況を見ると、県で設定した「到達基準」(p2 [注]参照)に対して「おおむね達成」の基準を上回ったものは10教科中9教科であり、本県児童生徒の学習内容の習得状況はおおむね良好であった。[表1]
- 中学3年生の国語が、「十分達成」の基準を上回っており、学習内容が十分習得されていた。
- 小学5年生の国語が、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られた。

[表1] 各学年・教科の到達状況

教科	平成29年度[4月調査]の到達状況				平成28年度[4月調査]の到達状況			
	県正答率(A)	到達基準		「十分達成」に対する割合(A/B)	県正答率(A)	到達基準		「十分達成」に対する割合(A/B)
		十分達成(B)	おおむね達成			十分達成(B)	おおむね達成	
小5国語	61.5	82.5	62.5	0.75	66.1	82.0	62.0	0.81
小5算数	65.4	79.8	59.8	0.82	67.1	81.4	61.4	0.82
小6国語	68.0	80.2	60.2	0.85	64.2	78.4	58.4	0.82
小6算数	65.5	77.7	57.7	0.84	64.7	78.1	58.1	0.83
中1国語	68.5	82.3	62.3	0.83	68.7	81.6	61.6	0.84
中1数学	68.5	79.6	59.6	0.86	72.9	80.5	60.5	0.91
中2国語	58.0	69.8	49.8	0.83	66.3	70.5	50.5	0.94
中2数学	54.3	68.7	48.7	0.79	55.0	69.8	49.8	0.79
中3国語	74.4	70.4	50.4	1.06	70.5	71.2	51.2	0.99
中3数学	57.2	70.0	50.0	0.82	54.0	70.0	50.0	0.77

※ 網掛けについては「十分達成」に対する割合が1.00を上回っている教科を示している。

[グラフ1] 各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合(十分達成=1.00)

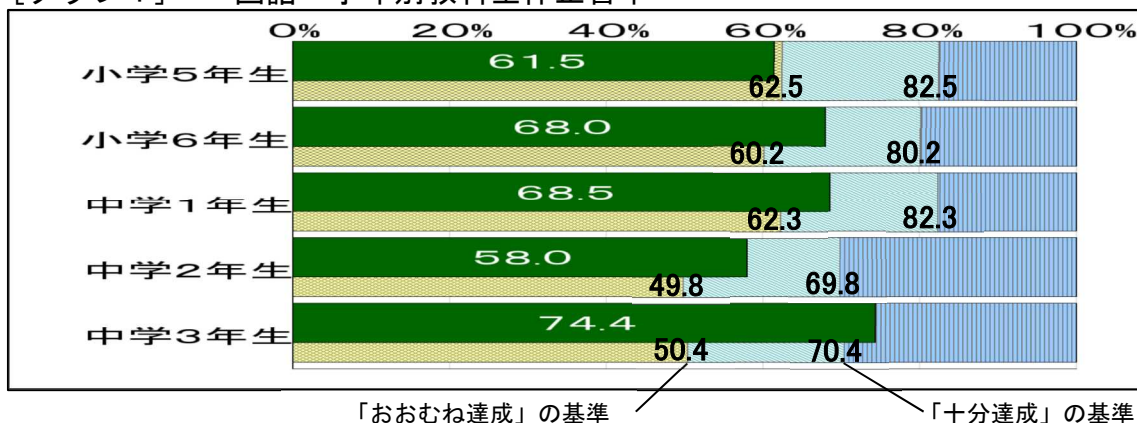


Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

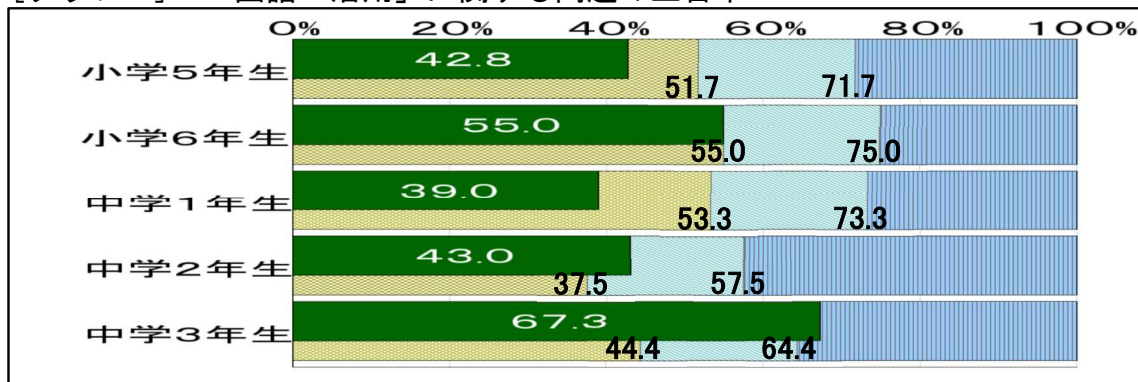
(1) 結果の概要

- 教科正答率は、中学3年生で「十分達成」の基準を上回っている。小学6年生と中学1年生、2年生で「おおむね達成」の基準を上回っているが、小学5年生で「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ1】
- 「活用」に関する問題については、中学3年生で「十分達成」の基準を上回っている。小学6年生と中学2年生は、「おおむね達成」の基準を上回っている。小学5年生と中学1年生で、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。【グラフ2】
- 観点別に見ると、中学3年生は、全ての観点で「十分達成」の基準を上回っている。「話す・聞く能力」「知識・理解・技能」の観点については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っており、「読む能力」の観点については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。「書く能力」「読む能力」については、小学5年生と小学6年生、中学1年生が「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。【グラフ3～6】
- 内容・領域別に見ると、「漢字の読み」については、全ての学年で「十分達成」の基準を上回っている。「語句に関する知識」については、小学5年生と中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。【グラフ7～11】

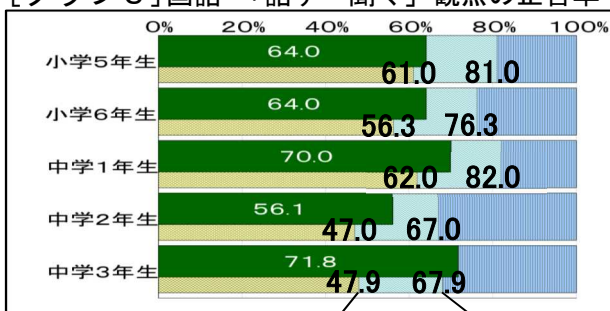
【グラフ1】 国語 学年別教科全体正答率



【グラフ2】 国語「活用」に関する問題の正答率

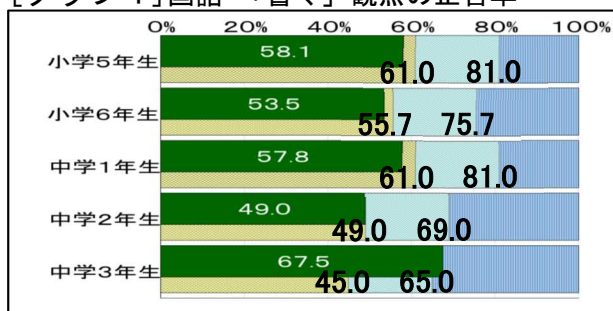


[グラフ3] 国語 「話す・聞く」 観点の正答率

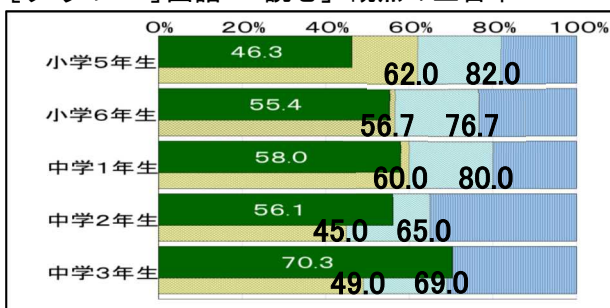


「おおむね達成」の基準 「十分達成」の基準

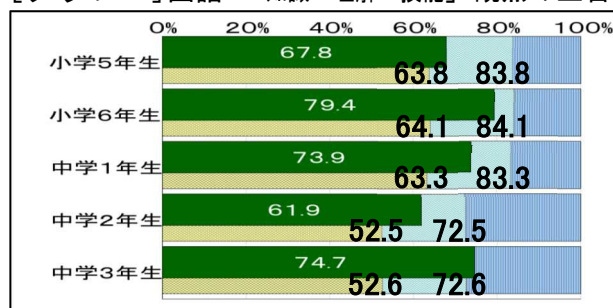
[グラフ4] 国語 「書く」 観点の正答率



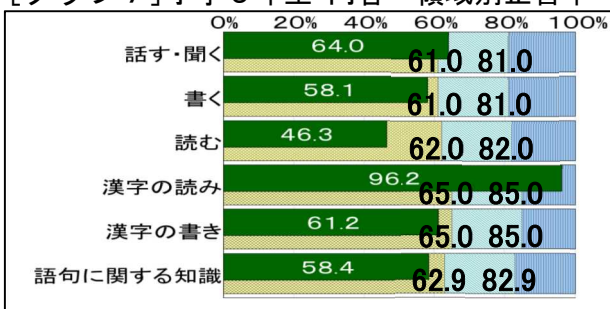
[グラフ5] 国語 「読む」 観点の正答率



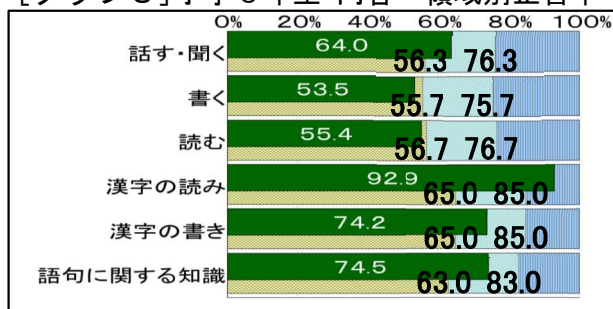
[グラフ6] 国語 「知識・理解・技能」 観点の正答率



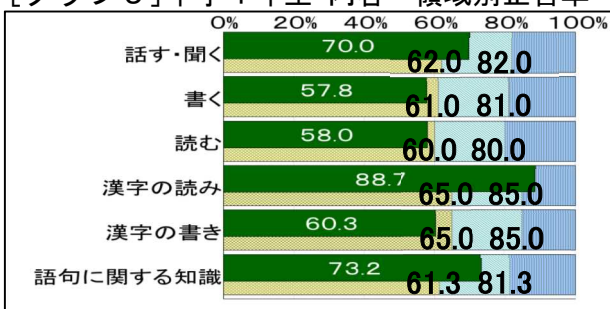
[グラフ7] 小学5年生 内容・領域別正答率



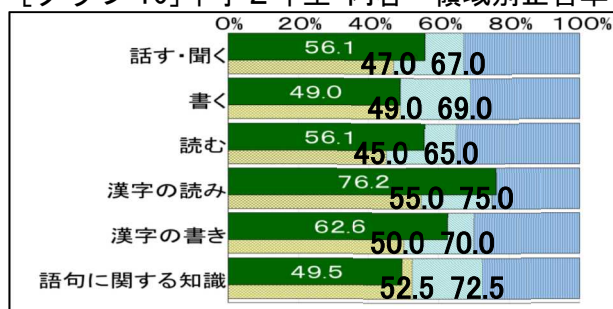
[グラフ8] 小学6年生 内容・領域別正答率



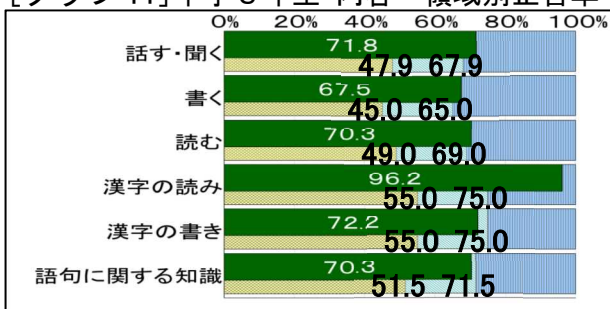
[グラフ9] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10] 中学2年生 内容・領域別正答率



[グラフ11] 中学3年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校国語（小学5年生、小学6年生、中学1年生）


成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 考えたことや聞き出したことから話題を決めたり、目的に応じて話の構成を工夫したりすることができている。(中学1年生¹二、四)
- ◇ 平成28年度[12月調査]で「おおむね達成」の基準を下回っていた「登場人物の気持ちを捉えること」を問う設問が、「おおむね達成」の基準を上回っており、改善の傾向が見られる。(小学6年生B問題³一)
- ◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことについては、相当数の児童ができている。(小学5年生⁵一、小学6年生A問題⁷346、中学1年生⁵一)
- ◆1 メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書いたり、図を基に、自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。(小学5年生²五、中学1年生²四)
- ◆2 段落相互の関係を捉えたり、文章の内容を的確に押さえたりすることに課題が見られる。(小学5年生⁴一、中学1年生⁴一)
- ◆3 物語を読み、具体的な叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉えたり、自分の考えの理由を明確にしてまとめたりすることに課題が見られる。(小学5年生³二、小学6年生B問題³三)

平成28年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web 報告書 参照

指導改善のポイント

- ◆1 メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く力を育成するためには、取材した事柄や調べた内容をまとめたメモを基に、記事を書く活動を設定する必要がある。その際には、取材した事柄や調べた内容の中から、文章の中心となる情報を取捨選択させ、適切な接続詞や文末表現を使って、読み手に分かりやすい記事となるよう考えて書かせることが大切である。また、図を基に、自分の考えを書く力を育成するためには、図表やグラフから情報を読み取り、必要な情報について適切な言葉を用いて書く活動を設定する必要がある。その際には、図表やグラフと文章を関係付けながら読ませ、読み取ったことを的確に表現することができるように指導することが大切である。さらに、書くことの指導では、字数や文末表現などの条件を設定して、条件を満たした文を書く活動を計画的に取り入れることも大切である。
- ◆2 段落相互の関係を捉える力を育成するためには、文と文、段落と段落の関係を押さえながら文章全体の内容を捉えさせることが必要である。具体的には、事実や意見などを区別させたり、それらの関係を捉え、図や表などに構造的にまとめさせたりすることが大切である。また、文章の内容を的確に押さえる力を育成するためには、理由や根拠、筆者の主張などが書かれている形式段落や文と文のつながりを捉えさせて読ませることが必要である。具体的には、中心となる語や文に着目させ、文章に何が書いてあるのかを明確にしながら読ませていくことが大切である。
- ◆3 叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉えたり、自分の考えの理由を明確にしてまとめたりする力を育成するためには、一つの場面の叙述だけを対象とするにとどまらず、複数の場面を比較したり、物語全体に広がっている複数の叙述を関係付けたりして読ませることが必要である。さらに、高学年においては、場面の展開に沿って読みながら、感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して自分の考えをまとめることができるように指導することが大切である。その際、目的を明確にさせて叙述を読ませ、自分の考えをまとめさせるように指導することも大切である。具体的には、読んで考えたことを発表し合ったり、本の帯を書いたりすることを言語活動として位置付けて、叙述と自分の考えを関係付けながら、印象の残った場面を紹介させることなどが考えられる。

 ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「単元で学び、単元で力をつける」をキーワードにした授業づくり、第4・5・6学年の「学習指導案」や「ワークシート」を提案しています。授業づくりに役立ててください。

中学校国語（中学2年生、中学3年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解することができる。
(中学2年生⁵一、中学3年生A問題⁶一、B問題¹二)
- ◇ 話の論理的な構成や展開に注意して聞いたり、必要に応じて質問し、自分の考えとの共通点や相違点を整理したりすることができる。
(中学2年生²二、中学3年生B問題²二)
- ◇ 集めた材料を分類、整理して文章を構成することができる。
(中学2年生³一、中学3年生B問題³一)
- ◆1 話合いの話題や方向を捉えて的確に話したり、相手に分かりやすいように語句を選択して話したりすることに一部課題が見られる。
(中学2年生¹二、中学3年生A問題⁷一)
- ◆2 書くにあたって必要な情報を集めるための見通しをもったり、情報を因果関係に基づいて整理したりすることに一部課題が見られる。
(中学2年生³三、中学3年生B問題³三)
- ◆3 表現の仕方について捉え、自分の考えをまとめることに一部課題が見られる。
(中学2年生⁵三、中学3年生B問題¹三)

指導改善のポイント

- ◆1 話合いの話題や方向を捉えて的確に話す力を育成するためには、話合いの相手や対象、目的を理解し、それに応じて話すことができるように指導することが大切である。そのためには、授業の中で互いの発言を検討したり、合意形成をしたりする場面を設定することが必要である。また、相手に分かりやすいように語句を選択して話す力を育成するためには、話合いの中で聞き手の話の受け止め方を考え、適切な語句の選択をして話すことができるように、相互評価や振り返りを活用し、相手意識を育てることも大切である。
- ◆2 書くにあたって必要な情報を集めるための見通しをもつためには、生徒が必要な情報を調べる活動を行う際に、目的や意図に応じた適切な調査方法について、生徒自身が考え、選択することができるようにすることが必要である。文献調査やインタビュー、アンケートなどの調査方法について教科書の巻末資料などを用いて、事前に学習を行わせ、それぞれの実施方法や気を付けるべき点を理解させておくことも大切である。情報を因果関係に基づいて整理する力を育成するためには、因果関係を図にすることが大切である。生徒が自らまとめることができるようにするためにロジックツリーやボーン図など思考ツールを板書で活用し使い方を示した上で、生徒が因果関係を図にする学習活動を行うことも考えられる。
- ◆3 表現の仕方について捉え、自分の考えをまとめる力を育成するためには、表現の技法のような基本的な知識については、ワークシートなどにまとめて生徒に渡しておき、折に触れて確認させるようにして知識の定着を図ることが大切である。生徒に自分の考えをまとめさせるためには、生徒が課題意識をもって、主体的に読み進めることができるような単元づくりが必要である。そのためには、例えば、「登場人物を人物描写によって分析し、人物紹介リーフレットを作ろう」のように、指導事項（人物描写）、思考操作（分析）、言語活動（人物紹介リーフレット）を学習課題の中で明示し、生徒に学習計画を作成させることが必要である。また、そのような単元を、年間計画に系統的に位置付けて計画的・継続的に指導を行うことが大切である。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組みました。「学習課題設定の工夫」や「主体的な学習を促す言語活動の工夫」をキーワードに、「読むこと」の領域の第1・2学年の実践事例や「ワークシート」について提案しています。授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,424	61.5	4.9	82.5	62.5	▼

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	64.0	1.3	81.0	61.0	
	書く	5	58.1	2.8	81.0	61.0	▼
	読む	5	46.3	4.4	82.0	62.0	▼
	漢字の読み	3	96.2	2.0	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	61.2	8.8	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	7	58.4	8.7	82.9	62.9	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	64.0	1.3	81.0	61.0	
	②書く	5	58.1	2.8	81.0	61.0	▼
	③読む	5	46.3	4.4	82.0	62.0	▼
	④知識・理解・技能	13	67.8	7.2	83.8	63.8	
問題形式	選択式	13	58.9	2.1	84.2	64.2	▼
	短答式	12	69.1	7.8	83.3	63.3	
	記述式	3	42.8	5.2	71.7	51.7	▼
活用	「活用」に関する問題	3	42.8	5.2	71.7	51.7	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
1	一	目的に応じて、理由や事例を挙げて明確に話す	○					○						53.8	0.4	B	80	60	▼
1	二	互いの考えの共通点や相違点を考え、進行に沿って話し合う	○					○						61.3	0.3	A	85	65	▼
1	三	適切な言葉遣いで話す	○					○			○			82.9	1.3	A	85	65	
1	四	司会の役割を理解し、話し合いを進める	○					○						63.0	0.7	B	80	60	
1	五	聞いた事柄を基に、進行に合わせて発言する	○					○			○	○		59.1	3.6	C	75	55	
2	一	目的に応じて、内容の中心を明確にして見出しを書く	○					○						65.8	0.3	A	85	65	
2	二	分かりやすく説明するために、写真を取り上げて書く	○					○						80.4	0.4	A	85	65	
2	三	よりよい表現に書き直すために、文末表現に注意して書く	○					○						56.4	7.3	B	80	60	▼
2	四	書こうとすることの中心を明確にするために、理由や事例を挙げて書く	○					○						50.6	1.4	A	85	65	▼
2	五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして文章を書く	○					○			○	○		37.4	4.6	D	70	50	▼
3	一	登場人物の会話に即しながら読む	○					○						76.1	1.5	A	85	65	
3	二	叙述を基に、登場人物の気持ちの変化を捉える	○					○				○	○	31.9	7.6	D	70	50	▼
4	一	段落相互の関係を捉える	○					○						27.6	2.4	A	85	65	▼
4	二1	目的に応じて引用する	○					○						47.5	3.9	A	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み 漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
4	二2	目的に応じて中心となる語を捉える	○					○		○			48.1	6.9	A	85	65	▼	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「旗」		○				○		○			96.9	1.9	A	85	65	◎	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「栄養」		○				○		○			95.6	2.1	A	85	65	◎	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「博物館」		○				○		○			96.1	1.9	A	85	65	◎	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「鉄橋」		○				○		○			45.0	12.9	A	85	65	▼	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「研究」		○				○		○			65.4	8.9	A	85	65		
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「暑い」		○				○		○			73.3	4.5	A	85	65		
5	三1	主語と述語の関係を理解する			○			○		○			56.0	2.9	A	85	65	▼	
5	三2	主語と述語の関係を理解する			○			○		○			75.8	3.0	A	85	65		
5	四1	故事成語の意味と使い方を理解する「五十歩百歩」			○			○		○			57.9	4.6	A	85	65	▼	
5	四2	故事成語の意味と使い方を理解する「漁夫の利」			○			○		○			49.3	5.3	A	85	65	▼	
5	五①	ローマ字で書く「nori」			○			○		○			47.0	15.0	B	80	60	▼	
5	五②	ローマ字で表記されたものを読む「きって」			○			○		○			66.5	14.1	B	80	60		
5	五③	ローマ字で表記されたものを読む「きゃく」			○			○		○			56.5	16.2	B	80	60	▼	

[表2] 小学6年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,221	68.0	1.9	80.2	60.2	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	4	64.0	1.1	76.3	56.3	
	書く	7	53.5	2.9	75.7	55.7	▼
	読む	6	55.4	3.2	76.7	56.7	▼
	漢字の読み	3	92.9	2.0	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	74.2	3.4	85.0	65.0	
	語句に関する知識	5	74.5	0.5	83.0	63.0	
評価の観点	①話す・聞く	4	64.0	1.1	76.3	56.3	
	②書く	7	53.5	2.9	75.7	55.7	▼
	③読む	6	55.4	3.2	76.7	56.7	▼
	④知識・理解・技能	11	79.4	1.7	84.1	64.1	
問題形式	選択式	14	67.6	0.7	81.1	61.1	
	短答式	7	81.4	2.6	83.6	63.6	
	記述式	3	38.2	6.0	68.3	48.3	▼
活用	「活用」に関する問題	9	55.0	2.9	75.0	55.0	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う	○						○							67.0	0.2	B	80	60	
2	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	○						○							78.8	0.1	B	80	60	
2	二 手紙の構成を理解し、後付けを書く	○						○							45.0	0.1	A	85	65	▼
3	目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む		○						○						71.4	0.2	B	80	60	
4	一 俳句の情景を捉える		○		○				○	○					77.0	0.2	B	80	60	
4	二 俳句の情景を捉える		○		○				○	○					54.3	0.4	B	80	60	▼
5	ア ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる					○				○					89.9	0.5	A	85	65	◎
5	イ ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる					○				○					83.6	0.5	A	85	65	
6	古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読む					○				○					67.7	0.9	A	85	65	
7	1 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○					○					51.7	4.7	A	85	65	▼
7	2 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○					○					85.2	2.2	A	85	65	◎
7	3 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			○						○					88.0	3.4	A	85	65	◎
7	4 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			○						○					94.1	1.3	A	85	65	◎
7	5 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○					○					85.8	3.5	A	85	65	◎

A問題

設問別集計結果

B
問題

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
7	6	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			○					○				96.6	1.3	A	85	65	◎
1	一	動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じ、適切な言葉遣いで話す	○					○			○			75.0	0.3	B	80	60	
1	二	話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える	○					○			○			68.8	2.3	C	75	55	
1	三	目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す	○	○				○	○			○	○	45.0	1.8	D	70	50	▼
2	一	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える		○					○		○			67.1	0.4	B	80	60	
2	二	目的や意図に応じ、引用して書く		○					○		○			68.7	2.0	B	80	60	
2	三	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く		○					○			○	○	40.7	1.6	D	70	50	▼
3	一	登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える			○					○		○		76.6	1.6	B	80	60	
3	二	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える			○					○		○		24.2	1.9	C	75	55	▼
3	三	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる	○	○					○	○		○	○	28.8	14.7	E	65	45	▼

[表3] 中学1年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,289	68.5	2.6	82.3	62.3	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	70.0	0.9	82.0	62.0	
	書く	5	57.8	1.1	81.0	61.0	▼
	読む	5	58.0	1.9	80.0	60.0	▼
	漢字の読み	5	88.7	1.5	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	5	60.3	9.5	85.0	65.0	▼
	語句に関する知識	8	73.2	1.4	81.3	61.3	
評価の観点	①話す・聞く	5	70.0	0.9	82.0	62.0	
	②書く	5	57.8	1.1	81.0	61.0	▼
	③読む	5	58.0	1.9	80.0	60.0	▼
	④知識・理解・技能	18	73.9	3.7	83.3	63.3	
問題形式	選択式	19	69.5	0.8	82.4	62.4	
	短答式	11	74.8	5.1	84.5	64.5	
	記述式	3	39.0	4.8	73.3	53.3	▼
活用	「活用」に関する問題	3	39.0	4.8	73.3	53.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類		十分達成
1	一	相手や場に応じた、適切な言葉遣いで話す	○					○							67.9	0.1	A	85	65	
1	二	目的や意図に応じて、話の構成を工夫して話す	○					○							88.9	0.1	A	85	65	◎
1	三	話し手の意図を捉えて質問をする	○					○							56.6	0.1	B	80	60	▼
1	四	考えたことや聞き出したいことなどから話題を決める	○					○							86.0	0.2	A	85	65	◎
1	五	話し手の意図に応じて、質問の構成を工夫する	○					○				○	○		50.5	4.0	C	75	55	▼
2	一	図を基に、分かったことを的確に書く	○						○						74.6	0.2	A	85	65	
2	二	自分の考えを明確に表しているかを確認、書き直す	○						○						19.3	0.1	A	85	65	▼
2	三	表現の効果などについて確かめる	○						○						96.0	0.2	A	85	65	◎
2	四	目的や意図に応じて、図を基に、自分の考えを書く	○						○			○	○		24.5	4.4	D	70	50	▼
2	五	自分の考えが伝わるように、図表を用いる	○						○						74.8	0.5	B	80	60	
3	一	登場人物の心情についての描写を捉える	○							○					77.9	1.6	B	80	60	
3	二	行動や情景などから、登場人物の気持ちの変化を捉える	○							○					82.8	0.3	A	85	65	
4	一	文章の内容を的確に押さえる	○							○					36.2	0.7	B	80	60	▼
4	二	文章の内容を的確に押さえて、要旨をまとめる	○							○					51.1	0.9	B	80	60	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
4	三	文章の内容を踏まえ、様式に合わせてまとめる		○					○			○	○	42.1	6.0	C	75	55	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「供える」			○				○					84.7	0.7	A	85	65	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「規律」			○				○					83.9	2.1	A	85	65	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「裁判」			○				○					98.2	0.8	A	85	65	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「至る」			○				○					90.6	1.5	A	85	65	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「簡潔」			○				○					85.9	2.4	A	85	65	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「導く」				○			○					86.1	6.8	A	85	65	◎
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「率いる」				○			○					63.3	11.4	A	85	65	▼
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「功績」				○			○					26.8	13.3	A	85	65	▼
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「貿易」				○			○					70.4	7.6	A	85	65	
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「快く」				○			○					54.8	8.3	A	85	65	▼
5	三1	熟語の構成について理解する「不」				○			○					93.6	1.0	B	80	60	◎
5	三2	熟語の構成について理解する「未」				○			○					88.3	1.0	B	80	60	◎
5	三3	熟語の構成について理解する「非」				○			○					82.1	1.0	B	80	60	◎
5	四	漢字の由来について理解する「校」				○			○					48.5	1.9	B	80	60	▼
5	五	和語・漢語・外来語の意味を理解する				○			○					71.5	1.5	B	80	60	
5	六	同音・同訓の漢字を正しく使う「実」「身」				○			○					28.4	1.5	B	80	60	▼
5	七1	慣用語の意味と使い方を理解する「馬が合う」				○			○					83.2	1.7	A	85	65	
5	七2	慣用語の意味と使い方を理解する「うり二つ」				○			○					90.2	1.7	A	85	65	◎

[表4] 中学2年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,185	58.0	9.4	69.8	49.8	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	56.1	7.5	67.0	47.0	
	書く	5	49.0	8.7	69.0	49.0	
	読む	5	56.1	10.3	65.0	45.0	
	漢字の読み	5	76.2	5.8	75.0	55.0	◎
	漢字の書き	5	62.6	13.8	70.0	50.0	
	語句に関する知識	6	49.5	10.2	72.5	52.5	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	56.1	7.5	67.0	47.0	
	②書く	5	49.0	8.7	69.0	49.0	
	③読む	5	56.1	10.3	65.0	45.0	
	④知識・理解・技能	16	61.9	10.0	72.5	52.5	
問題形式	選択式	8	64.0	2.2	71.3	51.3	
	短答式	17	61.0	10.6	72.4	52.4	
	記述式	6	41.2	15.7	60.8	40.8	
活用	「活用」に関する問題	4	43.0	13.9	57.5	37.5	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	一	意見を述べるために、必要な事実を根拠として取り上げる	○					○							69.0	0.4	A	75	55	
1	二	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す	○					○				○	○		45.5	15.1	D	60	40	
2	一	相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話す(敬語)	○					○				○			41.3	11.6	B	70	50	▼
2	二	必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理する	○					○					○		81.2	0.8	A	75	55	◎
2	三	相手の発言を注意して聞き取り、発言を整理して自分の考えをまとめる	○					○				○	○		43.6	9.4	E	55	35	
3	一	材料を分類、整理して文章を構成する	○						○						87.2	0.8	B	70	50	◎
3	二	書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする	○						○						25.1	16.8	B	70	50	▼
3	三	材料を因果関係に基づいて整理する	○						○						39.0	2.6	B	70	50	▼
3	四	根拠を明確にして自分の考えを書く	○						○						61.4	11.5	A	75	55	
3	五	段落の役割を考えて文章を構成する	○						○			○	○		32.3	11.9	D	60	40	▼
4	一	文章全体における段落の役割を捉える	○						○						26.7	22.0	C	65	45	▼
4	二	目的に応じて必要な情報を読み取る	○						○			○	○		50.6	19.3	E	55	35	
5	一	登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読む	○						○						86.2	2.8	B	70	50	◎
5	二	文章に表れているものの見方や考え方を捉える	○						○						64.0	3.2	B	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
5	三	表現の特徴について、自分の考えをもつ		○					○		○			52.9	4.2	C	65	45	
6	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「区域」			○				○		○			95.1	1.8	A	75	55	◎
6	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「稚魚」			○				○		○			63.8	13.2	A	75	55	
6	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「沿岸」			○				○		○			80.6	4.5	A	75	55	◎
6	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「快い」			○				○		○			50.0	7.3	A	75	55	▼
6	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「犯して」			○				○		○			91.6	2.3	A	75	55	◎
6	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「看病」				○			○		○			66.2	15.4	B	70	50	
6	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「干す」				○			○		○			79.7	13.5	B	70	50	◎
6	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「位」				○			○		○			89.6	6.9	B	70	50	◎
6	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「過熱」				○			○		○			10.5	20.6	B	70	50	▼
6	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「吸収」				○			○		○			67.0	12.6	B	70	50	
6	三	文の成分について理解する				○			○		○			37.5	8.4	B	70	50	▼
6	四	漢字の成り立ちについて理解する(部首を理解する)				○			○		○			57.4	14.4	B	70	50	
6	五	楷書の基礎的な書き方を理解する				○			○		○			32.9	3.0	A	75	55	▼
6	六1	歴史的仮名遣いについて理解する				○			○		○			38.1	9.5	A	75	55	▼
6	六2	文語のきまりを知り、古文と現代語訳を読み比べて、内容を理解する				○			○		○			82.5	9.7	A	75	55	◎
6	六3	文語のきまりを知り、古文を読み、古典の世界に触れる				○			○		○			48.5	16.2	B	70	50	▼

[表5] 中学3年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,223	74.4	2.6	70.4	50.4	◎

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	7	71.8	1.8	67.9	47.9	◎
	書く	8	67.5	4.1	65.0	45.0	◎
	読む	10	70.3	2.3	69.0	49.0	◎
	漢字の読み	3	96.2	0.7	75.0	55.0	◎
	漢字の書き	3	72.2	11.4	75.0	55.0	◎
	語句に関する知識	13	70.3	2.9	71.5	51.5	
評価の観点	①話す・聞く	7	71.8	1.8	67.9	47.9	◎
	②書く	8	67.5	4.1	65.0	45.0	◎
	③読む	10	70.3	2.3	69.0	49.0	◎
	④知識・理解・技能	19	74.7	3.9	72.6	52.6	◎
問題形式	選択式	27	77.7	0.5	70.6	50.6	◎
	短答式	11	74.1	6.0	73.2	53.2	◎
	記述式	3	45.5	9.6	58.3	38.3	
活用	「活用」に関する問題	9	67.3	4.0	64.4	44.4	◎

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	話し言葉と書き言葉との違いを理解する					○				○	○			79.0	0.1	B	70	50	◎	
2	一 目的に応じて資料を効果的に活用して話す	○					○				○			88.3	0.1	A	75	55	◎	
2	二 事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す	○					○				○			76.7	0.2	B	70	50	◎	
3	一 書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く		○					○				○		75.0	3.4	B	70	50	◎	
3	二 書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す		○					○				○		83.8	0.1	B	70	50	◎	
4	一 文章の要旨を捉える			○					○					79.4	0.1	B	70	50	◎	
4	二 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ			○					○					71.8	0.2	C	65	45	◎	
5	一 文章の構成を工夫して分かりやすく書く		○					○						79.4	0.2	B	70	50	◎	
5	二 目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめる		○					○						91.7	0.1	B	70	50	◎	
6	一 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			○					○					71.4	0.3	B	70	50	◎	
6	二 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			○					○					58.3	0.4	B	70	50		
7	一 相手に分かりやすいように語句を選択して話す	○					○					○		49.5	5.3	B	70	50	▼	
7	二 話すための材料を人との交流を通して集める	○					○							78.4	0.4	B	70	50	◎	
8	一 文章の表現の仕方について自分の考えをもつ		○					○						80.5	0.7	A	75	55	◎	

A問題

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
8	二	文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする	○					○		○			70.4	1.0	B	70	50	◎	
9	一1	文脈に即して漢字を正しく書く			○					○			64.6	15.1	A	75	55		
9	一2	文脈に即して漢字を正しく書く			○					○			64.0	12.4	A	75	55		
9	一3	文脈に即して漢字を正しく書く			○					○			87.7	6.7	A	75	55	◎	
9	二1	文脈に即して漢字を正しく読む			○					○			98.9	0.6	A	75	55	◎	
9	二2	文脈に即して漢字を正しく読む			○					○			95.0	0.6	A	75	55	◎	
9	二3	文脈に即して漢字を正しく読む			○					○			94.4	1.0	A	75	55	◎	
9	三ア	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う			○					○			79.3	0.8	B	70	50	◎	
9	三イ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う			○					○			61.6	0.6	A	75	55		
9	三ウ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う			○					○			88.1	0.6	B	70	50	◎	
9	三エ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う			○					○			94.8	0.5	A	75	55	◎	
9	三オ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う			○					○			93.4	0.6	A	75	55	◎	
9	四	助詞の働きについて理解する			○					○			91.3	0.7	B	70	50	◎	
9	五	事象や行為などを表す多様な語句について理解する			○					○			25.2	12.1	B	70	50	▼	
9	六1	楷書と行書との違いを理解する			○					○			53.8	1.0	A	75	55	▼	
9	六2	行書の特徴を理解する			○					○			62.8	1.2	B	70	50		
9	七1	古文と現代語訳とを対応させて内容を捉える			○					○			76.9	3.5	A	75	55	◎	
9	七2	古典には様々な種類の作品があることを知る			○					○			77.5	1.4	A	75	55	◎	
B 問題	1	一	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			○				○			81.7	0.2	B	70	50	◎	
	1	二	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する			○				○			83.0	5.3	B	70	50	◎	
	1	三	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く	○	○	○				○	○		29.7	14.6	D	60	40	▼	
2	一	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	○						○				83.1	0.3	C	65	45	◎	
2	二	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	○						○				71.6	0.3	C	65	45	◎	
2	三	相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話す	○	○					○	○			55.0	5.8	D	60	40		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
3	一	集めた材料を整理して文章を構成する	○							○			○	○	73.0	0.5	C	65	45	◎
3	二	目的に応じて必要な情報を読み取る		○							○		○	○	76.8	0.6	B	70	50	◎
3	三	必要な情報を集めるための見通しをもつ	○							○			○	○	51.9	8.5	E	55	35	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域の国語の学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、依然として地域間の学力差がみられる状況にあり、5学年中2学年で、昨年度と比べて地域差が拡大し、5学年中1学年で、縮小している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、小学校5年生の3地域で、「おおむね達成」の基準に到達していない。[グラフ12]

[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	国語	H29	1.03	0.97	0.95	1.00	1.06	▲ 拡 0.11
	H28	1.00	1.02	0.96	1.00	1.03	0.07	
小学校6年生	国語	H29	1.01	1.02	0.96	0.98	1.02	縮 0.06
	H28	1.02	1.00	0.95	0.99	1.03	0.08	
中学校1年生	国語	H29	1.00	1.02	0.97	1.01	0.99	拡 0.05
	H28	1.01	1.01	0.97	1.00	1.01	0.04	
中学校2年生	国語	H29	1.00	1.02	0.97	1.01	0.95	0.07
	H28	1.00	1.04	0.97	0.98	1.00	0.07	
中学校3年生	国語	H29	1.00	1.03	0.97	0.99	1.00	0.06
	H28	1.00	1.02	0.96	1.01	1.01	0.06	

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

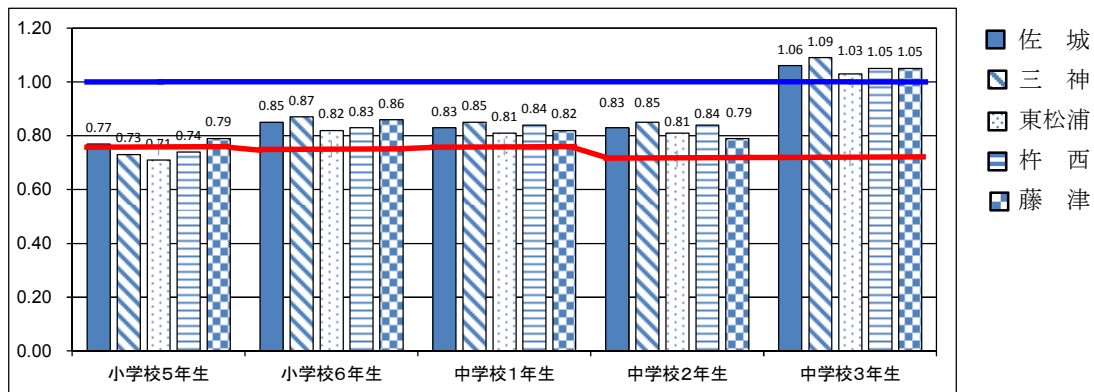
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成28年度調査より地域差が拡大した教科を、「縮」は縮小した教科を示す

[グラフ12] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



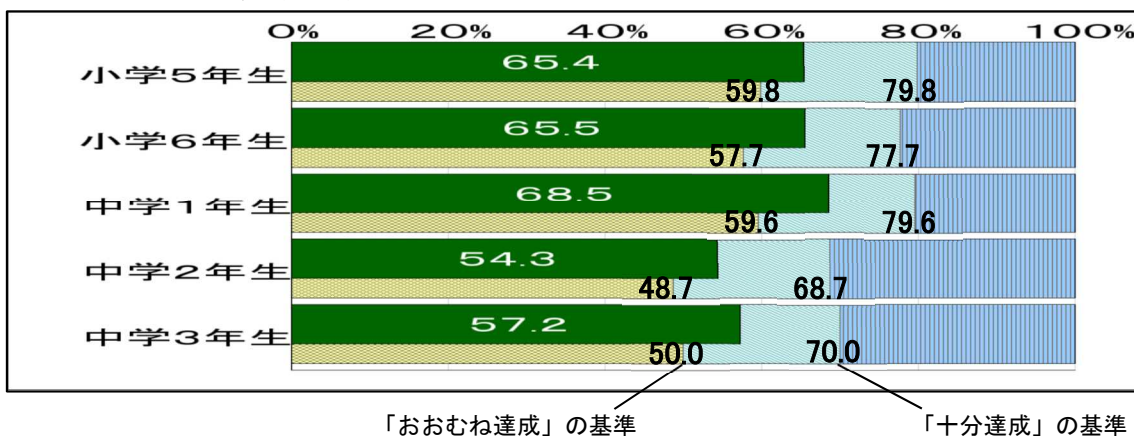
※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

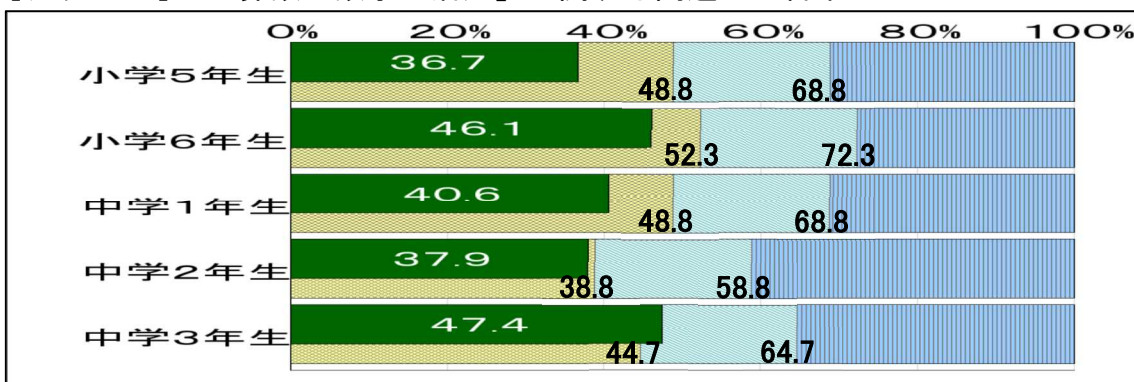
(1) 結果の概要

- 小・中学校共に、教科正答率は、全ての学年において「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ 13]
- 問題の解決の仕方や判断した理由を説明することや、資料の傾向を捉えて数学的な表現を用いて説明することなどの「活用」に関する問題の正答率は、中学3年生以外の学年で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[グラフ 14]
- 観点別に見ると、小・中学校共に「数量や図形についての（数学的な）技能」全ての学年において「おおむね達成」の基準を上回っている。「数量や図形（など）についての知識・理解」の正答率は、小学5年生、6年生、中学1年生、3年生で「おおむね達成」の基準を上回っている。「数学的な考え方（見方や考え方）」の正答率は、中学2年生以外の学年で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[グラフ 15～17]
- 内容・領域別に見ると、小学6年生と中学3年生では、全ての領域で「おおむね達成」の基準を上回っている。「量と測定」については、小学5年生と中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。「資料の活用」については、中学2年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[グラフ 18～22]

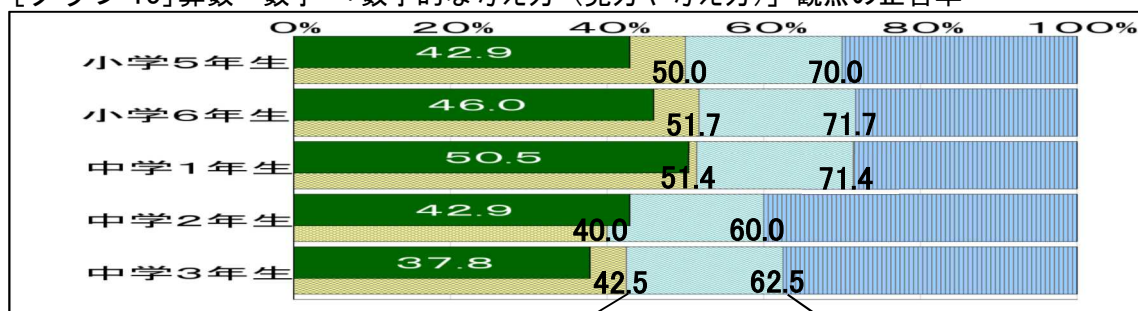
[グラフ 13] 算数・数学 学年別全体正答率



[グラフ 14] 算数・数学「活用」に関する問題の正答率



[グラフ 15] 算数・数学 「数学的な考え方（見方や考え方）」観点の正答率



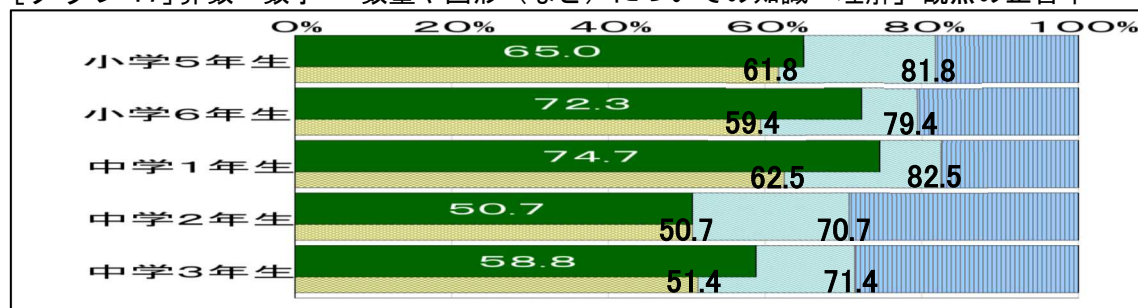
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

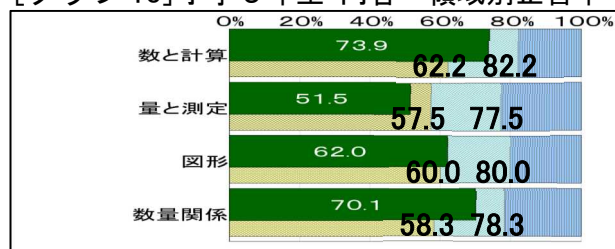
[グラフ 16] 算数・数学 「数量や図形についての（数学的な）技能」観点の正答率



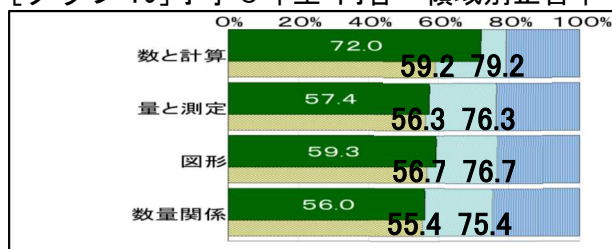
[グラフ 17] 算数・数学 「数量や図形（など）についての知識・理解」観点の正答率



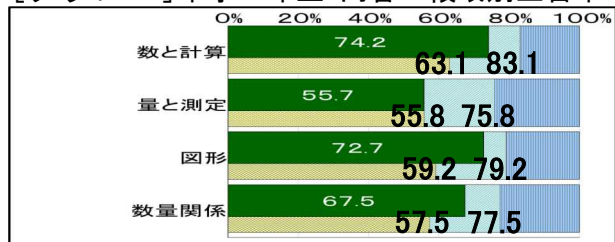
[グラフ 18] 小学5年生 内容・領域別正答率



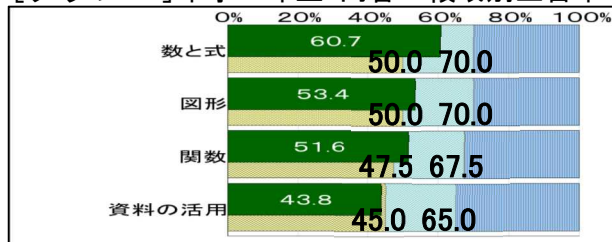
[グラフ 19] 小学6年生 内容・領域別正答率



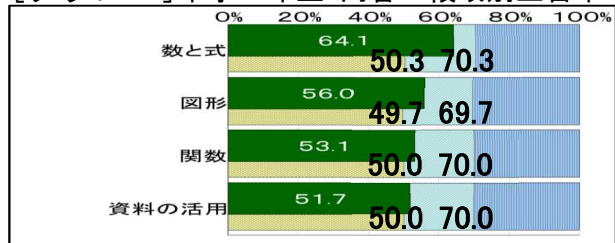
[グラフ 20] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ 21] 中学2年生 内容・領域別正答率



[グラフ 22] 中学3年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校算数（小学5年生、小学6年生、中学1年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 小数の加法や整数の乗法と分数の乗法の基礎的な技能が身に付いている。
(小学5年生 $\boxed{1}$ (1)、小学6年生A $\boxed{2}$ (1)、中学1年生 $\boxed{1}$ (2))
- ◇ 立体図形の頂点の位置関係や、面と面の位置関係についての知識が身に付いている。
(小学5年生 $\boxed{10}$ (1)、小学6年生 $\boxed{7}$)
- ◇ グラフから資料の分布の様子を理解したり、変化の特徴を読み取ったりすることができている。
(小学5年生 $\boxed{13}$ 、中学1年生 $\boxed{8}$)
- ◆ 1 整数と小数の大小関係や分数の大小関係の理解に課題が見られる。
(小学5年生 $\boxed{2}$ (2)、中学1年生 $\boxed{6}$ (1))
- ◆ 2 式や結果の数値の意味を解釈することについて課題が見られる。
(小学5年生 $\boxed{14}$ 、中学1年生 $\boxed{7}$)
- ◆ 3 示された考えを解釈して他の場面に適用することや、解釈して考えたことを説明することに課題が見られる。
(小学5年生 $\boxed{9}$ 、小学6年生B $\boxed{2}$ (2) B $\boxed{3}$ (2))

指導改善のポイント

- ◆ 1 整数と小数の大小関係を比較できるようにするためには、小数の意味と表し方を理解させる必要がある。例えば、3.8という数について「1が3個、0.1が8個ある」という見方や「0.1が38個ある」という見方などの複数の見方を通して、小数についての理解を深めさせることが考えられる。また、分数の大小関係を比較できるようにするためには、分数の意味と表し方を理解させる必要がある。例えば、 $\frac{3}{2}$ は $\frac{1}{2}$ の3つ分というように、単位分数の幾つ分という見方をしたり、分数を数直線や図などに表したりすることで、分数の意味や大きさについて理解を深めさせることが考えられる。
- ◆ 2 式や結果の数値の意味を解釈する力を育成するためには、式の意味や結果の数値の意味を考える活動を設定することが大切である。立式をした際には、なぜそのように立式できたのか、また、計算をした後は、結果の数値が何を表しているのかなどを考えさせることが必要である。その際には、式や結果の数値の意味を、具体的な問題場面と関連付けながら、図や言葉を用いて説明させることが大切である。
- ◆ 3 示された考えを解釈して他の場面に適用する力や、解釈したことを用いて考えたことを説明する力を育成するためには、友達の考えを解釈したり説明したりする活動を設定することが必要である。例えば、ある児童がかいた図や式のみを紹介し、他の児童にその意味を解釈させたり説明させたりすることが考えられる。その際には、分かっている児童のみの活動にならないようにするために、一人で考える時間や友達と話し合う時間を設定することが大切である。また、問題を解決した際には、見いだした考え方や解決方法を、他の場面に適用させたり数値を変えて考えさせたりすることも大切である。そのために、ある考え方や解決方法を全員で確認した後は、「どんな数でもできるのか」、「いつでもできるのか」などと問い、見いだした考え方を他の場面に適用できないか、数値を変えても同じ解決方法が使えないかなどを考えさせることが大切である。

ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組みました。「導入の段階の工夫」や「練り合いの段階の工夫」をした授業づくりについて提案しています。授業づくりに役立ててください。

中学校数学（中学2年生、中学3年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 整式の加法と減法の計算をすることができる。(中学2年生¹(3)、中学3年生A問題²(3))
- ◇ 簡単な一元一次方程式を解くことができる。(中学2年生²(4)①、中学3年生A問題³(1))
- ◇ 与えられた表やグラフ、資料などから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
(中学3年生B問題³(1)、中学3年生B問題⁵(1))
- ◆1 扇形の弧の長さを求めることに課題が見られる。(中学2年生⁶(1)、中学3年生A問題⁴(3))
- ◆2 与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めたり相対度数を求める式に表したりすること、また、範囲を求めることに課題が見られる。
(中学2年生⁹(1)、中学3年生A問題¹⁴(1)(2))
- ◆3 事柄が成り立つ理由や問題解決の方法、判断の理由などを数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。
(中学2年生¹⁰(2)、中学3年生B問題²(3)³(2)⁵(3))

指導改善のポイント

- ◆1 扇形の弧の長さや面積を求めることができるようにするためには、扇形を円の一部分として捉え、弧の長さや面積がその中心角の大きさに比例することを確認する場面を設定することが必要である。ピザやケーキを切り分けるような実生活の場面と結び付けて理解を深めさせるようにし、円を紙で作って、折ったり切ったりするなどの観察、操作や実験を通して、円と扇形を関連付け、扇形の弧の長さや面積とその中心角の大きさの関係を捉える活動を取り入れることが大切である。
- ◆2 相対度数の必要性と意味について理解できるようにするために、生徒にとって身近な場面で、度数の合計が違い、階級の度数をそのまま比較することが適切でないような問題を扱い、ある階級の度数の総度数に占める割合を求めて、資料の傾向を読み取る活動を取り入れることが大切である。また、範囲の意味を理解できるようにするために、範囲とは資料の最大値と最小値との差であることを確認した上で、資料の散らばりの程度を捉える活動を取り入れることが大切である。「資料の活用」は第1学年最後の指導内容であるが、目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりを用いて資料の傾向を捉え説明する時間を確保することが必要である。
- ◆3 事柄が成り立つ理由や問題解決の方法、判断の理由などを数学的な表現を用いて説明する力を育成するためには、実生活における問題を数学を活用して解決する場面を設定し、問題解決のために何をどのように用いればよいかを明らかにしたり、根拠を明確にして成り立つ理由や判断の理由を説明したりする活動を行うことが必要である。その際、互いに自分の考えを表現し伝え合う活動を取り入れ、必要な条件を用いて説明できているか、根拠に基づいて説明できているかを確認させ、結論を含めて言葉で的確にまとめさせることができるような指導を充実することが大切である。



ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組みました。数学的に説明し伝え合う活動を充実させた第1・2学年の「詳細授業展開案」と「ワークシート」を提案しています。内容・領域「関数」「図形」の授業づくりに役立ててください。

(3) 各学年の設問ごとの正答率

[表7] 小学5年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,432	65.4	1.9	79.8	59.8	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	9	73.9	1.3	82.2	62.2	
	量と測定	6	51.5	1.0	77.5	57.5	▼
	図形	6	62.0	3.4	80.0	60.0	
	数量関係	6	70.1	2.2	78.3	58.3	
評価の観点	①考え方	5	42.9	5.0	70.0	50.0	▼
	②技能	11	76.1	0.9	82.3	62.3	
	③知識・理解	11	65.0	1.5	81.8	61.8	
問題形式	選択式	8	64.5	1.3	80.6	60.6	
	短答式	17	70.2	1.6	80.9	60.9	
	記述式	2	28.8	7.2	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	4	36.7	5.9	68.8	48.8	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	(1) 1/100の位までの小数の加法の計算をすることができる	○				○			○			93.3	0.1	A	85	65	◎
1	(2) 除数が2位数、被除数が3位数の除法の計算をすることができる	○				○			○			87.6	1.3	A	85	65	◎
1	(3) 乗数が2位数、被乗数が1/10の位までの小数の乗法の計算をすることができる	○				○			○			60.4	0.5	A	85	65	▼
1	(4) 同分母の分数の減法の計算をすることができる	○				○			○			89.3	0.7	A	85	65	◎
1	(5) 四則が混合し、()を用いた式の計算をすることができる			○		○			○			76.3	0.7	B	80	60	
2	(1) 小数の意味と表し方について理解している	○				○			○			71.4	0.2	B	80	60	
2	(2) 整数、小数の大小関係について理解している	○				○			○			53.6	0.1	A	85	65	▼
2	(3) 数を四捨五入して、千の位までの概数に表すことができる	○				○			○			84.5	0.4	A	85	65	
2	(4) 対角線の意味と用語について理解している		○			○			○			60.1	5.5	A	85	65	▼
3	(1) 除法に関して成り立つ性質について理解している	○				○			○			79.2	2.1	B	80	60	
3	(2) 面積についての感覚を身に付けている	○				○			○			48.0	0.3	B	80	60	▼
3	(3) 重さについての感覚を身に付けている	○				○			○			51.8	0.3	B	80	60	▼
3	(4) mで表された長さをcmで、m ² で表された面積をcm ² で表すことができる	○				○			○			42.4	0.8	B	80	60	▼
4	(1) 複合図形の面積の求め方を考えることができる	○				○			○			67.8	1.4	C	75	55	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率			到達 状 況
		数 と 計 算	量 と 測 定	図 形	数 量 関 係	① 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式				問 題 分 類	十 分 達 成	お お む ね 達 成	
4	(2)	分度器を用いて、 180° より大きい角の大きさを求めることができる	○					○			○		55.2	0.5	B	80	60	▼
5	(1)	問題場面を、()を用いた式で表すことができる			○			○			○		84.9	0.5	B	80	60	◎
5	(2)	結合法則について理解している			○			○			○		57.8	1.6	B	80	60	▼
6		平行四辺形の定義や性質について理解している		○				○			○		42.0	2.7	B	80	60	▼
7		ものの位置の表し方を理解している		○				○			○		91.0	0.7	A	85	65	◎
8		与えられた情報を基に、試合の開始時刻を考慮することができる	○					○			○	○	44.0	2.8	D	70	50	▼
9		示された計算の工夫を理解し、その工夫を用いて異なる数値の問題の解決の仕方を説明することができる			○			○			○	○	39.0	5.7	D	70	50	▼
10	(1)	展開図を組み立ててできる立体の頂点の位置関係を理解している		○				○			○		87.7	1.3	A	85	65	◎
10	(2)	展開図を組み立ててできる立体の辺の位置関係を理解している		○				○			○		72.9	1.7	B	80	60	
11		二つの数量の関係を□や○を用いて式に表すことができる			○			○			○		73.7	1.9	B	80	60	
12		示された条件で正三角形ができるということ、円の性質を基に判断し、その理由を説明することができる		○				○			○	○	18.5	8.7	E	65	45	▼
13		折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる			○			○			○		88.9	2.6	B	80	60	◎
14		除法の商と余りの意味を、問題場面と関連付けて解釈することができる	○					○			○	○	45.5	6.3	D	70	50	▼

[表 8] 小学6年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,202	65.5	3.4	77.7	57.7	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	13	72.0	2.6	79.2	59.2	
	量と測定	4	57.4	3.6	76.3	56.3	
	図形	3	59.3	5.4	76.7	56.7	
	数量関係	13	56.0	5.5	75.4	55.4	
評価の観点	①考え方	9	46.0	7.9	71.7	51.7	▼
	②技能	8	79.9	0.9	82.5	62.5	
	③知識・理解	9	72.3	1.0	79.4	59.4	
問題形式	選択式	10	70.4	1.7	78.0	58.0	
	短答式	11	75.5	1.5	80.5	60.5	
	記述式	5	33.7	10.9	71.0	51.0	▼
活用	「活用」に関する問題	11	46.1	7.0	72.3	52.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	1	○		○			○		○			97.2	0.3	A	85	65	◎	
1	2	○					○		○			69.4	0.7	B	80	60		
1	3	○					○		○			91.3	0.3	A	85	65	◎	
2	1	○					○		○			87.1	0.3	A	85	65	◎	
2	2	○					○		○			78.2	0.2	A	85	65		
2	3	○		○			○		○			72.0	0.4	B	80	60		
2	4	○					○		○			78.9	1.4	A	85	65		
3		○					○		○			89.1	0.6	A	85	65	◎	
4		○					○		○			69.0	0.4	C	75	55		
5		○					○		○			65.3	0.7	B	80	60		
6			○				○		○			83.1	0.8	B	80	60	◎	
7			○				○		○			81.8	0.6	B	80	60	◎	
8				○			○		○			83.0	0.7	B	80	60	◎	
9	1			○			○		○			87.6	1.3	B	80	60	◎	

A問題

設問別集計結果

B
問題

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	① 考え方	② 技能	③ 知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
9	2	資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができる			○					○		63.1	2.5	B	80	60		
1	1	示された条件を基に、適切な式を立てることができる	○							○	○	75.8	1.9	C	75	55	◎	
1	2	示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することができる	○							○	○	80.9	2.9	C	75	55	◎	
1	3	問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できる	○		○						○	47.4	13.9	E	65	45		
2	1	料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	○		○						○	42.5	6.0	C	75	55	▼	
2	2	直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができる	○							○	○	25.2	5.2	D	70	50	▼	
3	1	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断することができる	○		○						○	65.3	0.9	B	80	60		
3	2	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる	○		○						○	29.8	12.6	D	70	50	▼	
4	1	示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述できる			○						○	35.7	7.4	C	75	55	▼	
4	2	割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる			○					○	○	27.9	4.9	D	70	50	▼	
5	1	示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断できる			○						○	63.4	6.5	D	70	50		
5	2	身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述できる			○	○					○	12.9	15.0	D	70	50	▼	

[表9] 中学1年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,299	68.5	2.1	79.6	59.6	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と計算	8	74.2	1.1	83.1	63.1	
	量と測定	6	55.7	2.9	75.8	55.8	▼
	図形	6	72.7	1.3	79.2	59.2	
	数量関係	8	67.5	3.4	77.5	57.5	
評価の観点	①考え方	7	50.5	4.7	71.4	51.4	▼
	②技能	12	75.0	1.3	82.5	62.5	
	③知識・理解	8	74.7	1.1	82.5	62.5	
問題形式	選択式	8	65.0	0.8	81.3	61.3	
	短答式	17	72.8	2.0	80.3	60.3	
	記述式	2	46.7	8.3	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	4	40.6	6.2	68.8	48.8	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	①考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	(1) 被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算ができる	○				○			○			91.9	0.8	A	85	65	◎	
1	(2) 被乗数が帯分数、乗数が真分数の乗法の計算ができる	○				○			○			92.2	0.7	A	85	65	◎	
1	(3) 被除数、除数が共に真分数の除法の計算ができる	○				○			○			89.0	1.1	A	85	65	◎	
1	(4) 被除数が分数、除数が小数の除法の計算ができる	○				○			○			79.3	1.5	B	80	60		
2	(1) 除数が分数や小数の除法において、被除数と商の大きさとの関係について理解している	○					○		○			53.1	2.0	B	80	60	▼	
2	(2) m ³ で表された体積を、cm ³ で表すことができる	○				○			○			68.8	0.8	A	85	65		
2	(3) 比と全体の量を基に、部分の量を考えることができる			○		○			○			59.2	3.1	C	75	55		
3	比例 日常の事象から比例の関係にある事象を見付けることができる			○		○			○			72.0	0.5	A	85	65		
3	反比例 日常の事象から反比例の関係にある事象を見付けることができる			○		○			○			67.8	0.5	C	75	55		
4	(1) 点対称の意味について理解している		○				○		○			79.5	0.3	B	80	60		
4	(2) 線対称な図形の対称の軸について理解している		○				○		○			77.7	0.5	B	80	60		
5	(1) 円と正方形を組み合わせてできた図形の面積の求め方を考えることができる	○				○			○			57.3	3.4	C	75	55		
5	(2) 四角柱の体積を求めることができる	○					○		○			62.6	1.9	B	80	60		
5	(3) 三角形の面積を求めることができる	○					○		○			64.2	3.1	B	80	60		

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正 答 率	県 無 解 答 率	期待 正 答 率			到達 状 況
		数 と 計 算	量 と 測 定	図 形	数 量 関 係	① 考 え 方	② 技 能	③ 知 識 ・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式				問 題 分 類	十 分 達 成	お お む ね 達 成	
5	(4)	直方体の面と辺の垂直の関係を理解している		○			○		○			69.2	0.8	A	85	65		
6	(1)	分数の大小を理解している	○				○		○			54.6	0.3	A	85	65	▼	
6	(2)	数直線から、1/100の位までの小数を読み取ることができる	○				○		○			87.4	1.4	A	85	65	◎	
6	(3)	割合を分数で表す場面において、図の中で基準にする大きさ、割合、割合に当たる大きさの関係を捉えることができる	○				○		○			46.0	1.0	B	80	60	▼	
7		示された式の意味を解釈し、式の中の数値を変えることで、トラックの外側の線の長さを求める式を考えることができる		○			○		○	○		41.4	3.9	D	70	50	▼	
8		柱状グラフにおける資料の分布の様子を理解している			○			○		○		90.8	0.5	A	85	65	◎	
9		4教科のテストの点数の平均を基に、目標を達成するために必要な、残りのテストの点数を考えることができる	○				○		○	○		27.7	4.2	D	70	50	▼	
10	(1)	拡大図の意味について理解している		○				○		○		93.9	0.6	A	85	65	◎	
10	(2)	合同な図形の性質を基に、四角形の角の大きさを考えることができる		○			○		○			74.5	1.3	C	75	55		
11		示された事柄の正誤を、グラフの情報を基に判断し、その理由を説明することができる	○	○			○			○	○	53.3	3.7	E	65	45		
12	(1)	百分率について理解している		○				○		○		78.5	3.8	B	80	60		
12	(2)	落ちや重なりがないように、順序よく調べることができる		○			○		○			78.6	1.9	A	85	65		
13		表から適切な数値を選んで割合の大小を判断し、示された事柄が正しくない理由を説明することができる		○			○			○	○	40.1	12.9	D	70	50	▼	

[表10] 中学2年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,199	54.3	7.5	68.7	48.7	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	12	60.7	5.7	70.0	50.0	
	図形	7	53.4	5.1	70.0	50.0	
	関数	6	51.6	7.5	67.5	47.5	
	資料の活用	5	43.8	15.1	65.0	45.0	▼
評価の観点	①見方や考え方	6	42.9	12.8	60.0	40.0	
	②技能	17	59.8	7.7	70.9	50.9	
	③知識・理解	7	50.7	2.4	70.7	50.7	
問題形式	選択式	8	54.6	2.4	69.4	49.4	
	短答式	18	56.9	8.3	70.3	50.3	
	記述式	4	42.0	14.2	60.0	40.0	
活用	「活用」に関する問題	4	37.9	16.3	58.8	38.8	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	(1) 正の数と負の数の減法の計算をすることができる	○				○			○			95.8	0.3	A	75	55	◎
1	(2) 指数を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○				○			○			71.2	0.9	A	75	55	
1	(3) 文字式の加法と減法の計算をすることができる	○				○			○			82.4	2.1	A	75	55	◎
1	(4) 分配法則を用いた文字式の計算をすることができる	○				○			○			59.3	4.4	A	75	55	
2	(1) 自然数の意味を理解している	○					○		○			44.4	1.0	A	75	55	▼
2	(2) 正の数と負の数にまで拡張した数の範囲で、数の大小関係を理解している	○					○		○			34.7	4.0	B	70	50	▼
2	(3) 文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○					○		○			67.9	4.9	B	70	50	
2	(4)① 一元一次方程式を解くことができる	○					○		○			82.8	4.3	B	70	50	◎
2	(4)② 分数を含む一元一次方程式を解くことができる	○					○		○			37.4	12.1	B	70	50	▼
3	具体的な事象における数量の関係を捉え、比例式をつくることができる	○				○			○	○	35.8	15.8	D	60	40	▼	
4	文字を用いた不等式から、数量の大小関係を読み取り、説明することができる	○				○			○			51.8	7.7	C	65	45	
5	具体的な事象における平均の求め方を、正の数と負の数を用いて説明することができる	○				○			○	○	64.4	11.1	D	60	40	◎	
6	(1) 扇形の弧の長さを求めることができる	○					○		○			40.3	10.6	B	70	50	▼
6	(2) 線分の垂直二等分線の作図方法について理解している	○					○		○			55.1	2.0	B	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県 正答率	県 無解答率	期待 正答率			到達 状況
		数 と式	図 形	関 数	資 料の 活用	① 見方 や考 え方	② 技 能	③ 知 識・ 理 解	選 択 式	短 答 式	記 述 式				問 題 分 類	十 分 達 成	お お む ね 達 成	
6	(3)	図形の回転移動について、移動前と移動後の対応する頂点の位置関係を理解している	○				○		○			55.1	2.4	B	70	50		
6	(4)	空間における直線と直線との位置関係（辺と辺とがねじれの位置にあること）を理解している	○				○		○			67.9	2.1	B	70	50		
6	(5)	柱体の表面積を求めることができる	○				○		○			40.3	8.1	B	70	50	▼	
6	(6)	柱体の体積を求めることができる	○				○		○			52.2	8.7	B	70	50		
6	(7)	与えられた投影図から空間図形を読み取ることができる	○				○		○			62.7	1.9	B	70	50		
7	(1)	比例の関係を式に表すことができる	○				○		○			60.2	8.7	B	70	50		
7	(2)	比例のグラフ上にある点のx座標とy座標の値の組が、その式を満たしていることを理解している	○				○		○			28.1	3.3	B	70	50	▼	
7	(3)	比例の関係をグラフに表すことができる	○				○		○			61.6	7.5	B	70	50		
7	(4)	反比例の関係を表すグラフの特徴を理解している	○				○		○			69.7	2.1	B	70	50		
8	(1)	与えられた情報から、xとyの関係を表に表すことができる	○				○		○			59.7	9.9	C	65	45		
8	(2)	与えられた情報を基に、xとyの関係が反比例である理由を説明することができる	○				○		○	○		30.1	13.6	D	60	40	▼	
9	(1)	度数分布表から相対度数を求める式を表すことができる	○				○		○			40.8	20.4	B	70	50	▼	
9	(2)	資料の傾向を的確に捉えることができる	○				○		○			54.0	4.2	D	60	40		
10	(1)	ヒストグラムから度数を読み取ることができる	○				○		○			79.3	4.9	B	70	50	◎	
10	(2)	代表値を基に、資料の傾向を捉え、数学的な表現を用いて説明することができる	○				○		○	○		21.6	24.6	E	55	35	▼	
11		有効数字を使って近似値を表すことができる	○				○		○			23.3	21.2	B	70	50	▼	

[表11] 中学3年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,227	57.2	8.4	70.0	50.0	

分類・区分別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	数と式	15	64.1	6.4	70.3	50.3	
	図形	18	56.0	6.5	69.7	49.7	
	関数	11	53.1	12.8	70.0	50.0	
	資料の活用	7	51.7	10.6	70.0	50.0	
評価の観点	①見方や考え方	10	37.8	14.7	62.5	42.5	▼
	②技能	23	64.4	8.3	72.2	52.2	
	③知識・理解	18	58.8	5.0	71.4	51.4	
問題形式	選択式	17	61.1	1.1	69.7	49.7	
	短答式	29	60.4	9.4	71.7	51.7	
	記述式	5	25.1	27.3	61.0	41.0	▼
活用	「活用」に関する問題	15	47.4	12.7	64.7	44.7	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	1	分数の乗法の計算ができる	○				○			○		86.2	1.3	A	75	55	◎	
1	2	2つの負の数の和は負の数になることを理解している	○				○			○		63.5	0.2	B	70	50		
1	3	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる	○				○			○		73.2	1.2	A	75	55		
1	4	実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表されることを理解している	○				○			○		87.6	3.1	B	70	50	◎	
2	1	数量の関係を文字式で表すことができる	○				○			○		50.9	8.1	A	75	55	▼	
2	2	与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取ることができる	○				○			○		74.5	0.4	B	70	50	◎	
2	3	整式の加法と減法の計算ができる	○				○			○		77.1	1.7	A	75	55	◎	
2	4	等式を目的に応じて変形することができる	○				○			○		53.2	8.5	B	70	50		
3	1	簡単な一元一次方程式を解くことができる	○				○			○		81.1	6.8	A	75	55	◎	
3	2	具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができる	○				○			○		48.9	18.0	C	65	45		
3	3	二元一次方程式の解の意味を理解している	○				○			○		55.0	1.3	B	70	50		
3	4	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	○				○			○		59.1	15.2	B	70	50		
4	1	角の二等分線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している	○				○			○		62.0	1.4	B	70	50		
4	2	平行移動した図形をかくことができる	○				○			○		89.1	3.0	A	75	55	◎	

A問題

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
4	3	扇形の弧の長さを求めることができる	○					○			○	25.8	19.3	B	70	50	▼	
5	1	空間における直線と平面の平行について理解している	○					○			○	58.4	3.1	A	75	55		
5	2	円錐が回転体としてどのように構成されているかを理解している	○					○			○	88.0	0.5	A	75	55	◎	
5	3	見取図に表された立方体の面上の線分の長さの関係を読み取ることができる	○					○			○	79.8	0.7	A	75	55	◎	
5	4	円柱の体積を求めることができる	○					○			○	44.2	9.8	A	75	55	▼	
6	1	鈍角の意味を理解している	○					○			○	46.4	0.7	A	75	55	▼	
6	2	多角形の内角の和の求め方を理解している	○					○			○	67.4	1.0	B	70	50		
7	1	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	○					○			○	63.5	6.3	B	70	50		
7	2	作図の手順を読み、根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している	○					○			○	46.0	1.0	B	70	50	▼	
8		命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取ることができる	○					○			○	74.7	10.5	A	75	55		
9		関数の意味を理解している	○					○			○	17.4	22.9	C	65	45	▼	
10	1	与えられた比例の式について、 x の値に対応する y の値を求めることができる	○					○			○	82.8	8.4	A	75	55	◎	
10	2	与えられた比例のグラフから、 x と y の関係を $y=ax$ の式で表すことができる	○					○			○	53.3	10.4	A	75	55	▼	
10	3	与えられた反比例の表において、比例定数の意味を理解している	○					○			○	29.6	22.3	A	75	55	▼	
11	1	一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、 x と y の関係を $y=ax+b$ の式で表すことができる	○					○			○	75.0	10.5	A	75	55	◎	
11	2	与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している	○					○			○	50.5	2.2	B	70	50		
12		具体的な事象における2つの数量の変化や対応を、グラフから読み取ることができる	○					○			○	64.4	1.3	B	70	50		
13		二元一次方程式を関数を表す式とみて、そのグラフの傾きと切片の意味を理解している	○					○			○	62.4	2.2	B	70	50		
14	1	範囲の意味を理解している	○					○			○	21.0	10.3	A	75	55	▼	
14	2	与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる	○					○			○	44.3	14.4	B	70	50	▼	
15	1	「同様に確からしい」ことの意味を理解している	○					○			○	70.6	2.3	A	75	55		
15	2	簡単な場合について、確率を求めることができる	○					○			○	77.0	8.6	B	70	50	◎	
B 問題	1	1	事象を図形間の関係に着目して観察し、対称性を的確に捉えることができる	○				○			○	65.5	0.2	C	65	45	◎	
	1	2	2つの図形の間を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる	○				○			○	13.9	18.2	C	65	45	▼	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点			問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	①見方や考え方	②技能	③知識・理解	選択式	短答式	記述式				問題分類	十分達成	おおむね達成	
1	3		○						○		○	51.1	0.4	D	60	40		
2	1	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○							○	○	81.8	1.2	B	70	50	◎	
2	2	与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することができる	○						○		○	45.2	8.6	C	65	45		
2	3	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○								○	24.2	21.0	D	60	40	▼	
3	1	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる		○						○	○	89.7	3.7	B	70	50	◎	
3	2	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる		○					○		○	27.6	37.2	D	60	40	▼	
3	3	数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる		○						○	○	31.1	19.4	C	65	45	▼	
4	1	筋道を立てて考え、証明することができる	○						○		○	36.2	27.9	D	60	40	▼	
4	2	付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる	○							○	○	52.5	12.6	B	70	50		
4	3	証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことができる	○						○		○	43.0	1.0	D	60	40		
5	1	資料から必要な情報を適切に読み取ることができる			○					○	○	77.9	5.5	B	70	50	◎	
5	2	与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができる			○				○		○	47.7	1.0	B	70	50	▼	
5	3	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			○				○		○	23.4	32.3	D	60	40	▼	

(4) 地域別の状況

- 県内5地域の算数・数学の学年別平均正答率の対県比は[表12]のとおりで、依然として地域間の学力差がみられる状況にあり、5学年中1学年で、昨年度と比べて地域差が拡大し、5学年中2学年で、縮小している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、中学2年生の1地域で、「おおむね達成」の基準に到達していない。[グラフ23]

[表12] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	算数	H29	1.01	0.99	0.97	1.01	1.04	0.07
		H28	1.01	1.00	0.97	1.01	1.04	0.07
小学校6年生	算数	H29	1.02	1.02	0.97	0.98	0.99	縮 0.05
		H28	1.01	1.02	0.96	1.00	1.00	0.06
中学校1年生	数学	H29	1.01	1.02	0.97	1.00	0.97	縮 0.05
		H28	1.02	1.02	0.97	0.96	1.00	0.06
中学校2年生	数学	H29	1.06	1.00	0.89	0.98	1.03	▲ 0.17
		H28	1.02	1.02	0.92	0.97	1.09	▲ 0.17
中学校3年生	数学	H29	1.01	1.02	0.94	0.98	1.07	▲ 拡 0.13
		H28	1.02	1.00	0.94	1.02	0.99	0.08

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

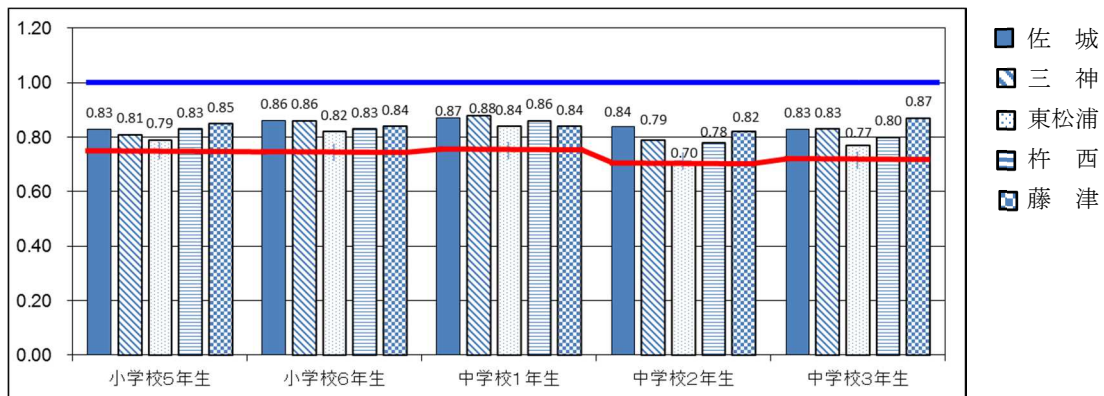
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成28年度調査より地域差が拡大した教科を、「縮」は縮小した教科を示す

[グラフ23] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

IV 児童生徒意識調査（小学5年、中学1年、中学2年）、
児童生徒質問紙調査（小学6年、中学3年）、学校質問紙
調査及び教師意識調査の概要

- ※意識調査は、県調査の児童生徒意識調査及び全国調査の児童生徒質問紙・学校質問紙の回答を分析したものである。（共に、各学校で入力を行ったデータに基づいている。）
- ※クロス集計では、意識調査と教科（国語、算数・数学）平均正答率の2つの項目を掛け合わせてデータの集計を行っている。
- ※教師意識調査の対象は、平成29年2月時点での各学校在籍職員のうち、当該学年・教科を担当していた者である。

(1) 授業に対する関心、理解度、有用性について

- 「各教科の勉強が好き」という問いに対して肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」、以下同じ）をした児童生徒の割合（同一学年）を見ると、次の教科、学年において、前年度を上回っている。

[グラフ 1、2、3、4、5]

- ◇国語－小学6年、中学2年、中学3年
- ◇社会－小学5年、中学2年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇算数（数学）－小学5年、中学2年、中学3年
- ◇理科－中学1年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇英語－中学2年（中学1年、中学3年は意識調査なし）

平成28年度に比べて、前年度を上回った教科、学年は増加している。
（平成28年度：4/17教科 平成29年度：10/17教科）

- 「各教科の勉強が好き」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、各教科とも6割前後であるが、中学1年理科では7割、小学5年理科では8割を超えている。

- 「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合（同一学年）を見ると、次の教科、学年において、前年度を上回っている。 [グラフ 6、7、8、9、10]

- ◇国語－小学6年、中学2年、中学3年
- ◇社会－小学5年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇算数（数学）－中学2年、中学3年
- ◇理科－小学5年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇英語－中学2年（中学1年、中学3年は意識調査なし）

平成28年度に比べて、前年度を上回った教科、学年は同数である。
（平成28年度：8/17教科 平成29年度：8/17教科）

- 「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は概ね7割から9割である。 [グラフ 6、7、8、9、10]

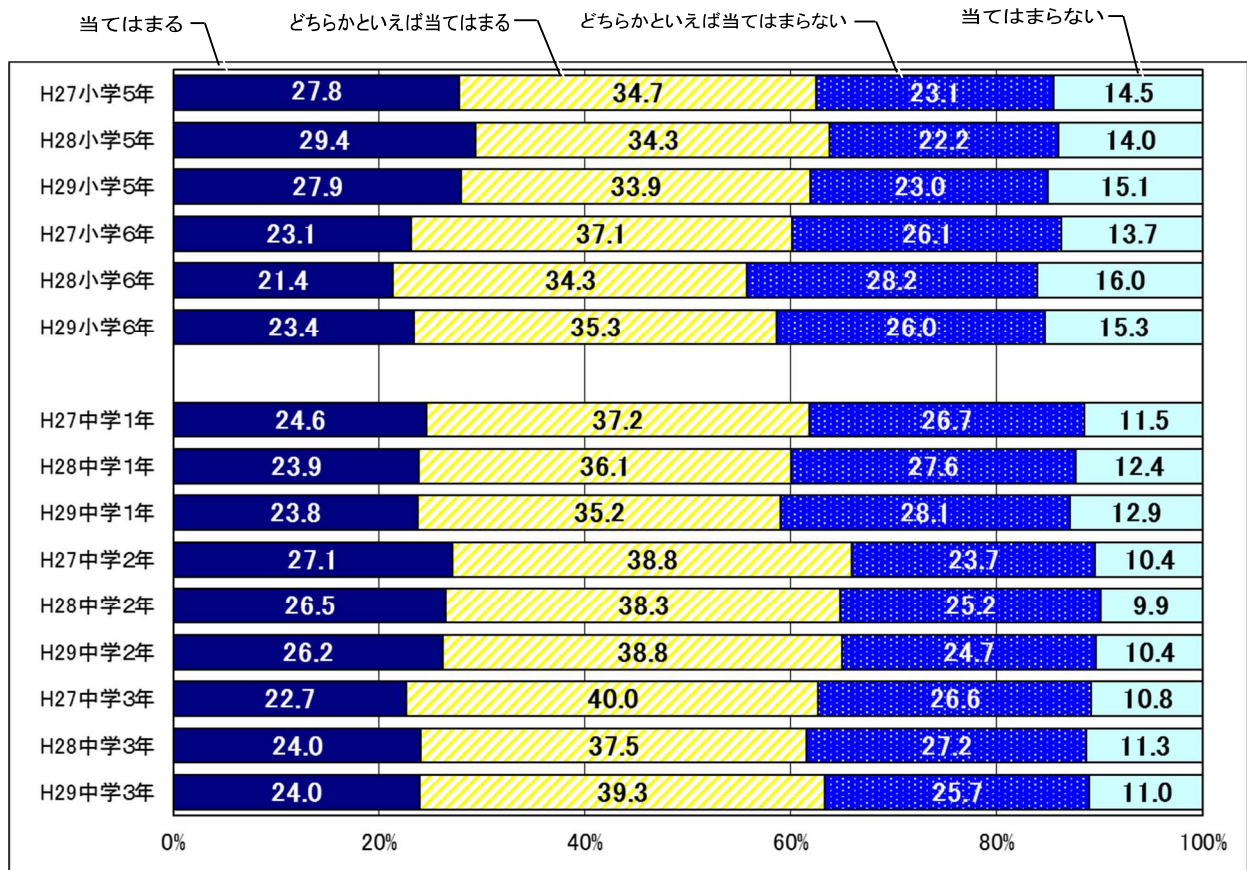
- 「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合（同一学年）を見ると、次の教科、学年において、前年度を上回っている。 [グラフ 11、12、13、14、15]

- ◇国語－小学5年、中学3年
- ◇社会－小学5年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇算数（数学）－小学5年、中学2年、中学3年
- ◇理科－小学5年（小学6年、中学3年は意識調査なし）
- ◇英語－中学2年（中学1年、中学3年は意識調査なし）

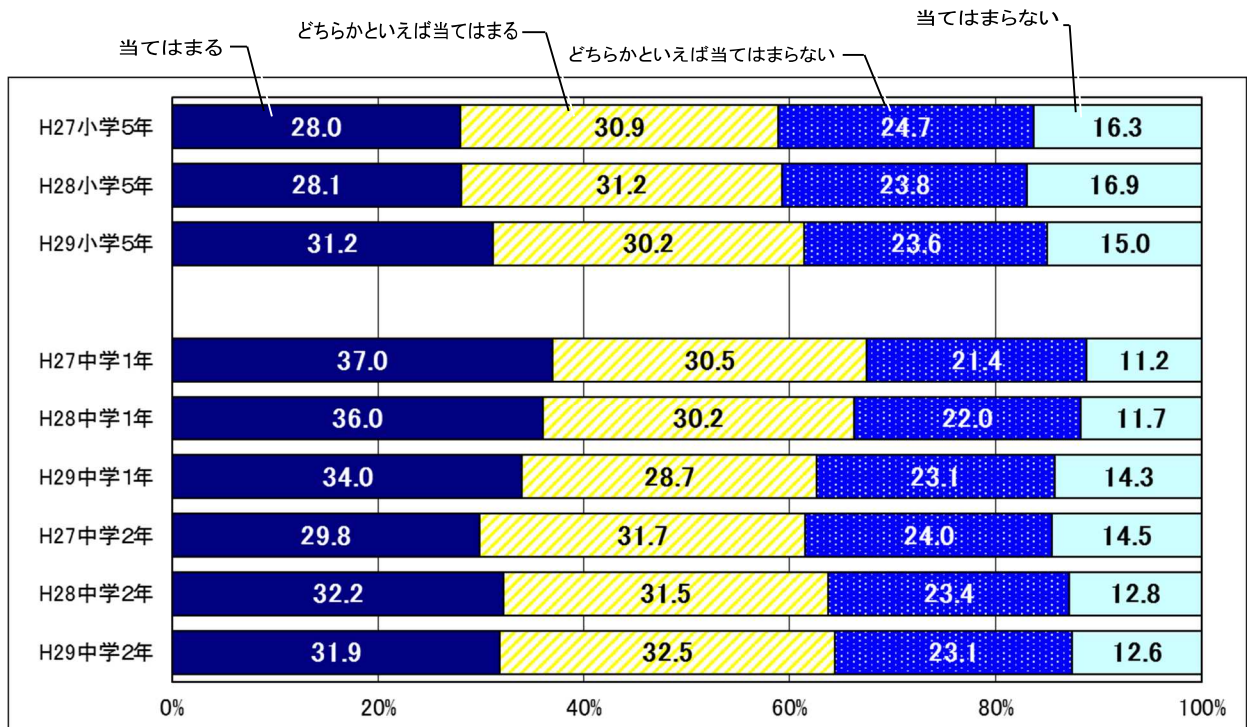
平成28年度に比べて、前年度を上回った教科、学年は減少している。
（平成28年度：9/17教科 平成29年度：8/17教科）

- 「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は概ね7割から9割である。
[グラフ 11、12、13、14、15]

[グラフ1] 国語の勉強は好きだ 平成 27～29 年度 「同一学年」の経年比較

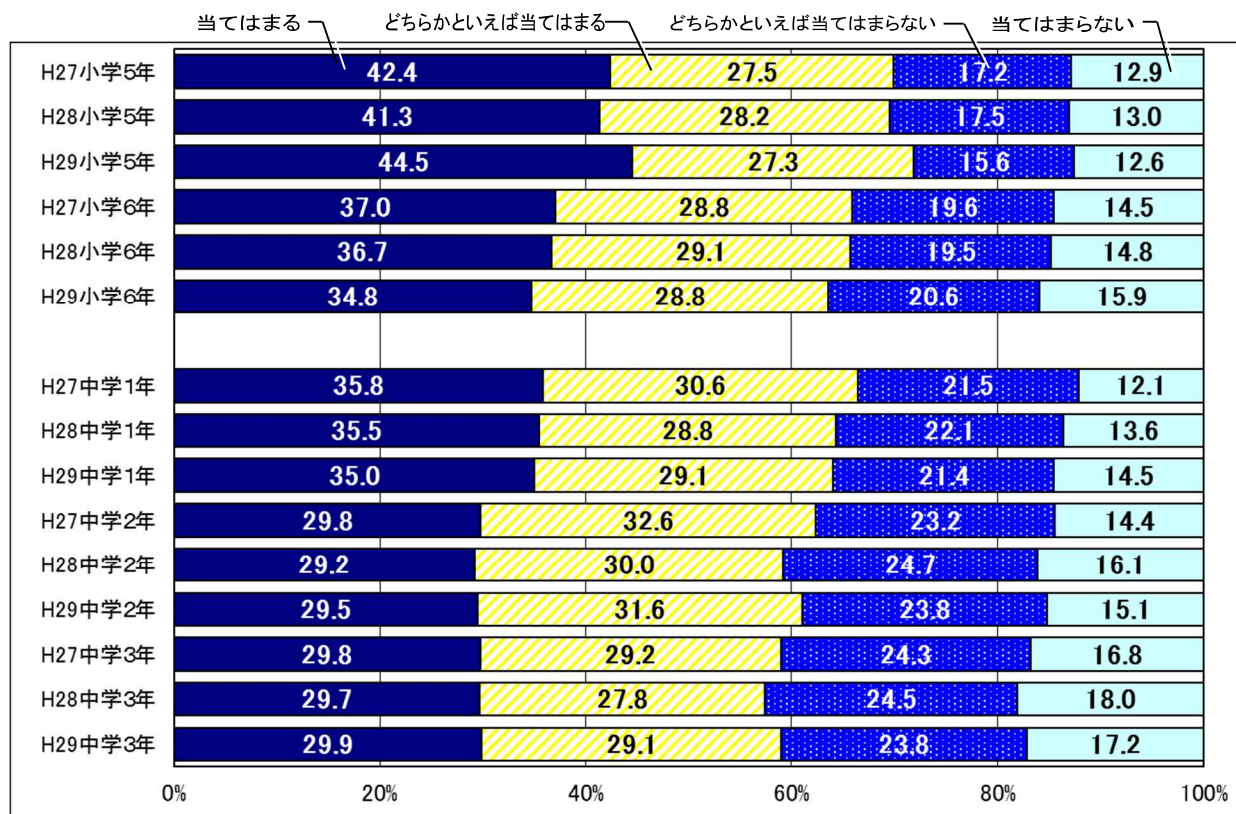


[グラフ2] 社会の勉強は好きだ 平成 27～29 年度 「同一学年」の経年比較

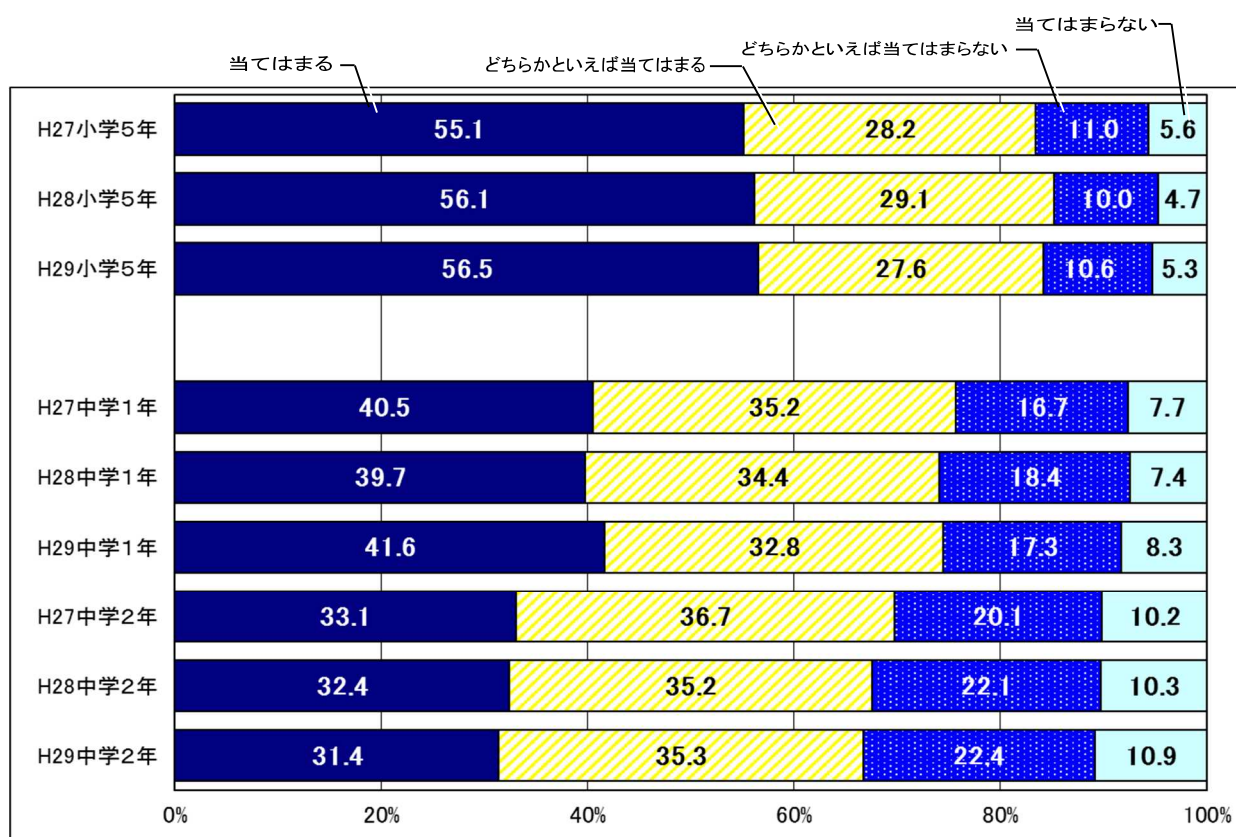


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ3] 算数(数学)の勉強は好きだ 平成 27~29 年度「同一学年」の経年比較

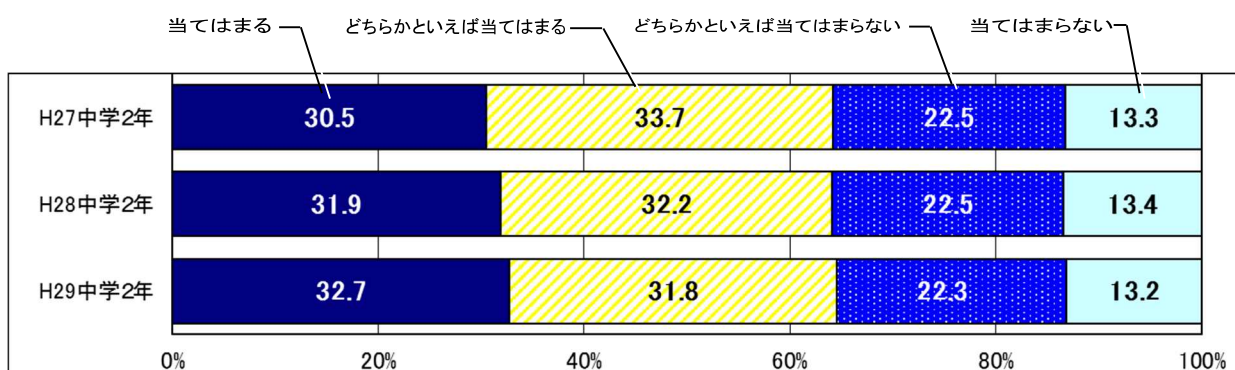


[グラフ4] 理科の勉強は好きだ 平成 27~29 年度「同一学年」の経年比較



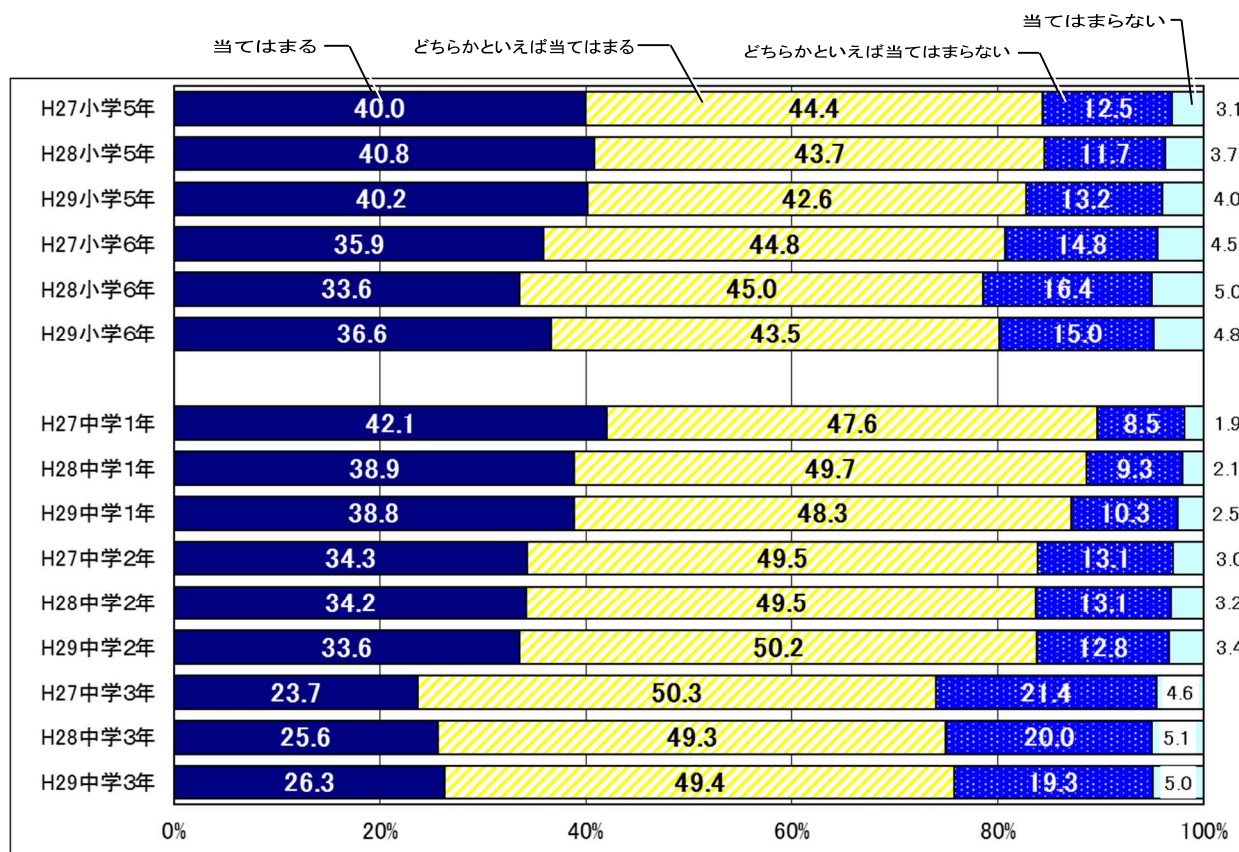
※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ5] 英語の勉強は好きだ(中学2年) 平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較

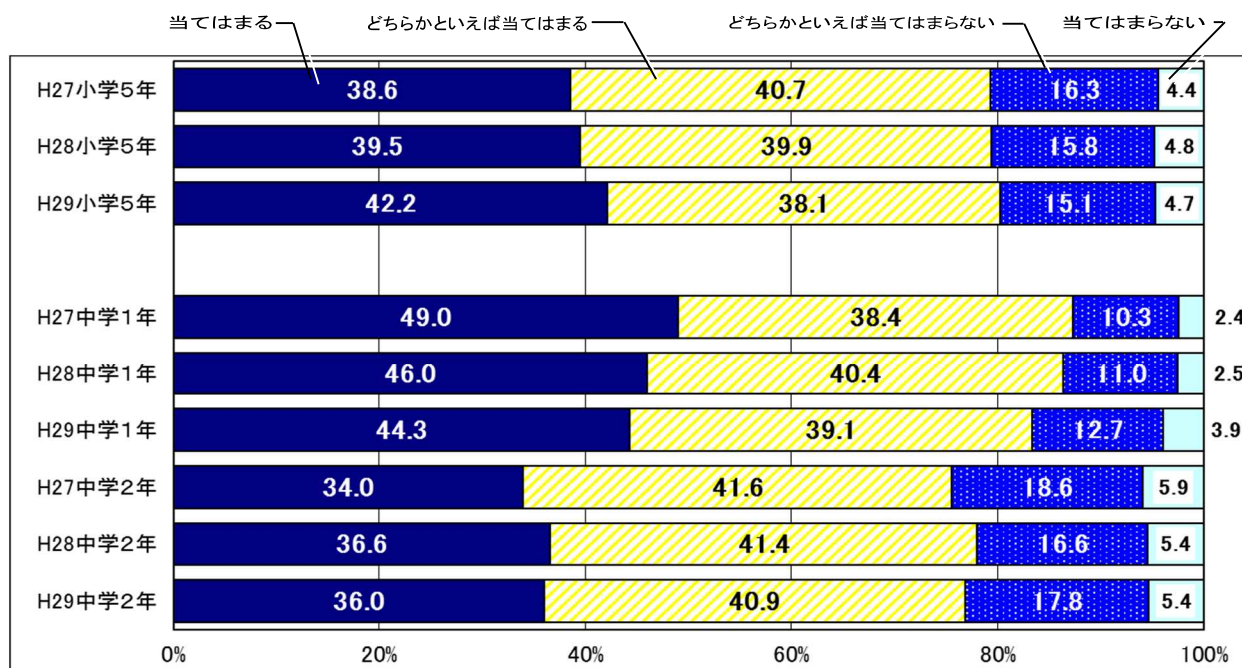


※ 中学1年は、前年度に英語を履修していないため、本質問項目のデータはない。
 ※ 中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ6] 国語の授業の内容はよく分かる 平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較

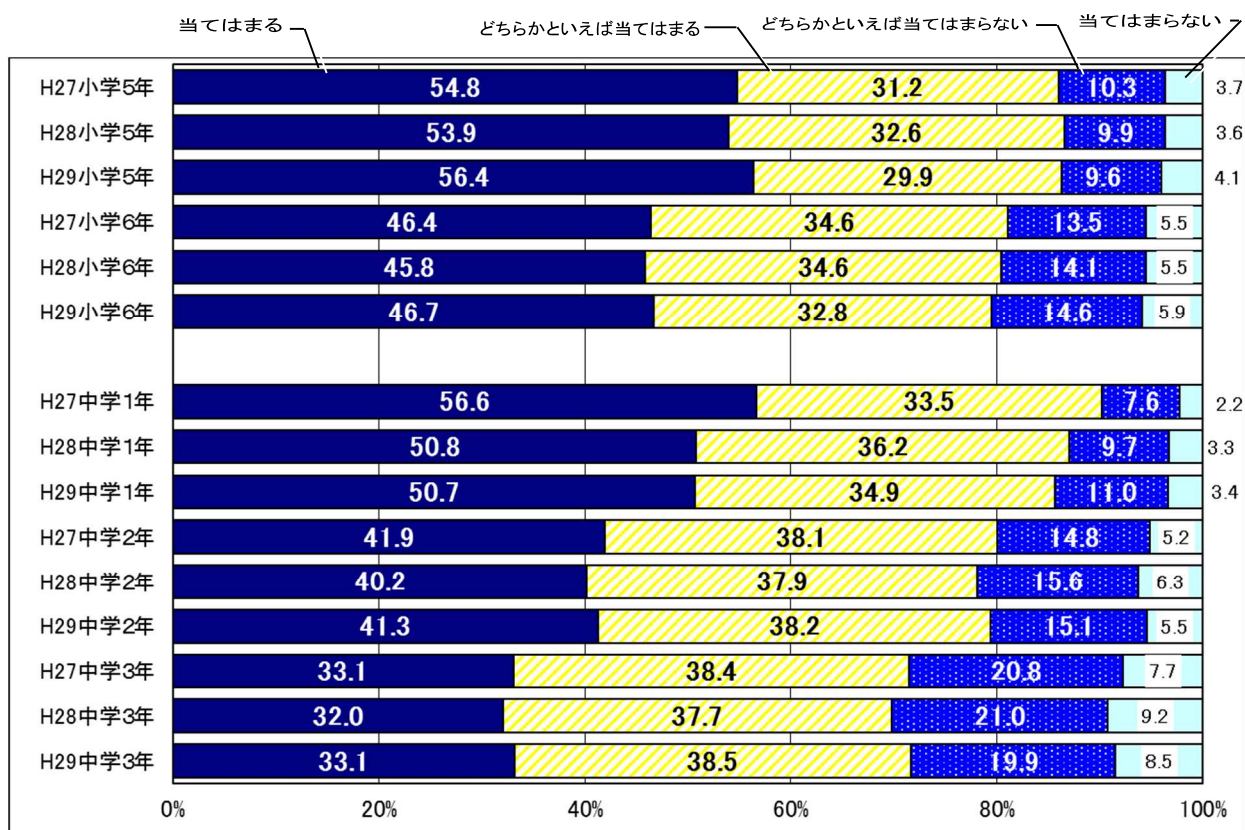


[グラフ7] 社会の授業の内容はよく分かる 平成27～29年度「同一学年」の経年比較

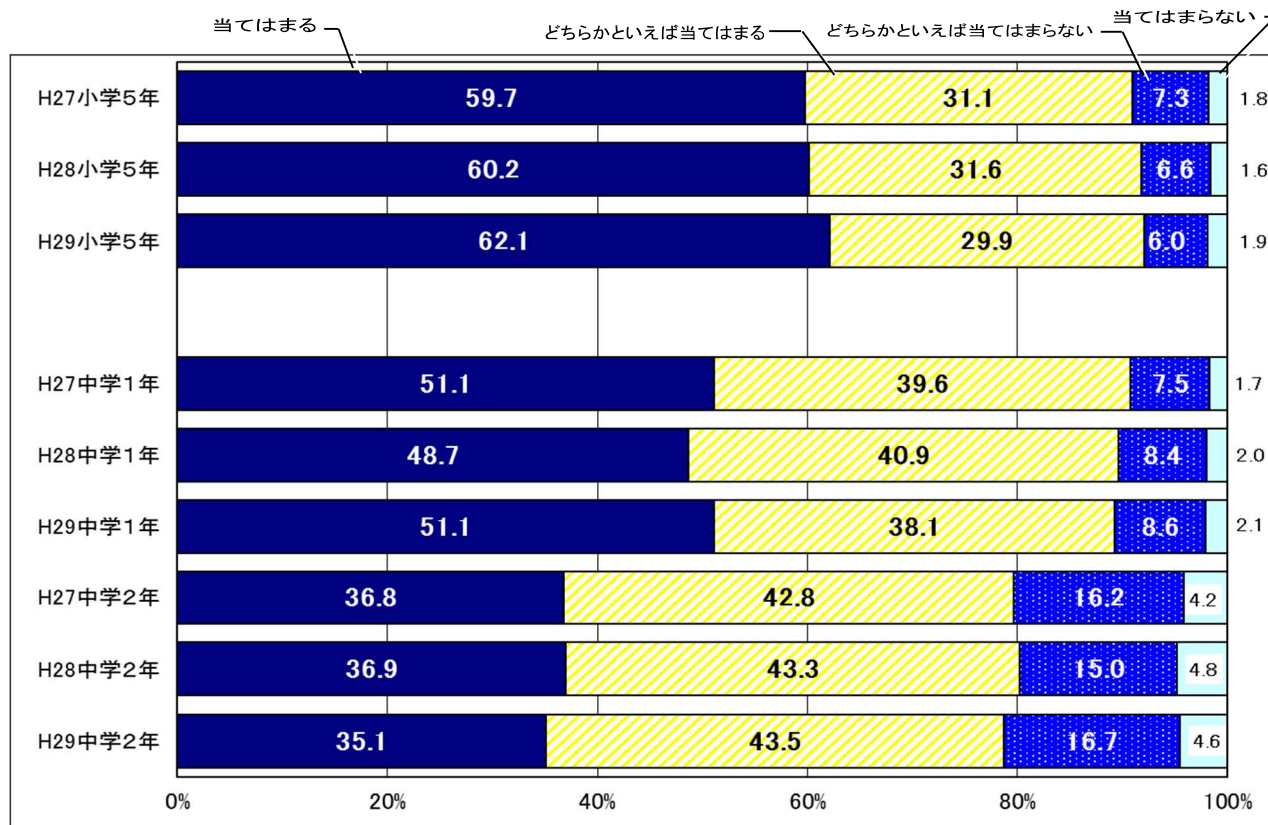


※小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ8] 算数(数学)の授業の内容はよく分かる 平成27～29年度「同一学年」の経年比較

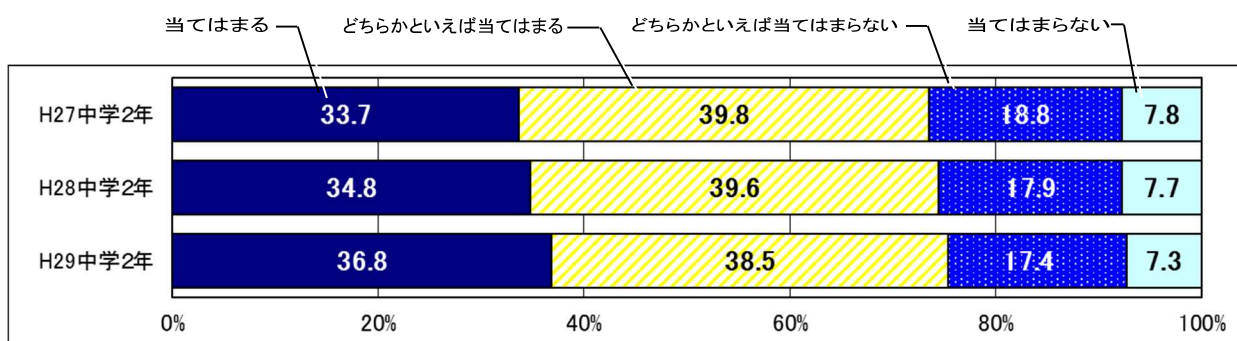


[グラフ9] 理科の授業の内容はよく分かる 平成27～29年度「同一学年」の経年比較



※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

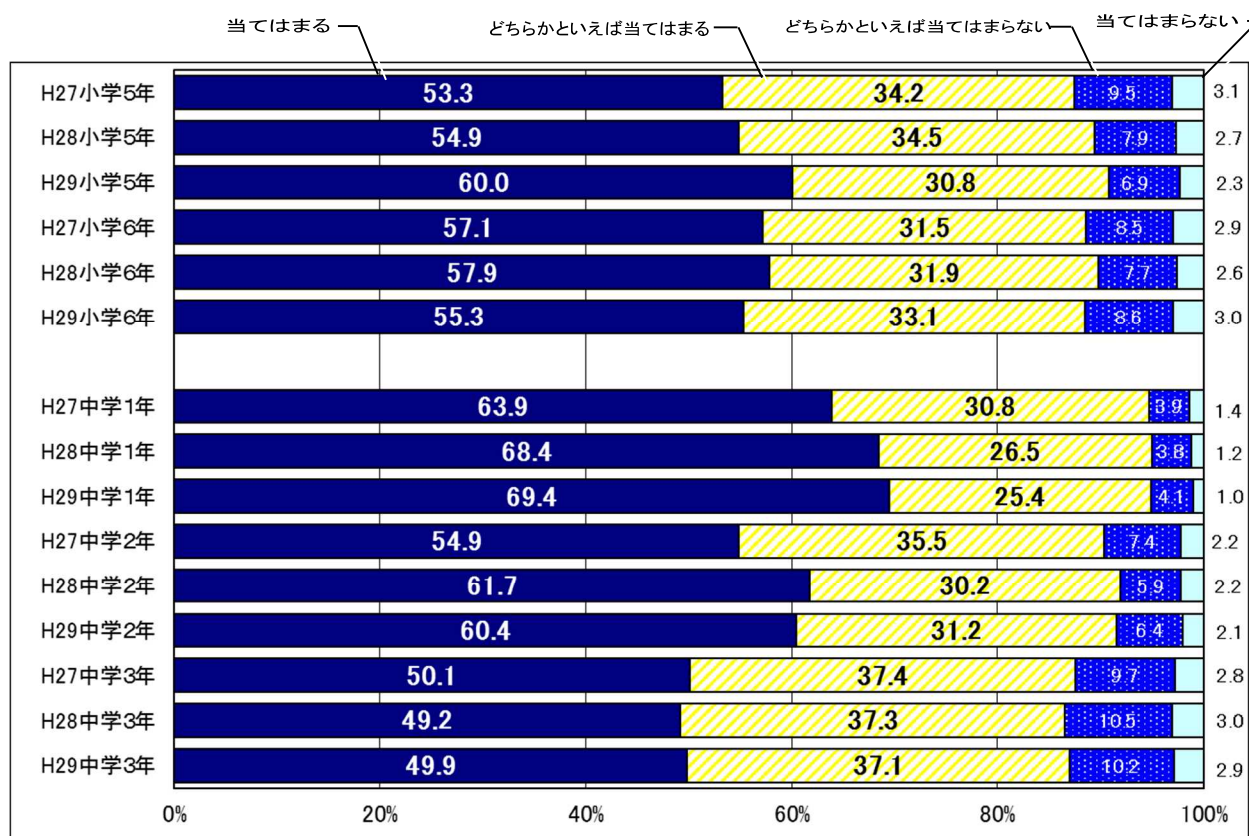
[グラフ10] 英語の授業の内容はよく分かる(中学2年) 平成27～29年度「同一学年」の経年比較



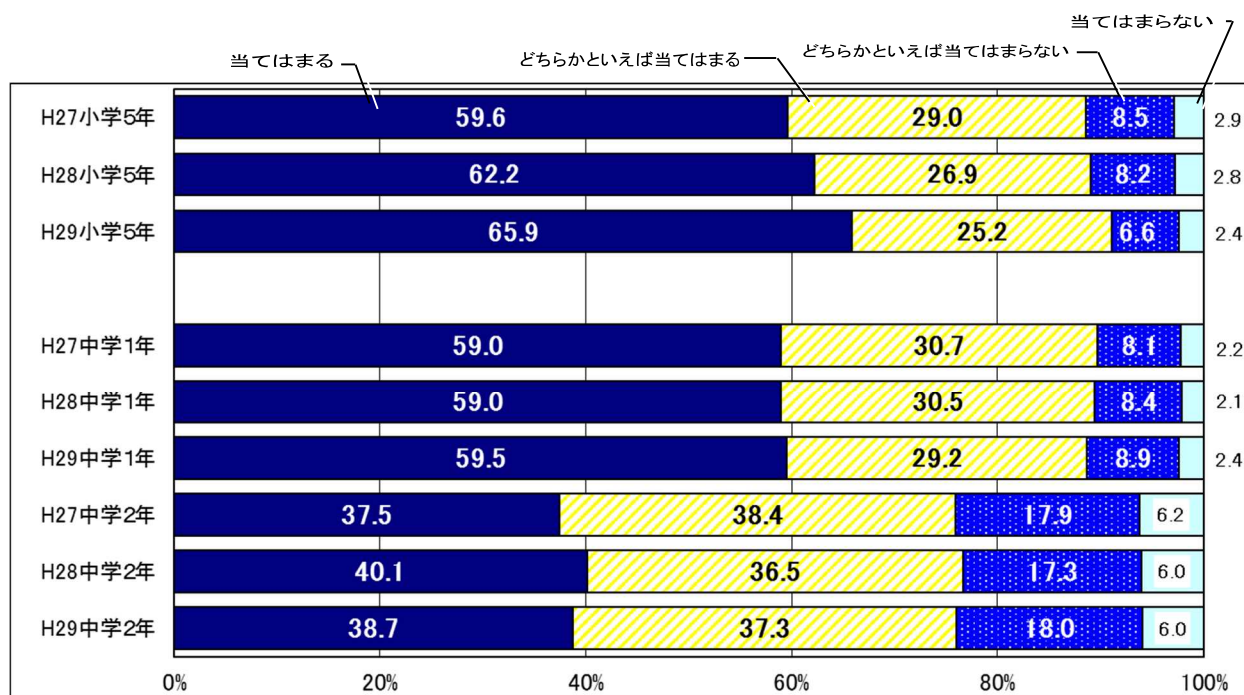
※ 中学1年は、前年度に英語を履修していないため、本質問項目のデータはない。

※ 中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ 11] 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較

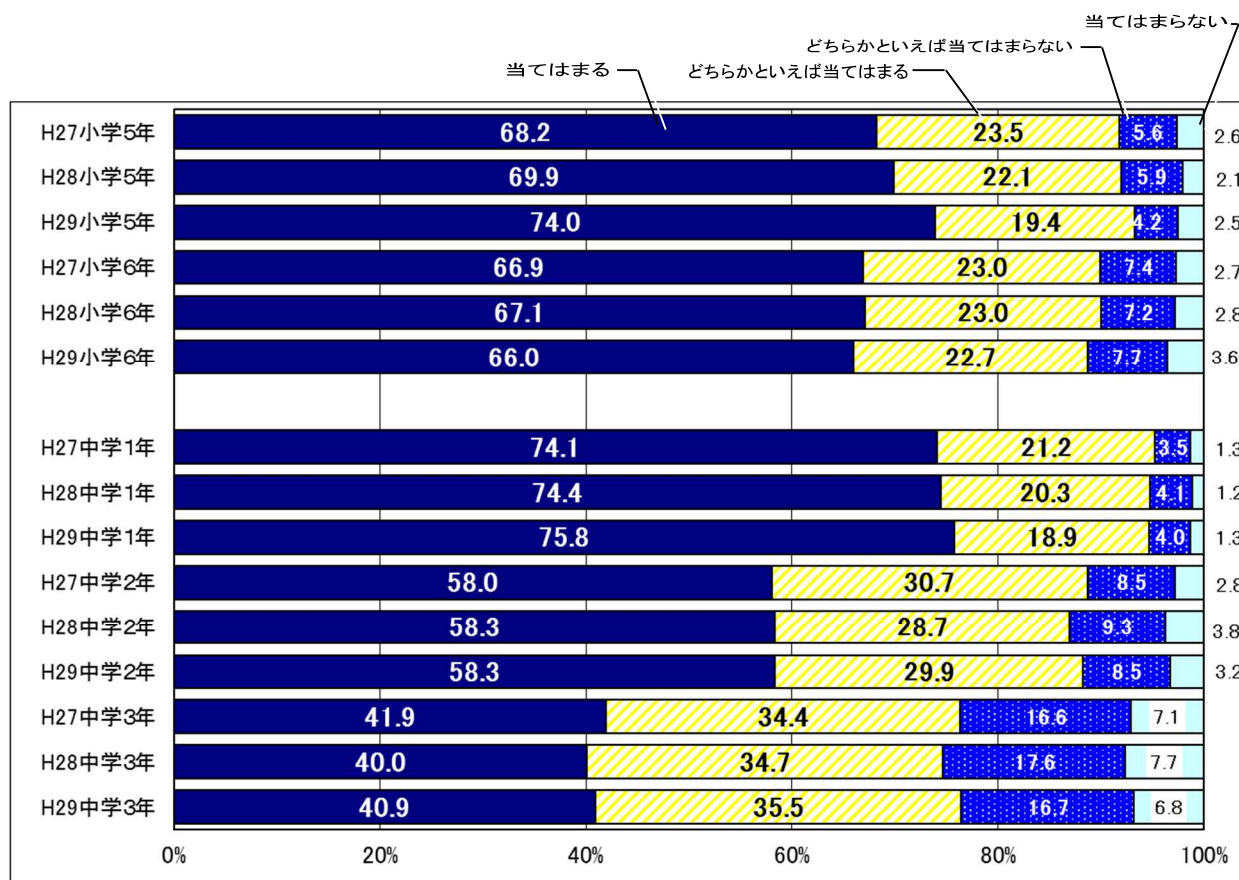


[グラフ 12] 社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較

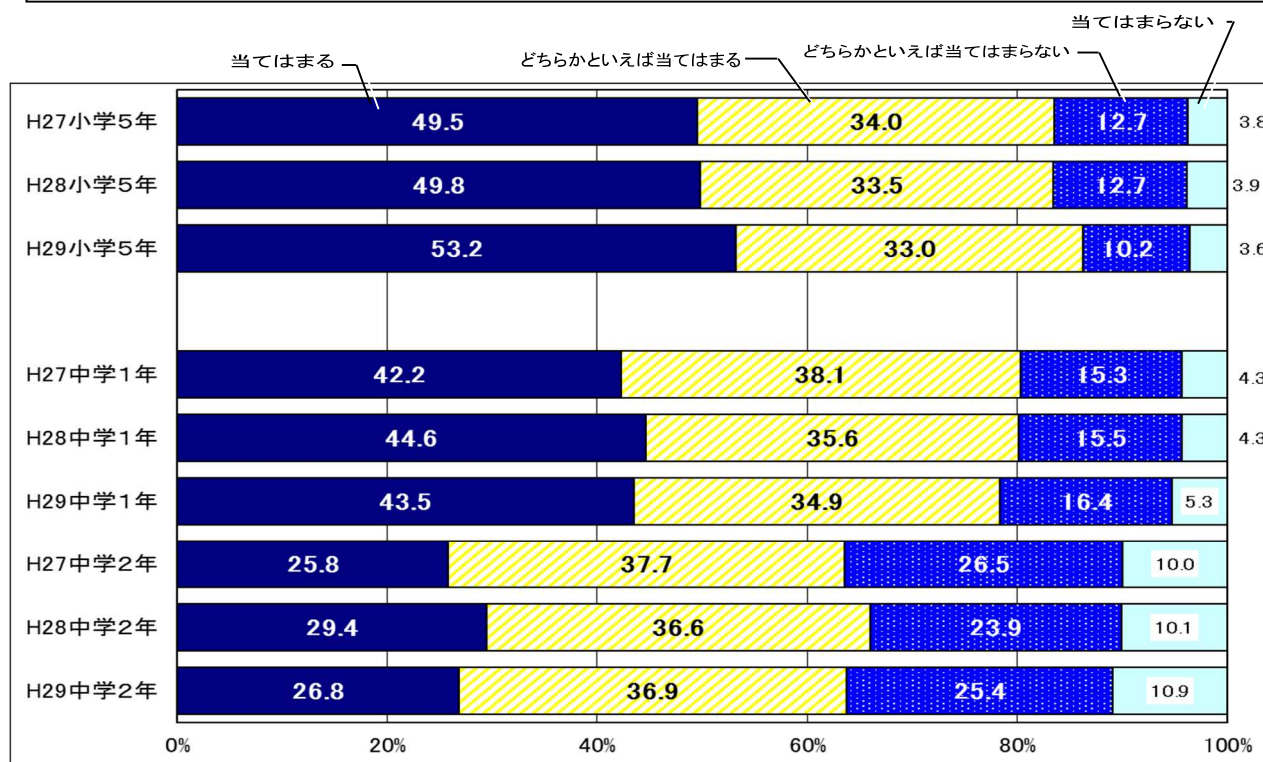


※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ 13] 算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較

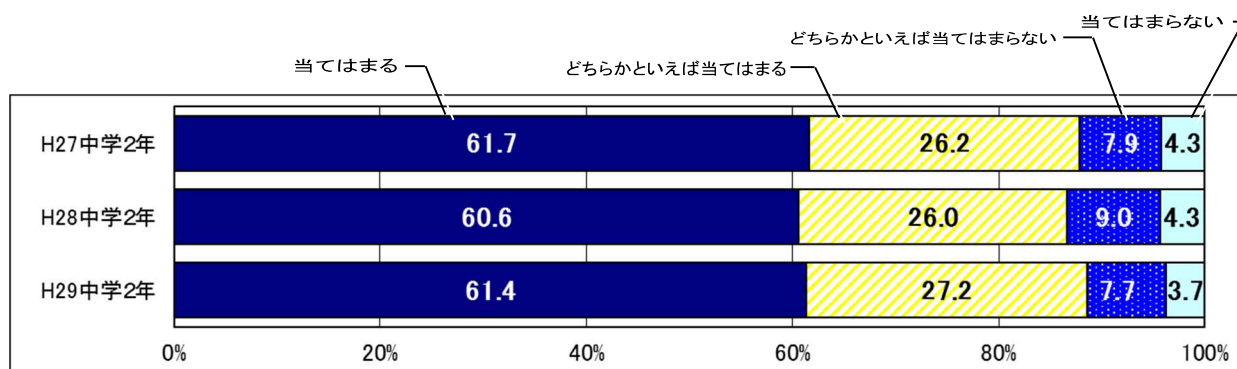


[グラフ 14] 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較



※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ 15] 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較

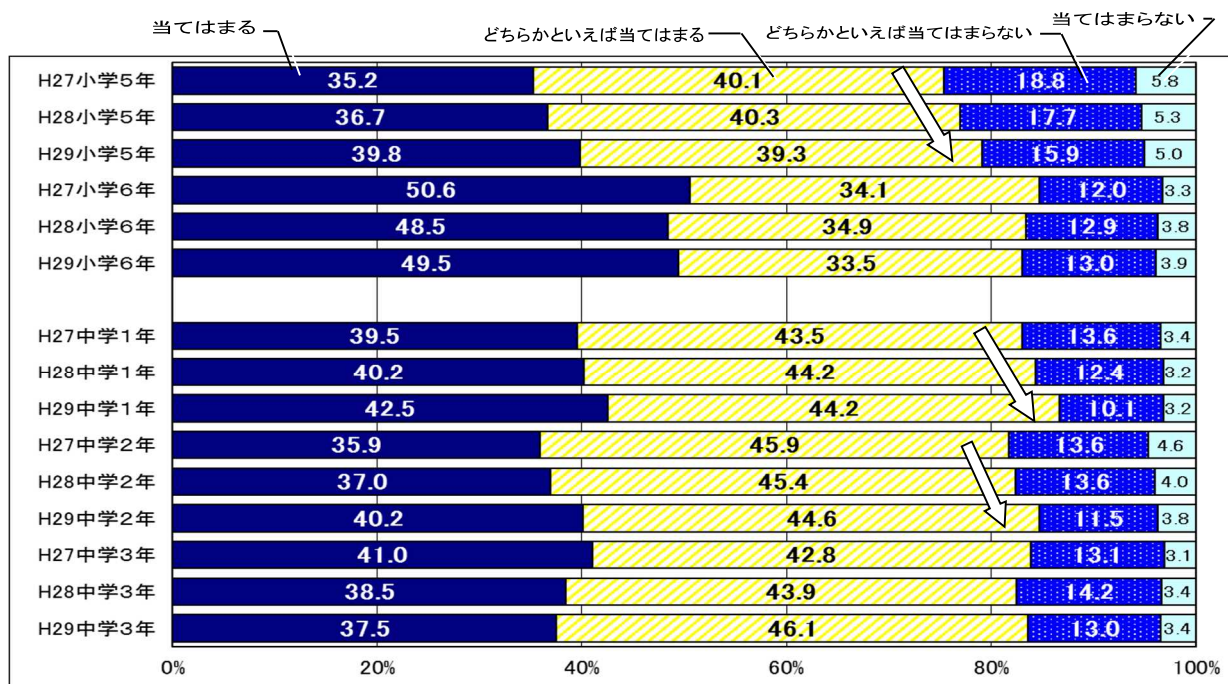


- ※ 中学1年は、前年度に英語を履修していないため、本質問項目のデータはない。
- ※ 中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

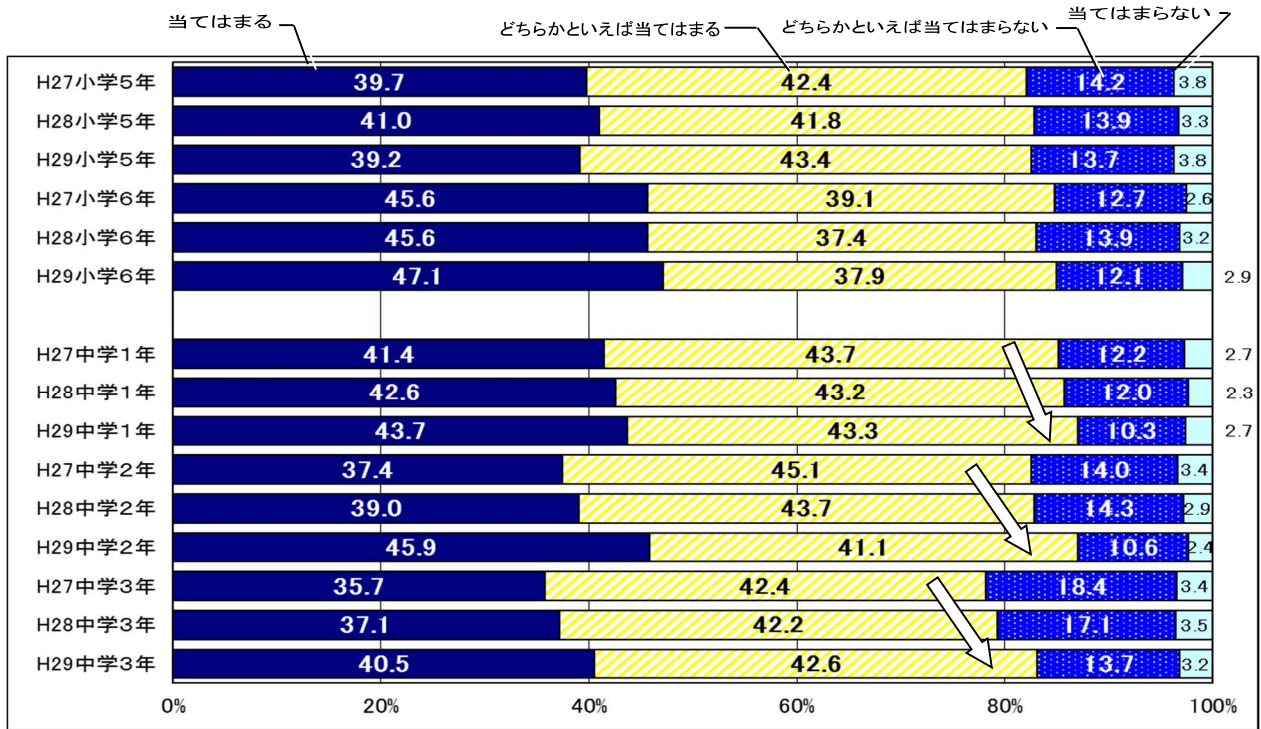
(2) 学校での学習について

- 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年、中学1年、中学2年で増加している。中学3年では、前年度を上回っている。「授業では、学級の友達（生徒）の間に話し合う活動をよく行っていると思う」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中学1年、中学2年、中学3年で増加している。小学6年では、前年度を上回っている。いずれの問いについても、肯定的な回答をした児童生徒の正答率はそうでない児童生徒と比較して高い。
[グラフ 16-1、16-2、17-1、17-2]
- 「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」という問いに対して否定的な（難しいと）回答をした児童生徒の割合は、小学6年、中学2年で減少している。肯定的な（難しくないと）回答をした児童生徒の正答率はそうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 18-1、18-2]
- 「授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていると思う」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は概ね8割～9割で、中学1年以外の全ての学年で前年度を上回っている。小学校では、肯定的な回答をした児童生徒の正答率はそうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 19-1、19-2]
- 各教科の学習活動に関する児童生徒の意識調査の結果を経年で見ると、多くの項目において、肯定的な回答をした児童生徒の割合が増加している。
(増加している項目は 小5 11問/13問中、小6 7問/7問中、中1 6問/13問中、中2 11問/16問中、中3 5問/7問中) [表 1]

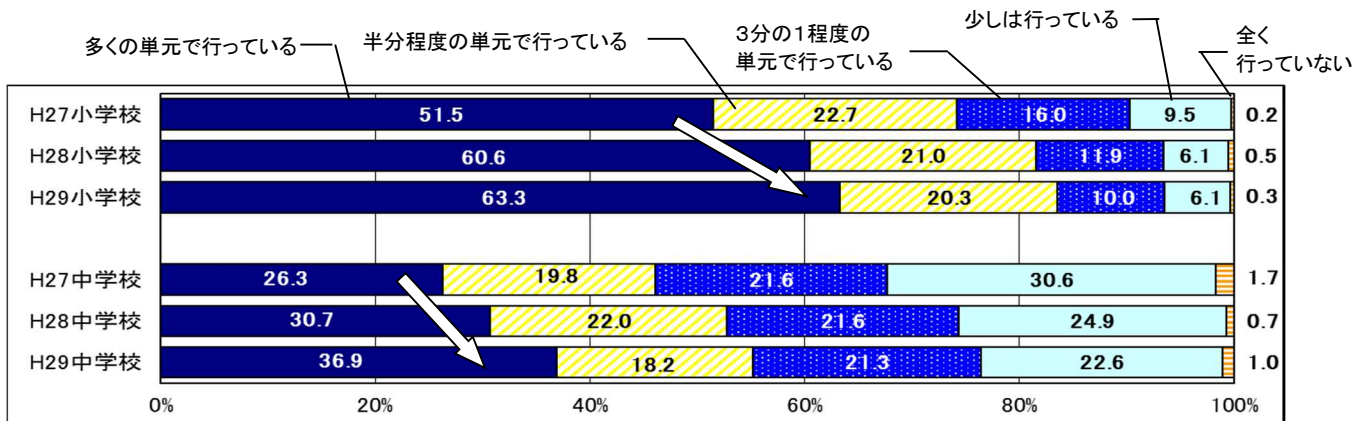
[グラフ 16-1] 授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。
平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 17-1] 授業では、学級の友達(生徒)の間で話し合う活動をよく行っていると思う。
平成 27~29 年度「同一学年」の経年比較

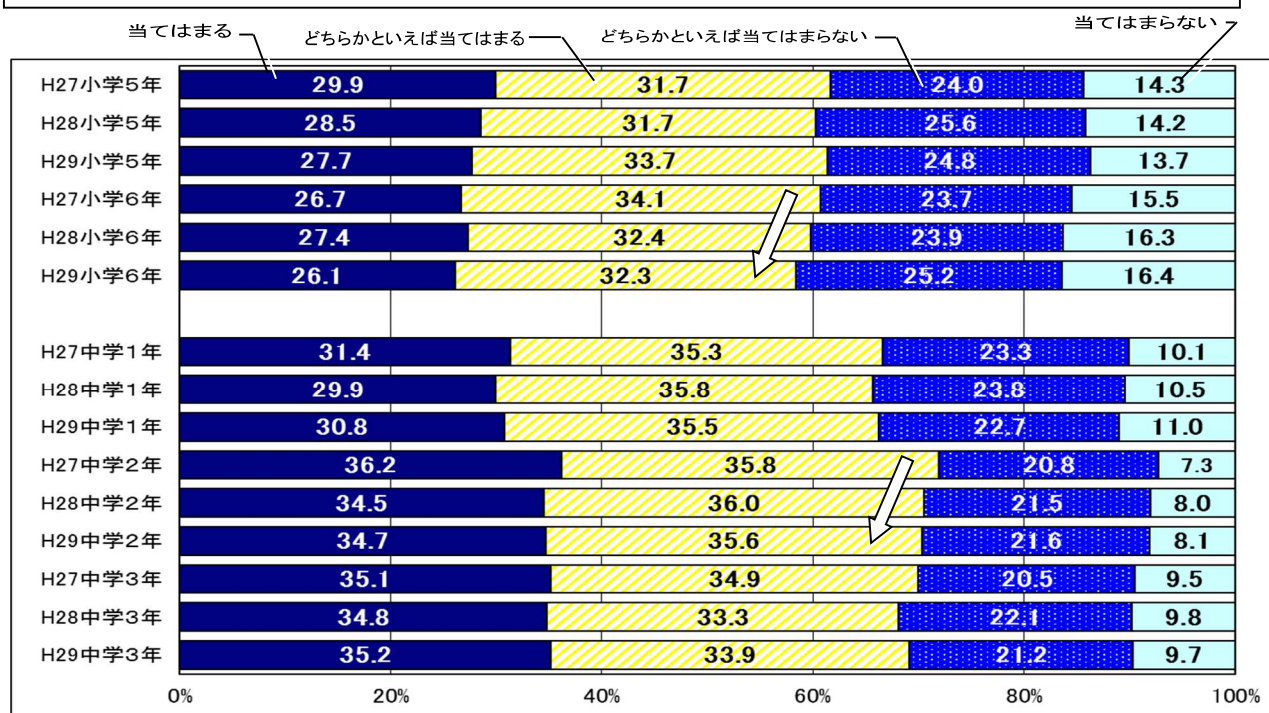


[参考 1] 発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか。※教師意識調査より 平成 27~29 年度の経年比較

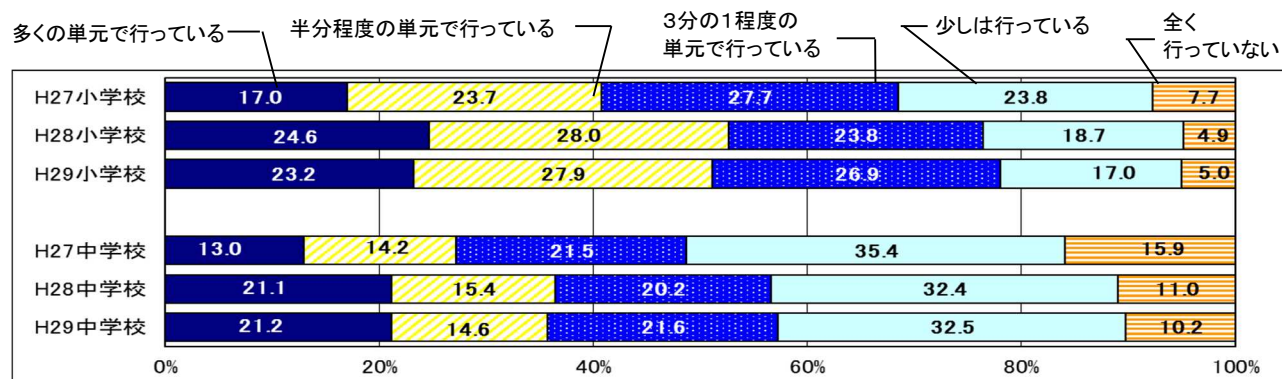


・参考として、教師意識調査において、発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合は、小学校、中学校ともに増加している。[参考 1]

[グラフ 18-1] 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい。平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較



[参考 2] レポートや作文など、書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。
※教師意識調査より 平成 27～29 年度の経年比較



・参考として、教師意識調査において、レポートや作文など、書いて表現する活動を取り入れた授業を「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合は小学校では前年度を下回っており、中学校では前年度とほぼ同じである。[参考 2]

[グラフ 16-2]

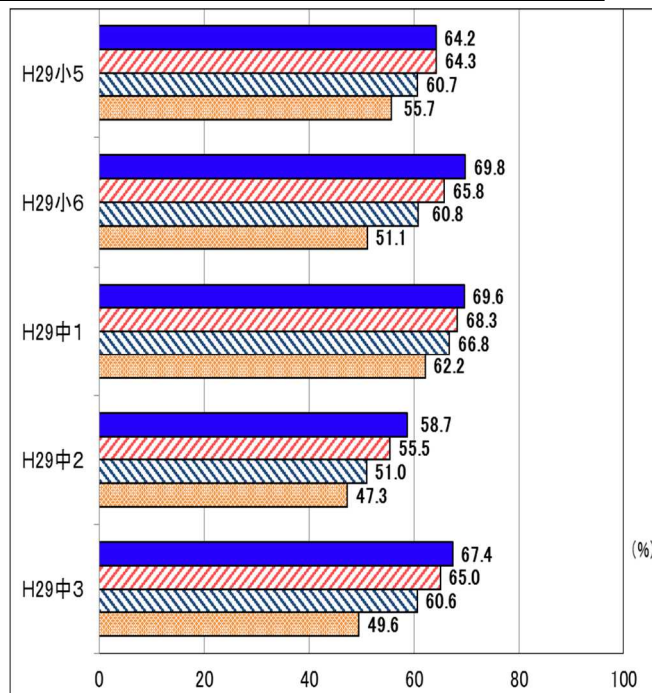
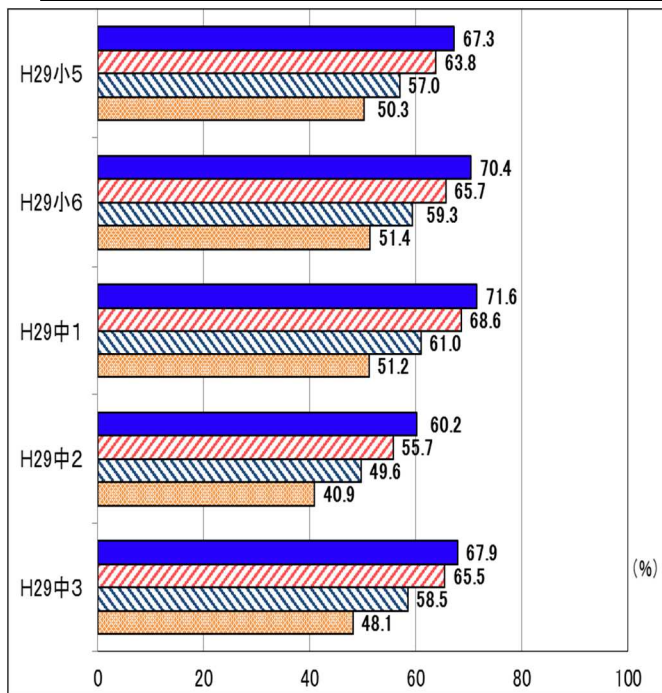
「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

[グラフ 17-2]

「授業では、学級の友達(生徒)の間に話し合う活動をよく行っていると思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

※児童生徒の回答は、上から

「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」の順



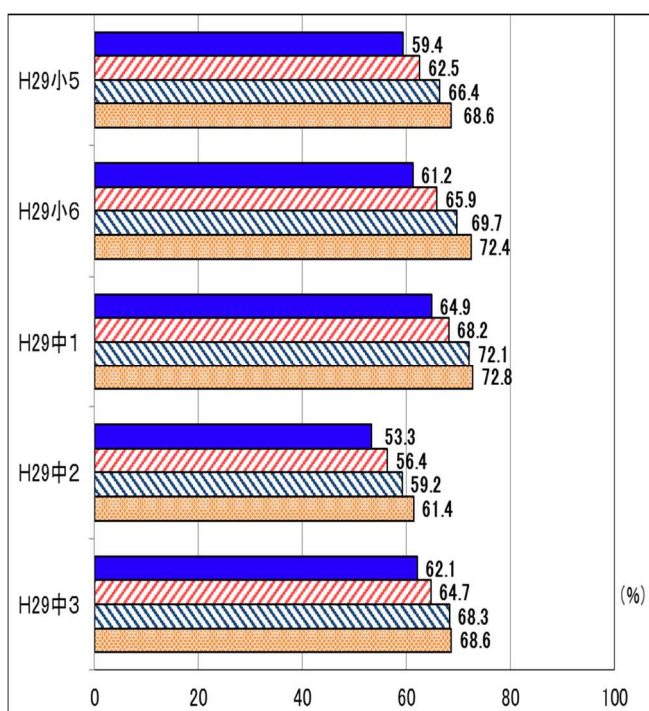
[グラフ 18-2]

「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

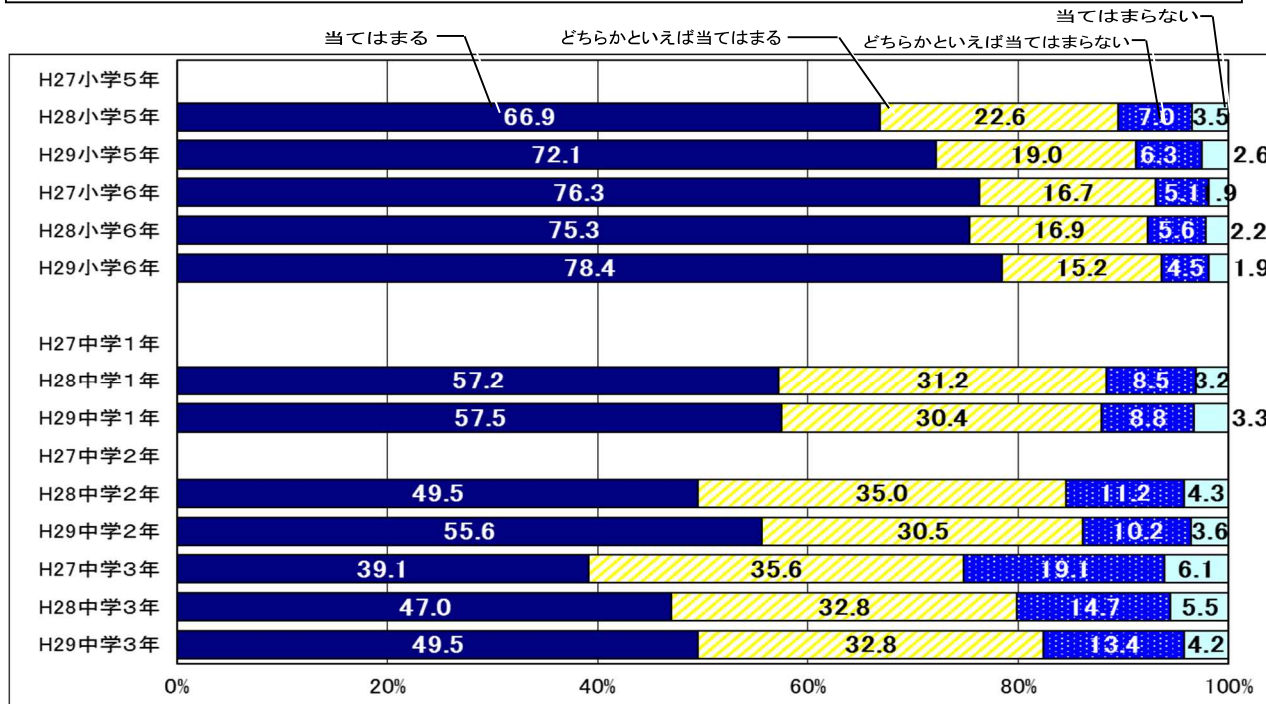
・「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」と回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 16-2]

・「授業では、話し合う活動をよく行っていると思う」という問いについても、同様の傾向がみられる。[グラフ 17-2]

・「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答した児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して低い。[グラフ 18-2]

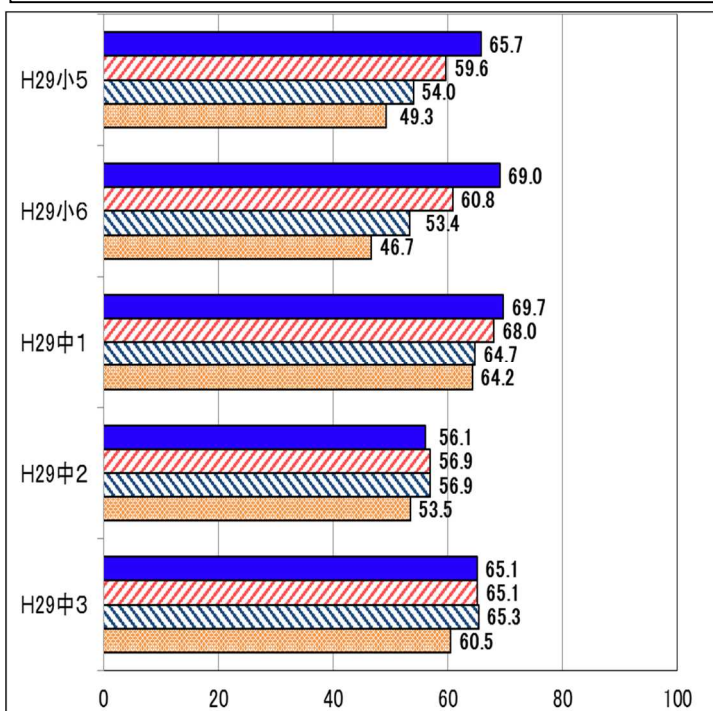


[グラフ 19-1] 授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思う。



※ 全国調査の質問紙調査に合わせて、平成 28 年度から県調査の意識調査に追加した質問項目であるため、H27 の小学 5 年、中学 1 年、中学 2 年のデータはない。

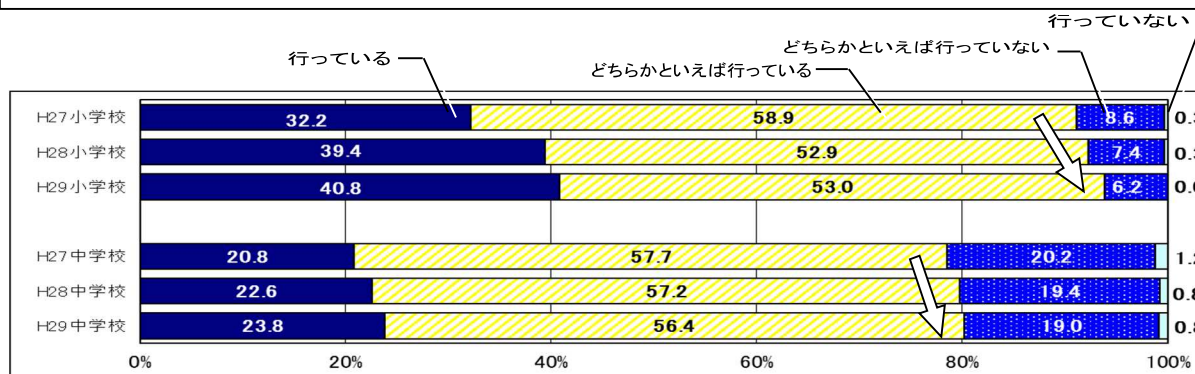
[グラフ 19-2] 「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思う。」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



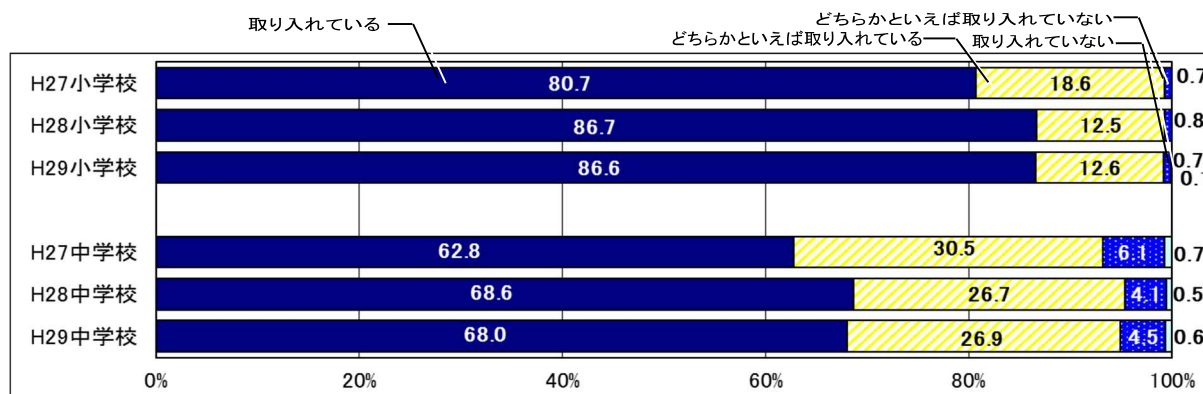
※児童生徒の回答は、
上から「当てはまる」
「どちらかといえば、当てはまる」
「どちらかといえば、当てはまらない」
「当てはまらない」の順

- ・小学校では、約 9 割、中学校では、約 8 ～ 9 割の児童生徒が肯定的な回答をしている。[グラフ 19-1]
- ・小学校と中学 1 年では、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていると思う」と回答した児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。
[グラフ 19-2]

[参考 3] ノートのまとめ方や話し合いの進め方など、学習方法についてきめ細やかに指導を行っていますか。※教師意識調査より 平成 27～29 年度の経年比較



[参考 4] 授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れていますか。※教師意識調査より 平成 27～29 年度の経年比較



[参考 5] 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか。※教師意識調査より 平成 27～29 年度の経年比較

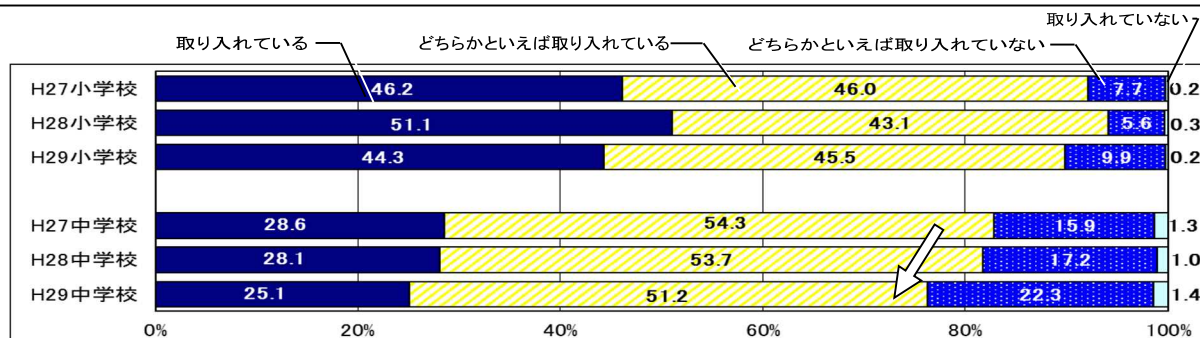


表1 各教科の学習活動に関する意識調査の経年の推移(H27→H28→H29)

各教科の質問項目に肯定的に(「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と)回答した児童生徒

番号	質問項目	小5	小6	中1	中2	中3	備考
1	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。	↗	↗	↗	↗	↗	
2	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。	↗	↗	↗↘	↗↘	↗	
3	国語の授業で自分の考えを書くと、考えの理由が分かるように気をつけて書いている。	↗↘	↗	↘	↗↘	↗	
4	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる。	↗	↗	↗	↗	↗	H29 小6、中3なし
5	社会の授業で自分が調べたり、考えたりするをはっきり分かって学習している。	↗	—	↘	↗	—	H28 から調査 小6、中3は実施していない
6	社会の授業で、自分が調べて分かったことや考えたことをもとに話し合っている(討論している)。	↗↘	—	↗	↗	—	小6、中3は実施していない
7	社会科の授業で、調べて分かったことや考えたことを自分でまとめ、ノートやワークシートなどに書いている。	↗	—	↗	↗	—	H28 から調査 小6、中3は実施していない
8	算数(数学)の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える。	↗	↗	↗	↗	↗	
9	算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしている。	↗	↗	↘↗	↗	↘↗	
10	算数(数学)の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。	↗	↗	↘↗	↗↘	↘↗	
11	理科の授業で、自分が何を調べるのかははっきり分かって観察や実験を行っている。	↗	—	↗↘	↗	—	小6、中3は実施していない
12	理科の授業で、自分で考えたことを図や言葉(文)で表したり、友達と話し合ったりしている。	↗	—	↘↗	↗	—	小6、中3は実施していない
13	理科の授業で学習したことを普段の生活に生かせないか考えたり、学習したことが生かされているものを、身の回りから見つけたりしている。	↗	—	↗	↗↘	—	小6、中3は実施していない
14	英語の授業で、与えられたテーマについて、英語で簡単なスピーチをすることは好きだ。	—	—	—	↘↗	—	小5、小6、中1、中3は実施していない
15	英語の授業で、身近な話題について自分の考えや気持ちなどを英語で書くことは難しいと思う。	—	—	—	↘↗	—	小5、小6、中1、中3は実施していない
16	英語の授業で英語を聞いたり読んだりするとき、大まかな流れや大切な部分をつかみながら聞いたり読んだりしている。	—	—	—	↗	—	小5、小6、中1、中3は実施していない

経年で増加している項目数 (↗)	11	7	6	11	5
経年で減少している項目数 (↘)	0	0	2	0	0
経年で増加し、減少している項目数 (↗↘)	2	0	2	3	0
経年で減少し、増加している項目数 (↘↗)	0	0	3	2	2

※ 小6、中3については、全国学力・学習状況調査の質問紙調査実施のため、国語、算数・数学の調査のみ実施

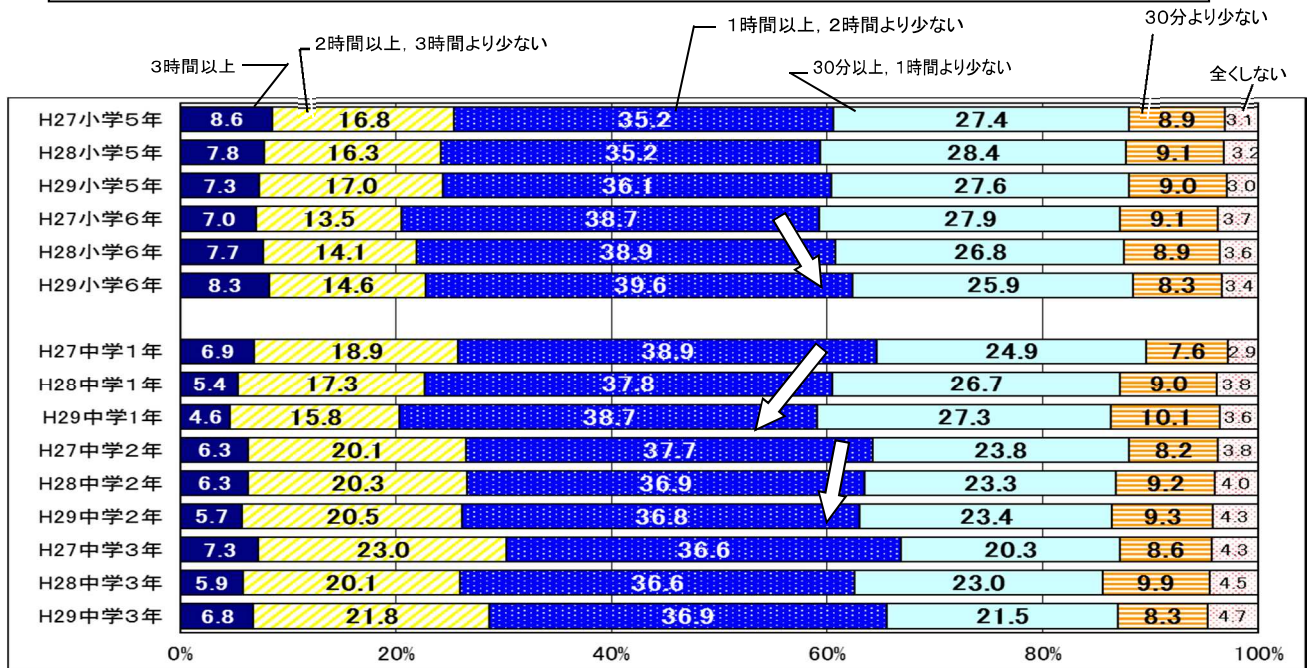
※ 英語の意識調査は中2のみ実施

※ 設問 15(英語)については、「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」、つまり、難しいと思わない生徒を「肯定的」としている。

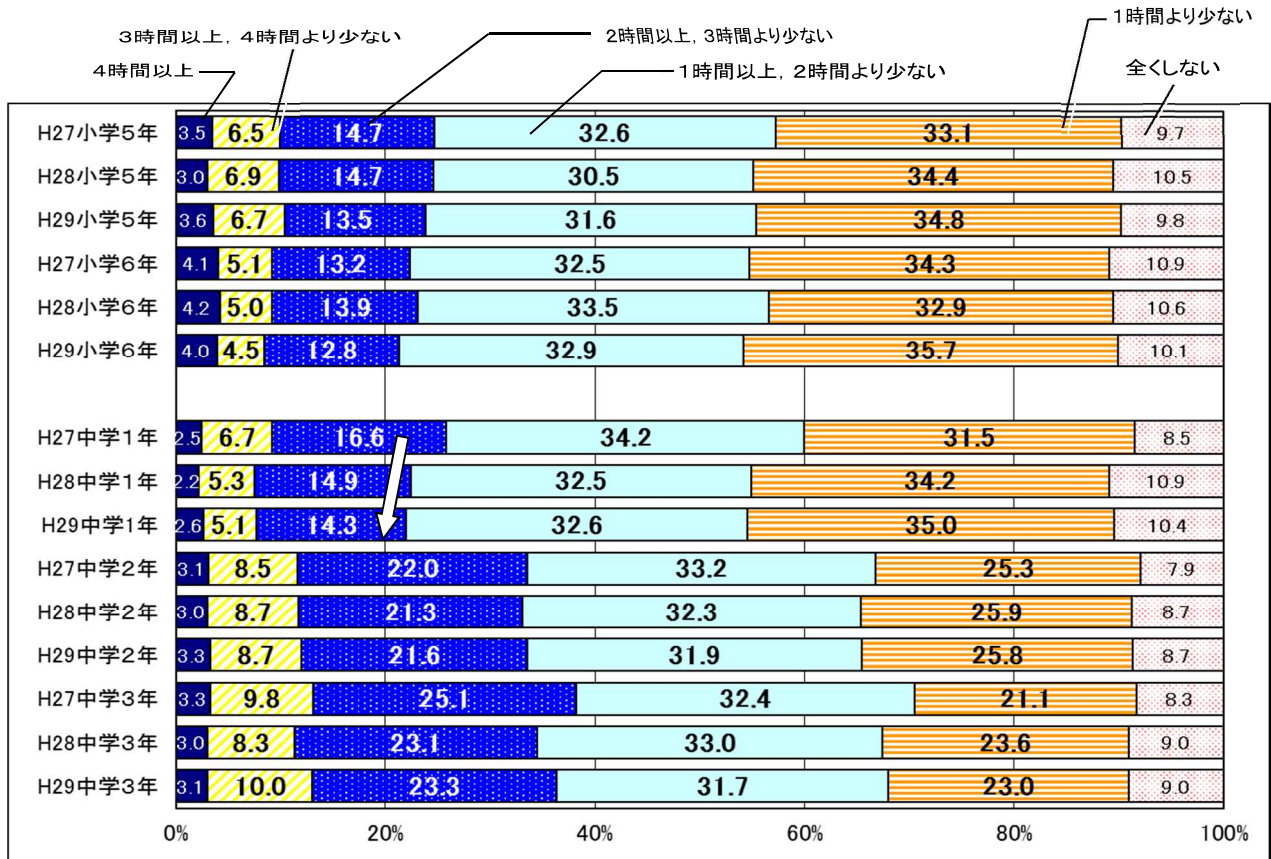
(3) 家庭での学習について

- 家庭での勉強時間において、平日に1時間以上取り組んでいる児童生徒の割合は、小学6年で増加しているが、中学1年、中学2年で減少している。小学5年、中学3年では前年度を上回っている。[グラフ 20]
- 家庭での勉強時間において、学校が休みの日に2時間以上取り組んでいる児童生徒の割合は、中学1年で減少しており、小学5年、小学6年で前年度を下回っているが、中学2年、中学3年で前年度を上回っている。[グラフ 21]
- 家庭学習の取組において、「自分で計画を立てて勉強している」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年、中学2年で増加しており、その他の全ての学年で前年度を上回っている。[グラフ 22-1]
- 教科平均正答率との相関を見ると、「自分で計画を立てて勉強している」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 22-2]
- 家庭学習の取組において、「学校の宿題をしている」という問いに対して「している」と回答をした児童生徒の割合は、小学5年、中学2年で増加しており、小学6年、中学1年で前年度を上回っている。中学3年では前年度を下回っている。小学校と中学1年では約9割、中学2年は約8割、中学3年では約7割である。[グラフ 23]
- 家庭学習の取組において、「学校の授業の予習をしている」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年で増加しているが、その他の全ての学年で減少している。また、「学校の授業の復習をしている」という問いに対しては、小学5年で増加しており、中学1年、中学3年で前年度を上回っている。
[グラフ 24、25]

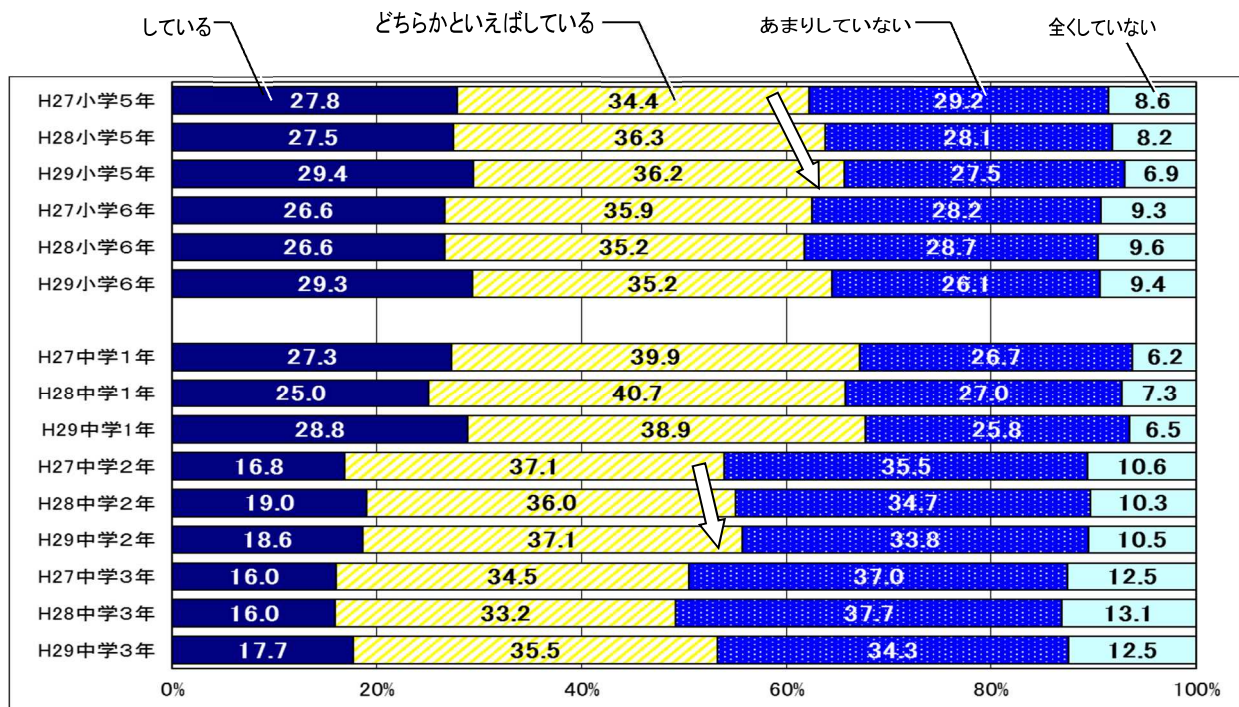
[グラフ 20] 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む) 平成 27~29 年度「同一学年」の経年比較



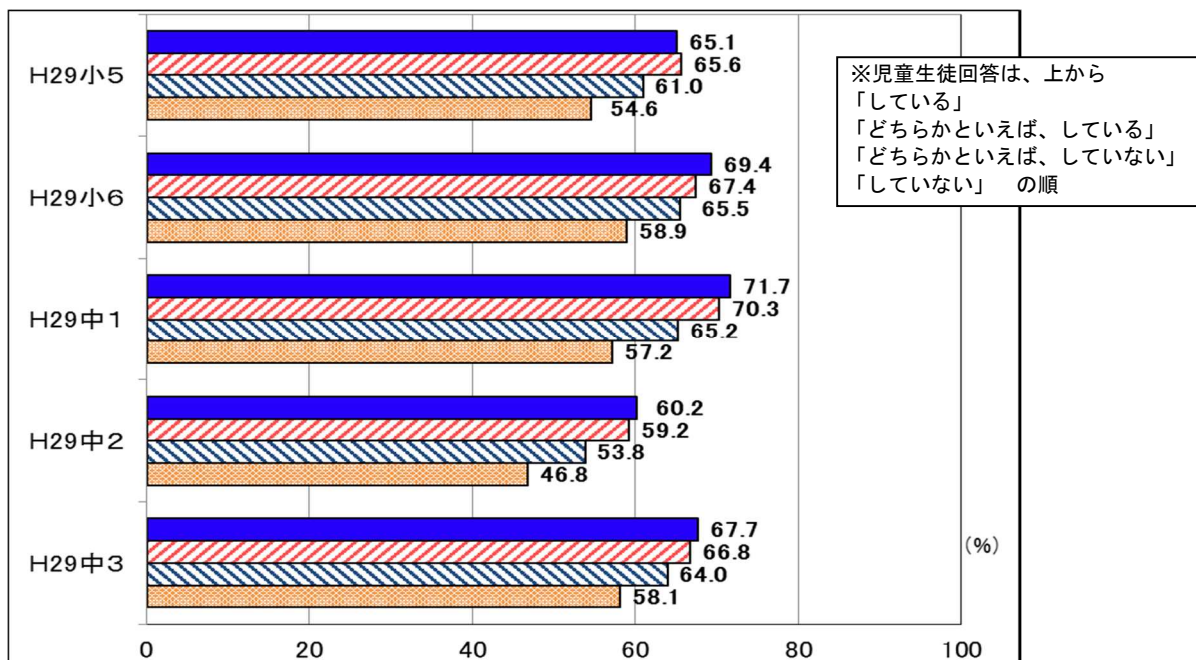
[グラフ 21] 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)
平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較



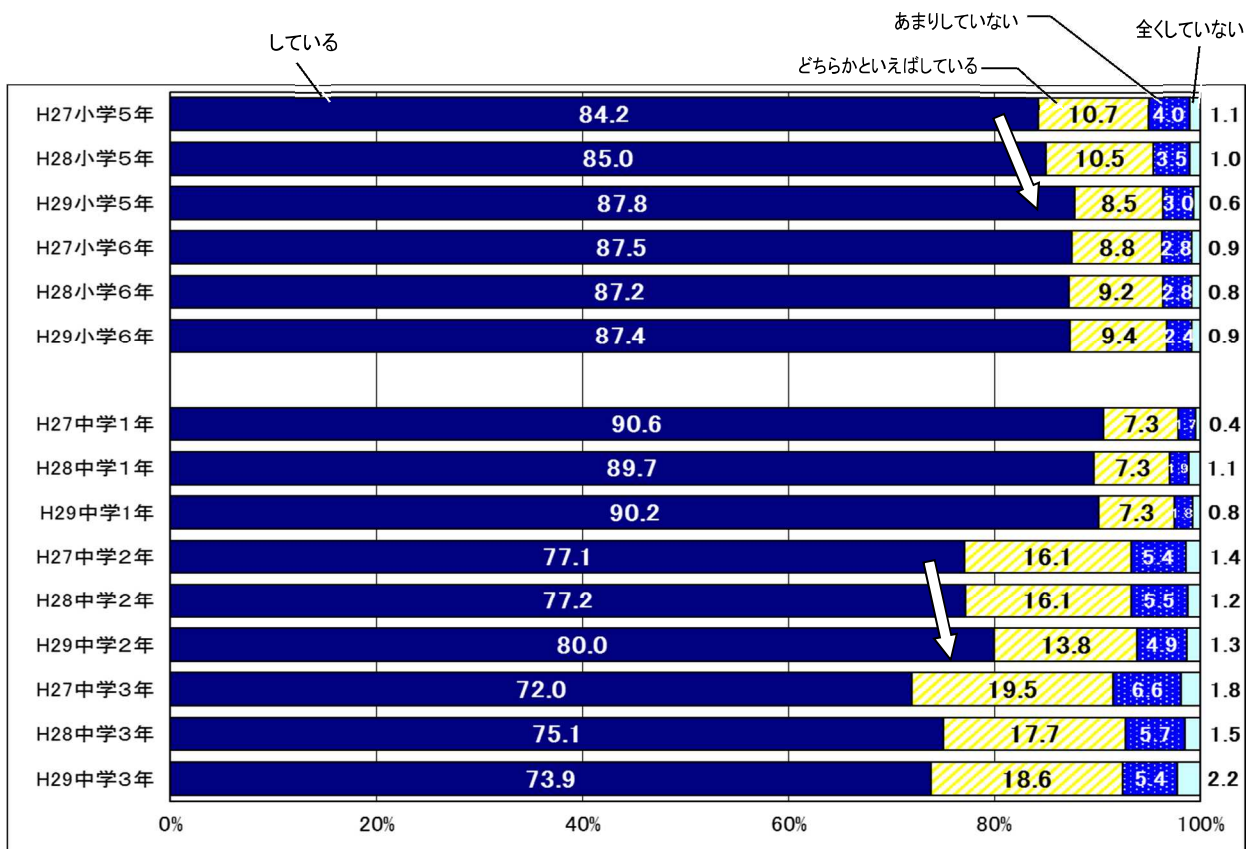
[グラフ 22-1] 自分で計画を立てて勉強している。平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較



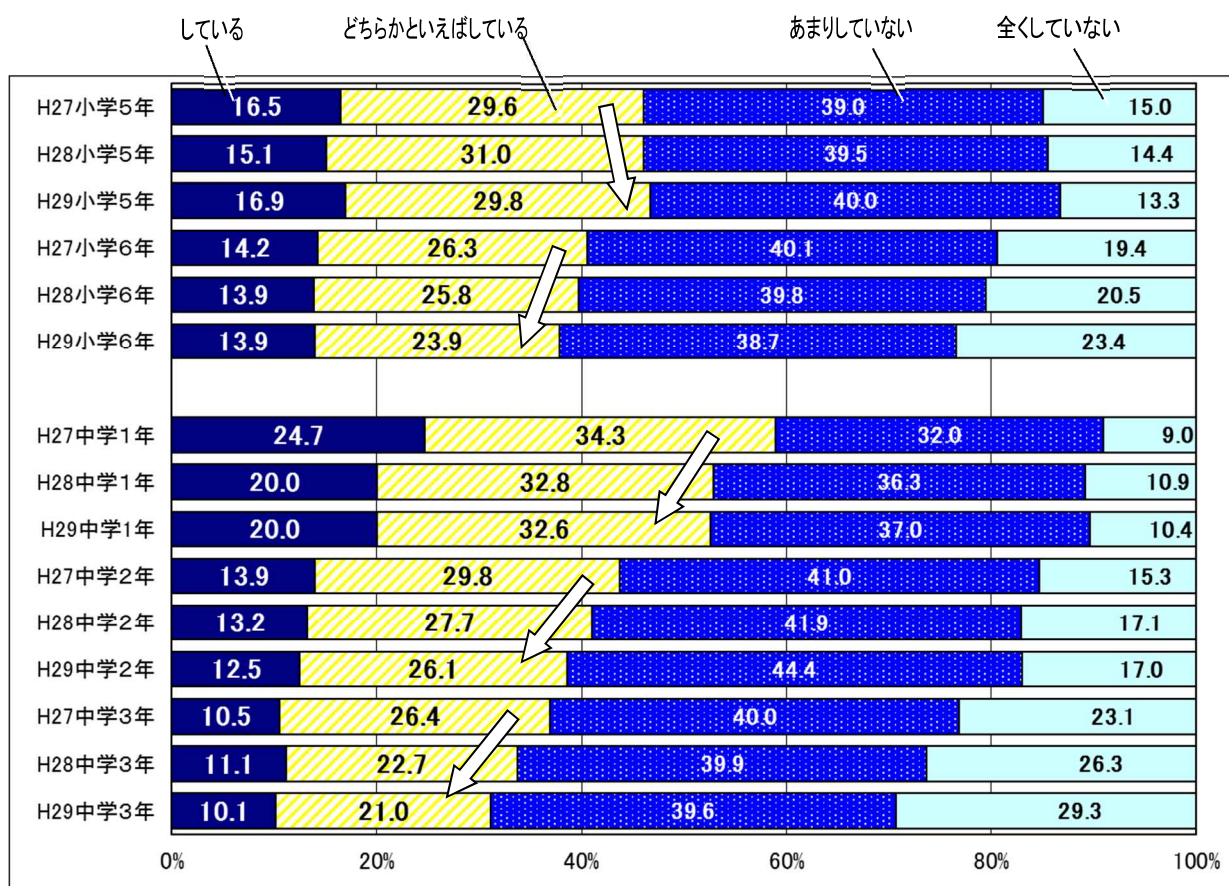
[グラフ 22-2] 「自分で計画を立てて勉強している」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



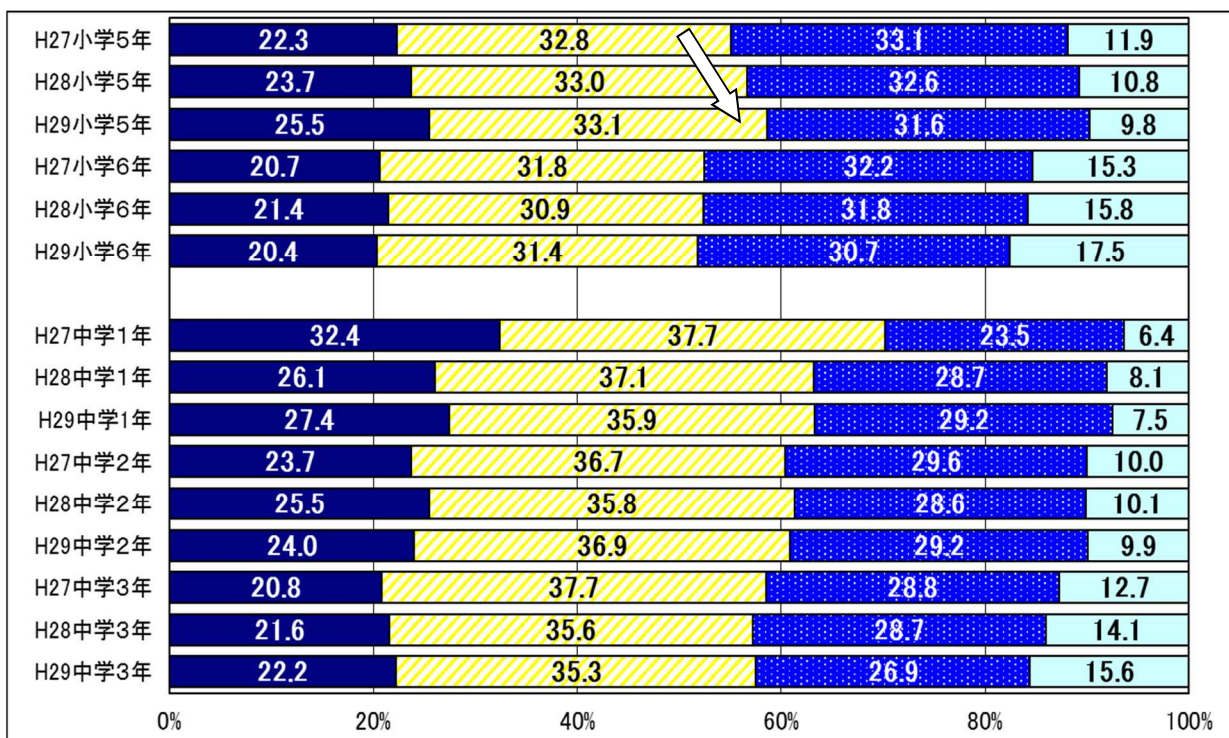
[グラフ 23] 学校の宿題をしている。平成 27~29 年度「同一学年」の経年比較



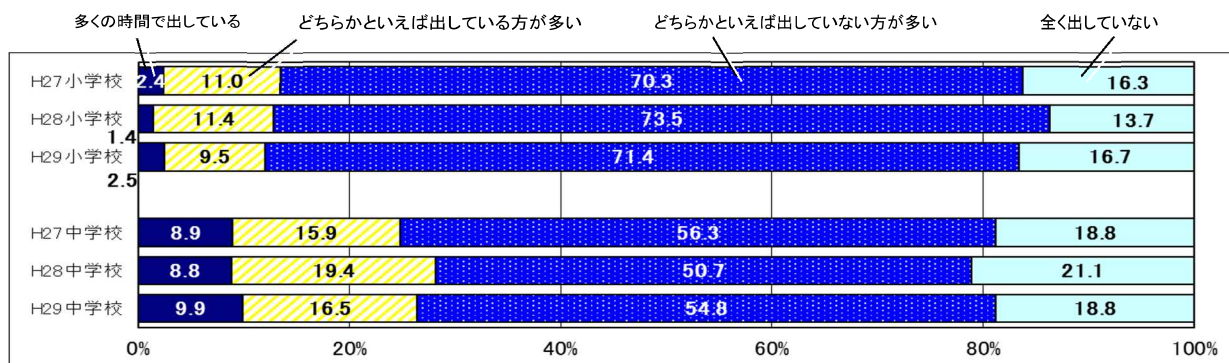
[グラフ 24] 学校の授業の予習をしている。平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較



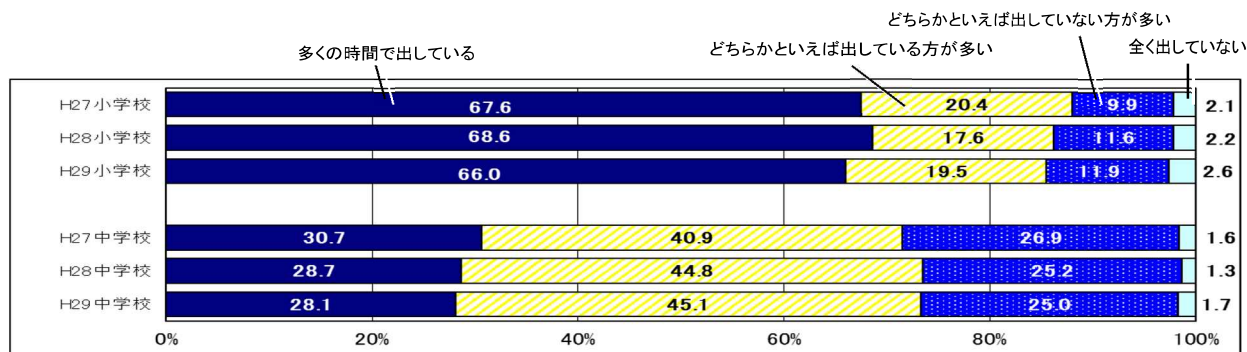
[グラフ 25] 学校の授業の復習をしている。平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較



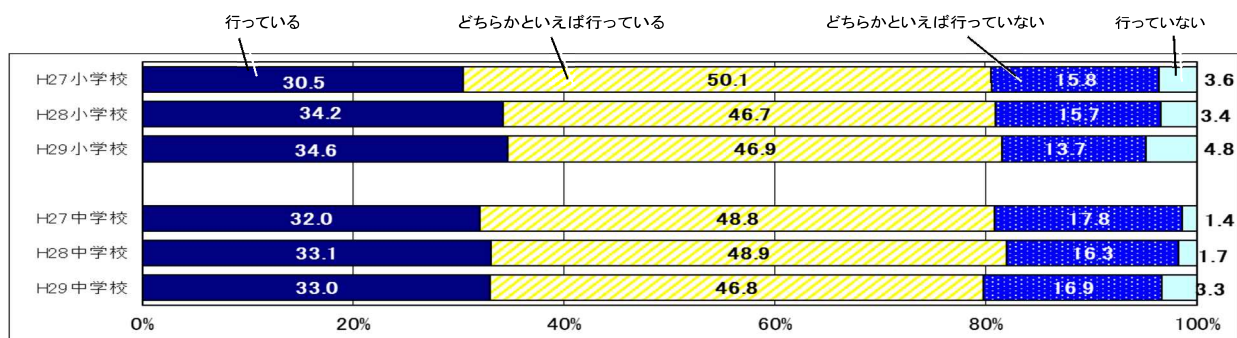
[参考 6] 予習的な内容の宿題を出していますか。
 ※教師意識調査より 平成 27～29 年度の経年比較



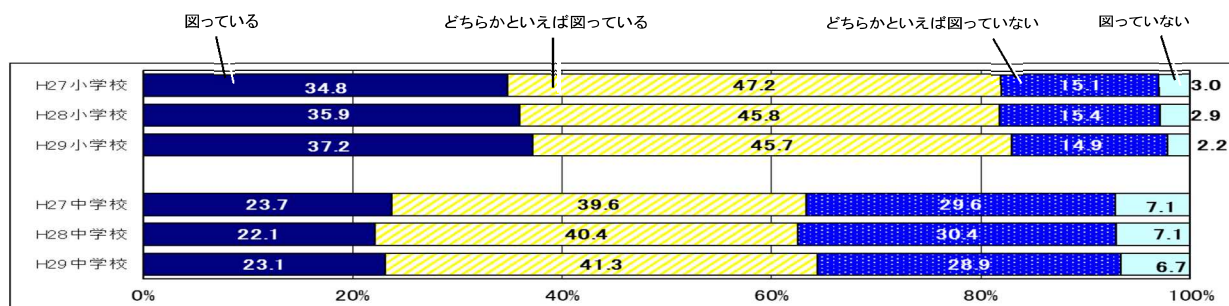
[参考 7] 復習的な内容の宿題を出していますか。
 ※教師意識調査より 平成 27～29 年度の経年比較



[参考 8] 家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか。
 ※教師意識調査より 平成 27～29 年度の経年比較



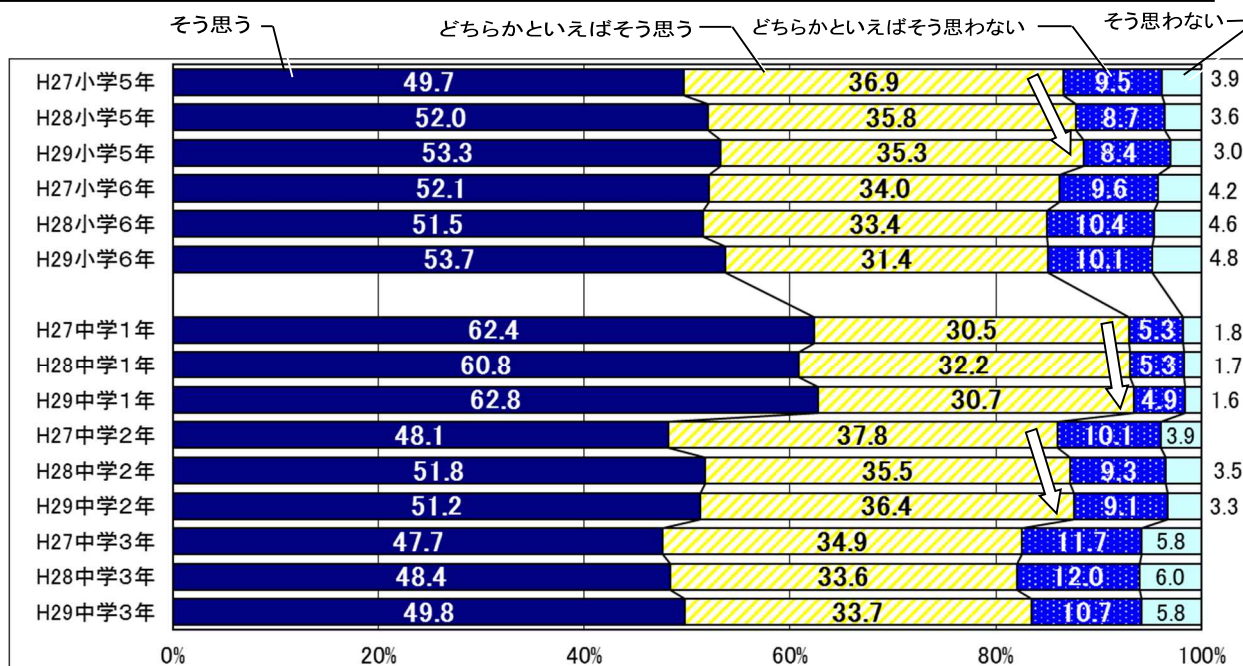
[参考 9] 宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。
 ※教師意識調査より 平成 27～29 年度の経年比較



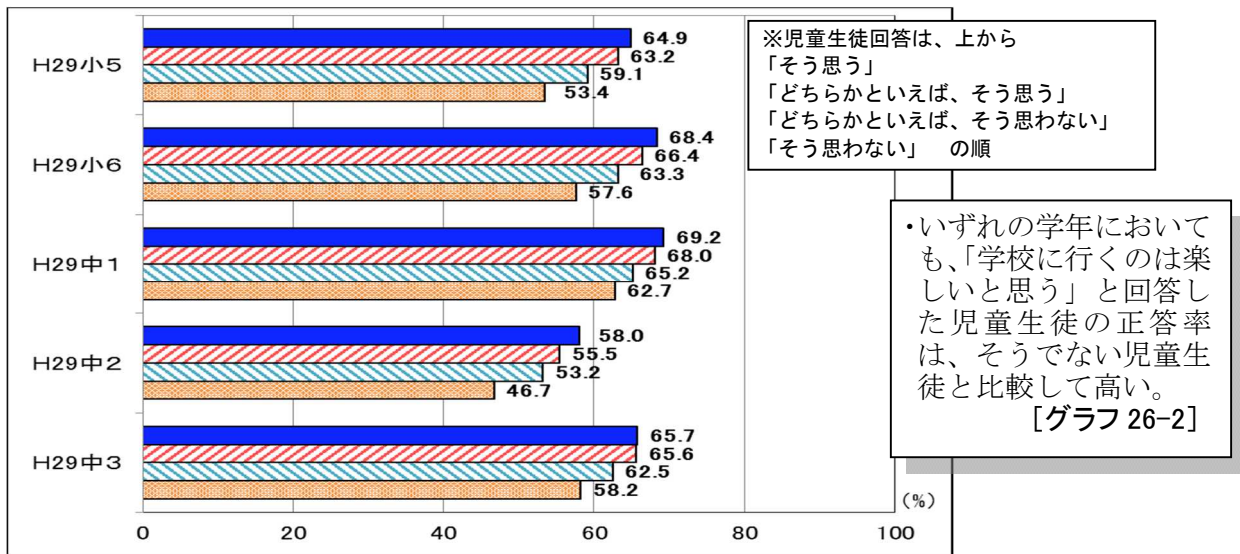
(4) 学校生活、家庭生活について

- 「学校に行くのは楽しいと思う」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年、中学1年、中学2年は増加しており、その他の全ての学年で、前年度を上回っている。[グラフ 26-1]
- 「学校では落ち着いて勉強することができる」という問いに対して肯定的な回答をした児童の割合は、調査対象の全ての学年（小学5年、中学1年、中学2年）で増加している。[グラフ 27-1]
- 教科平均正答率との相関を見ると、「学校に行くのは楽しいと思う」「学校では落ち着いて勉強することができる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 26-2、27-2]
- 平日2時間以上テレビやビデオ・DVDを視聴する児童生徒の割合は、小学5年、小学6年で減少しており、中学1年、中学2年では前年度を下回っているが、中学3年では前年度を上回っている。[グラフ 28-1]
- 平日2時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合は、小学5年、小学6年、中学3年で前年度を上回っており、中学1年、中学2年で、前年度を下回っている。[グラフ 29-1]
- 平日に、携帯電話やスマートフォンを1時間以上使用している児童生徒の割合は、昨年度に引き続き、小学6年、中学2年、中学3年で増加しており、小学5年、中学1年では、前年度を上回っている。[グラフ 30-1]
- テレビゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンを使用する時間が長いほど、正答率が低くなる傾向にある。[グラフ 29-2、30-2]
- 「将来の夢や目標をもっている」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校と中学1年で約9割、中学2年、中学3年で約7割である。中学2年では減少しているが、その他の全ての学年で前年度を上回っている。[グラフ 31-1]

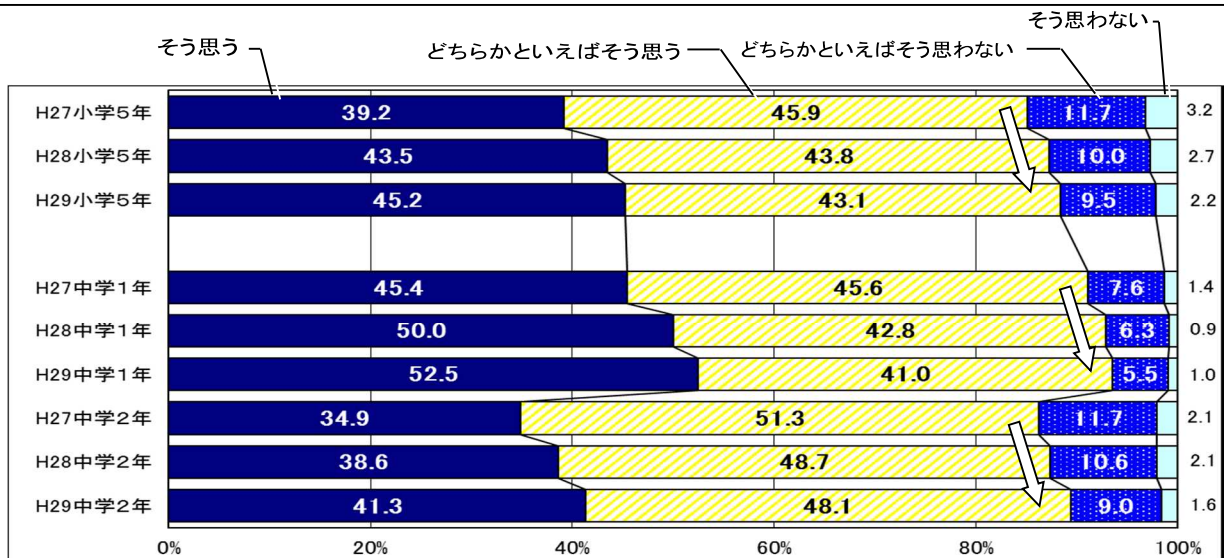
[グラフ 26-1] 学校に行くのは楽しいと思う 平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較



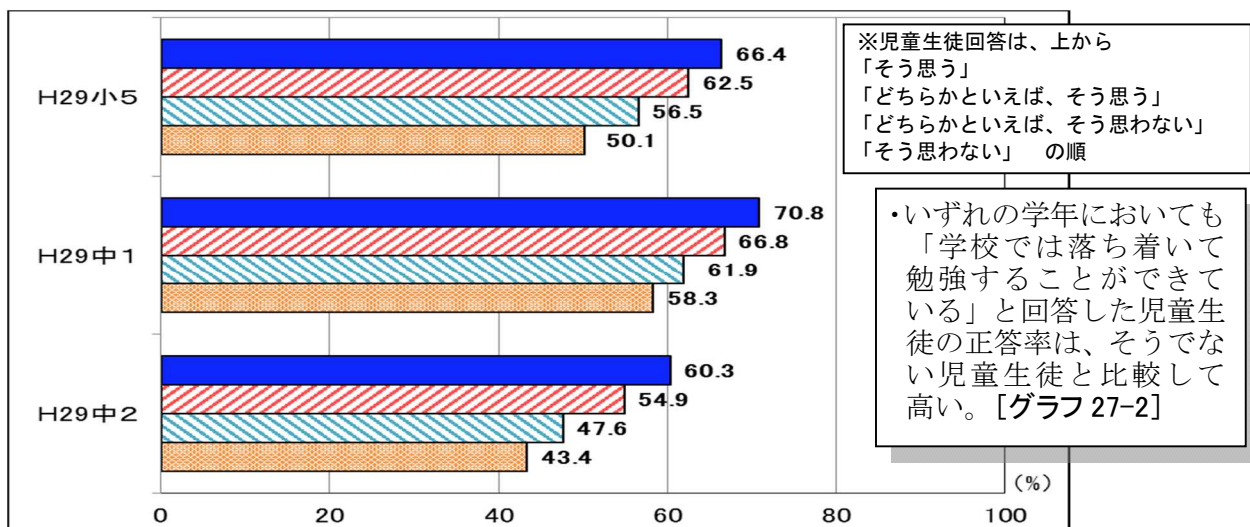
[グラフ 26-2] 「学校に行くのは楽しいと思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



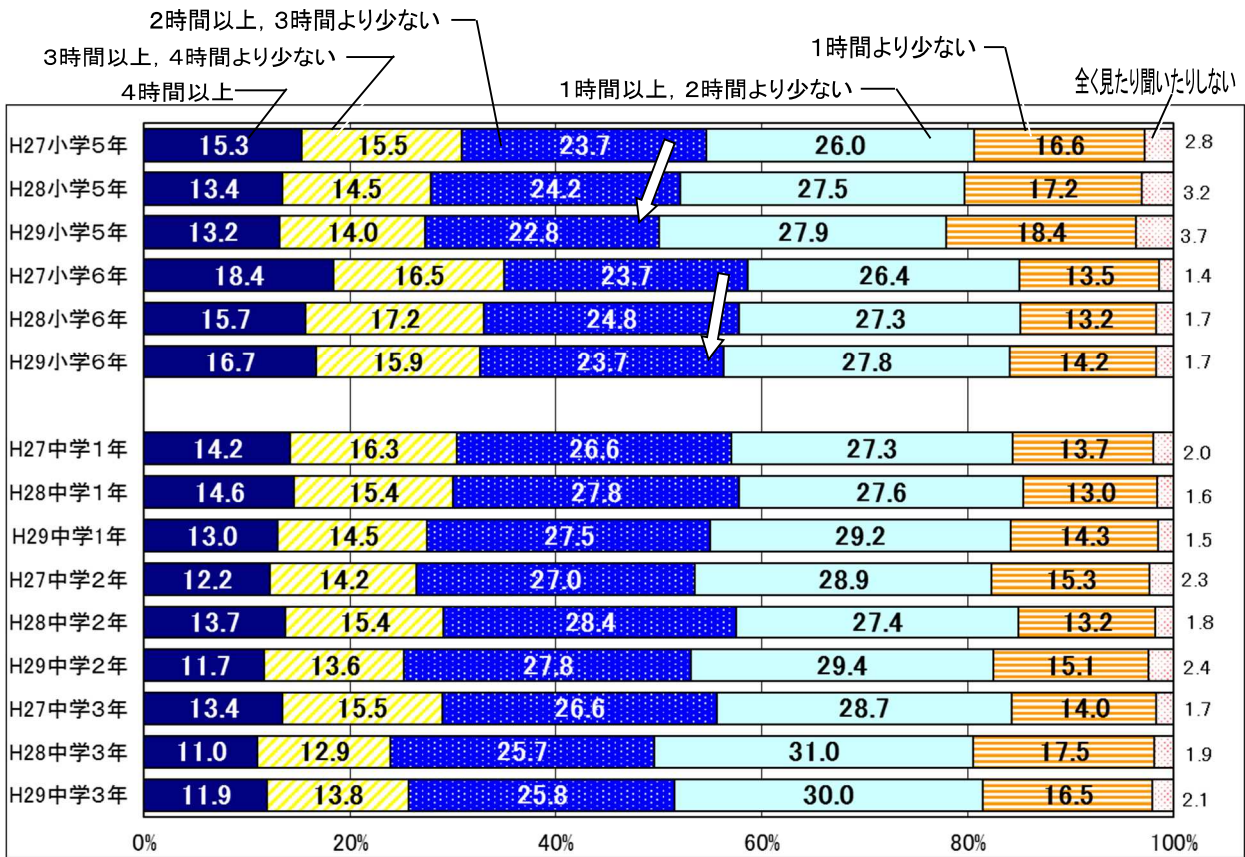
[グラフ 27-1] 学校では落ち着いて勉強することができる 平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較



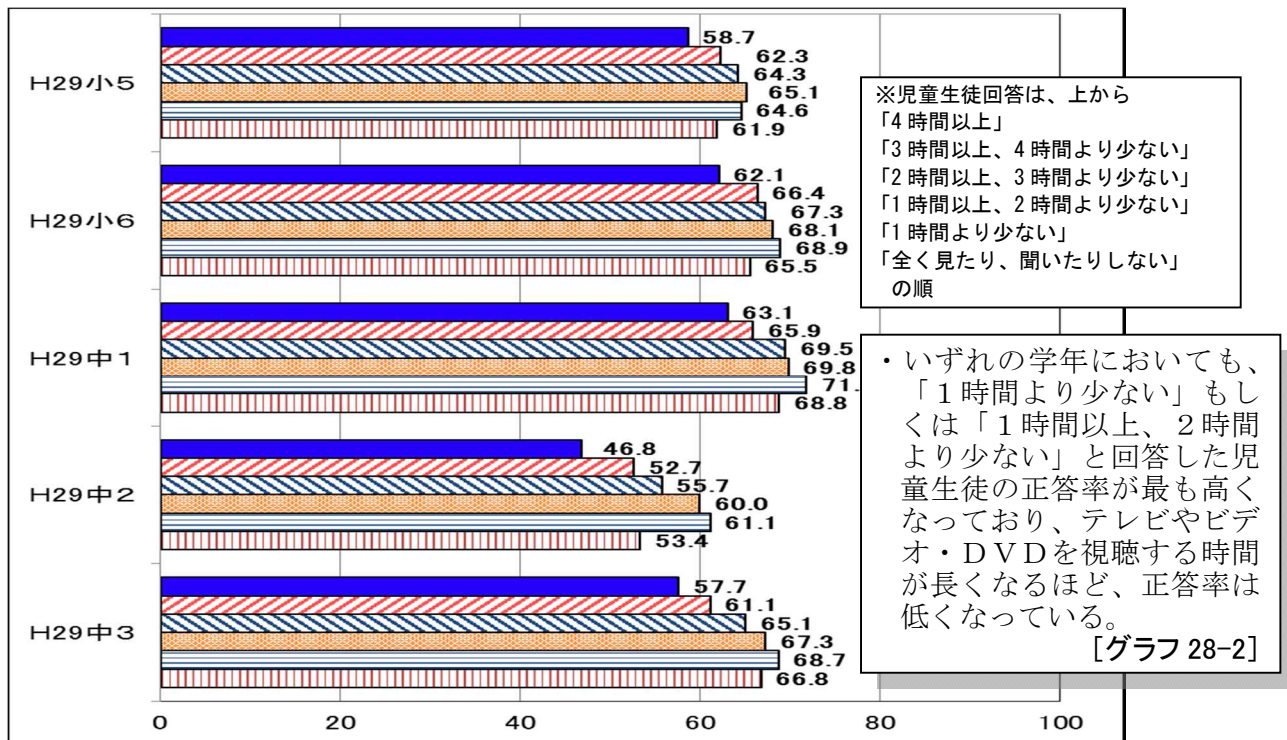
[グラフ 27-2] 「学校では落ち着いて勉強することができる」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



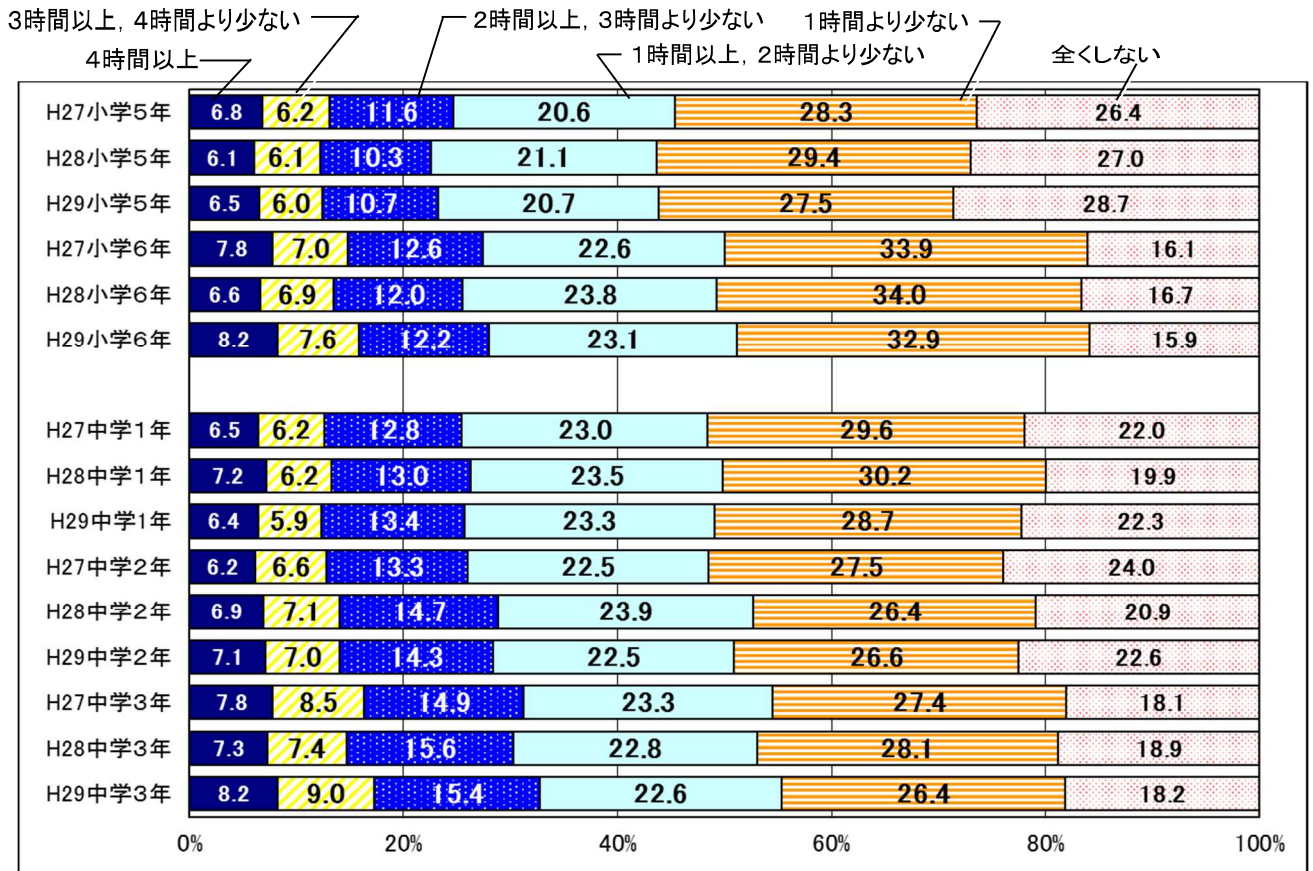
[グラフ 28-1] 1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日)
平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較(テレビゲームをする時間は除く)



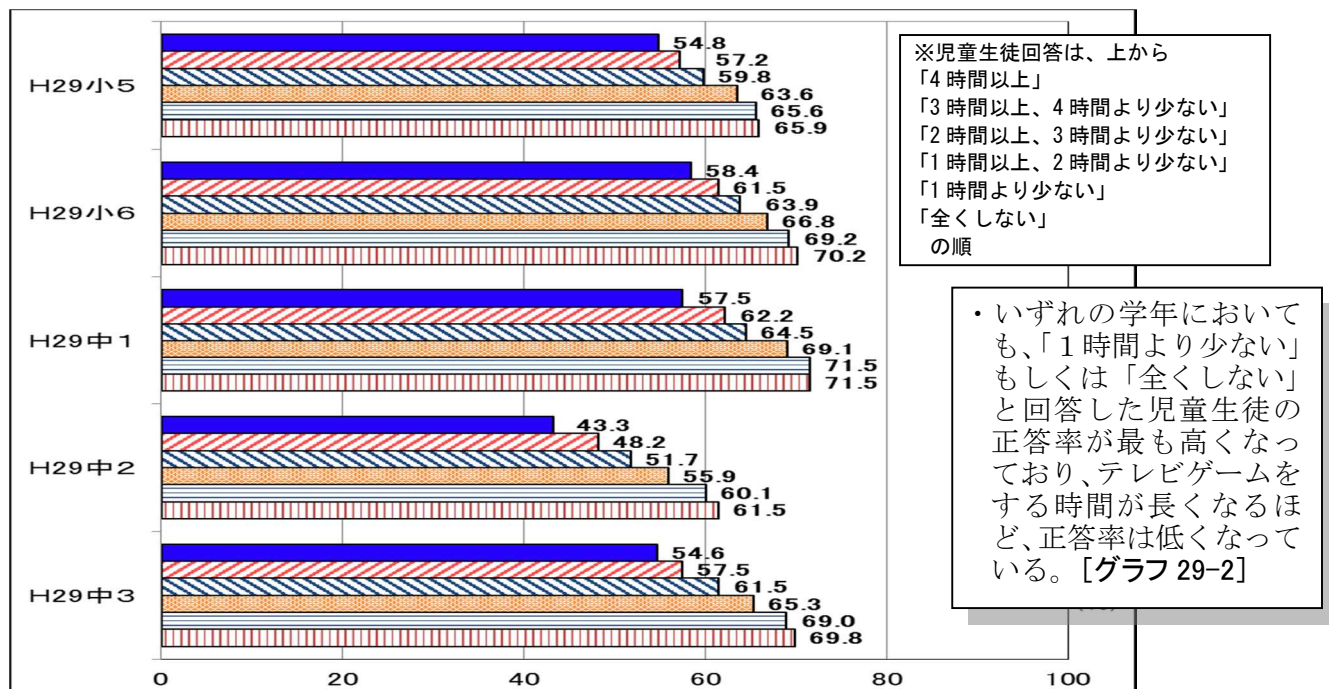
[グラフ 28-2] 「1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日 テレビゲームをする時間は除く)」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



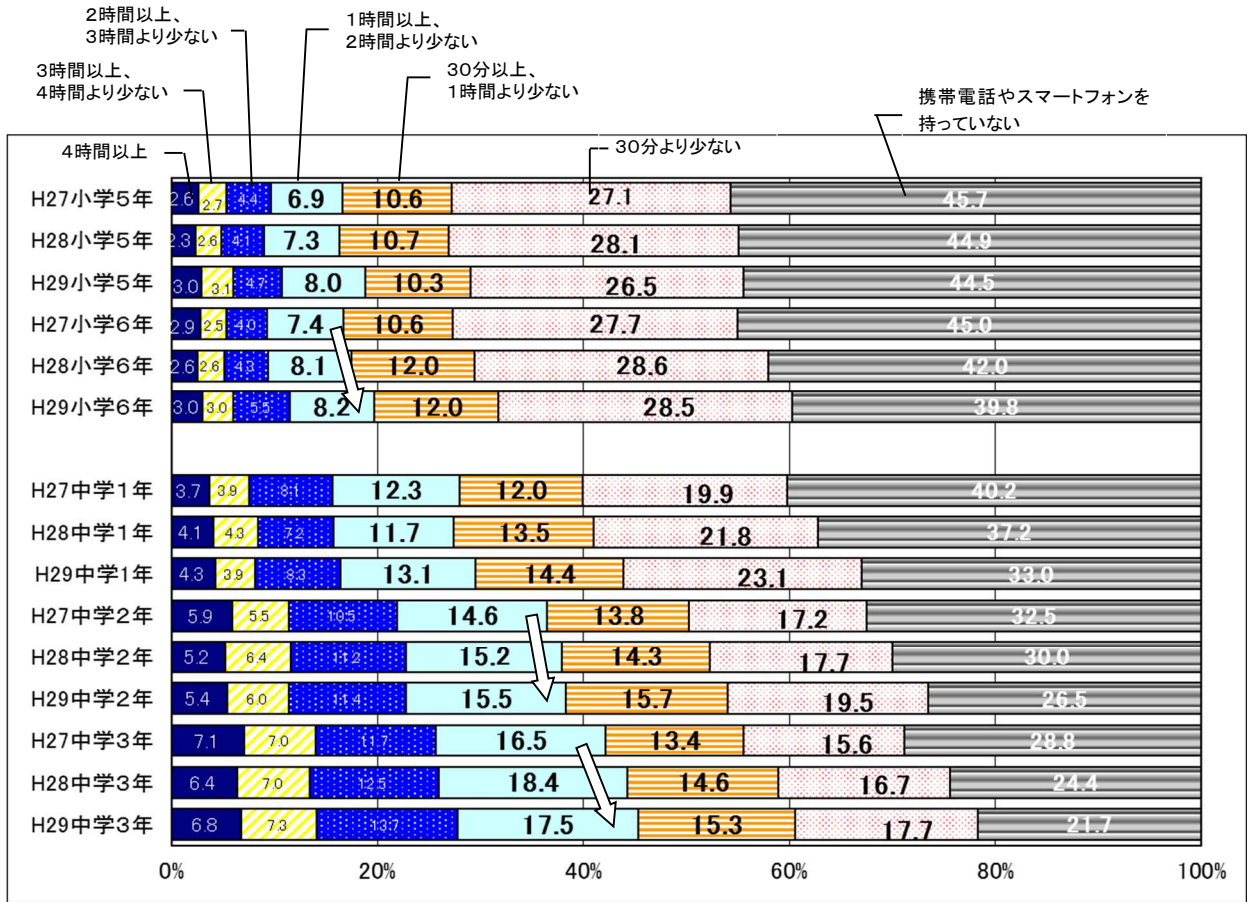
[グラフ 29-1] 1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜日)
平成27～29年度「同一学年」の経年比較(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)



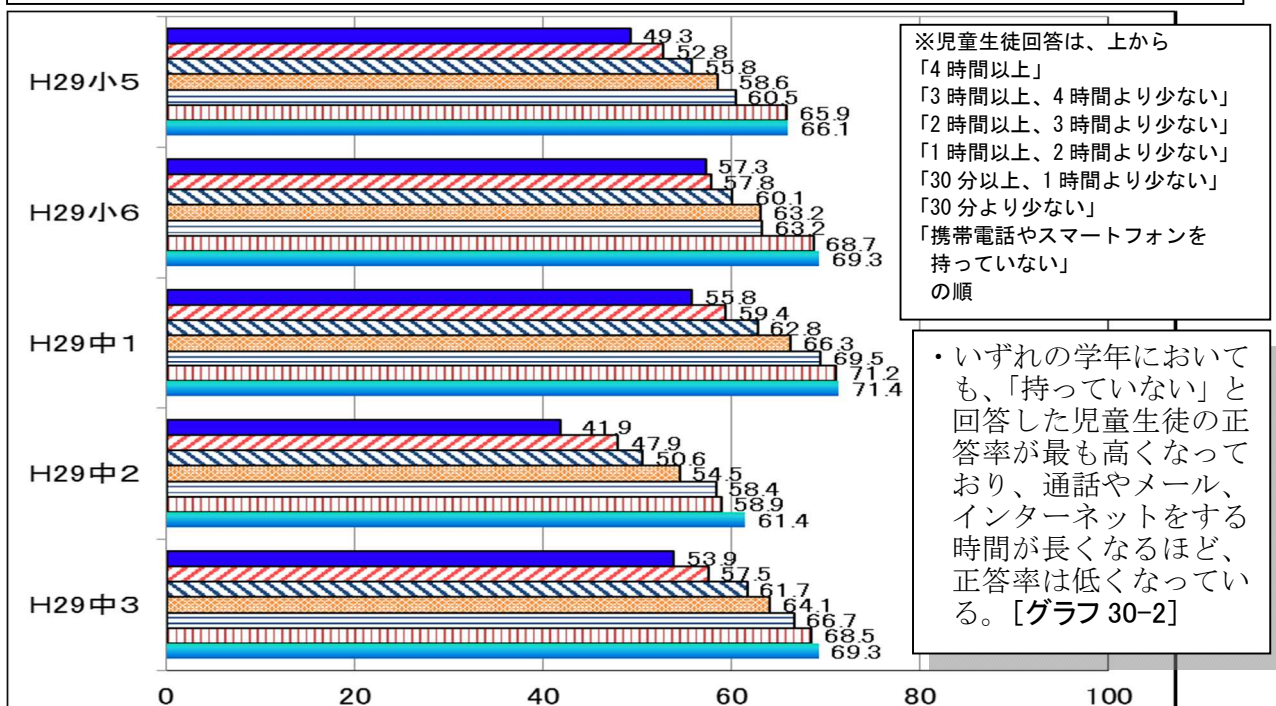
[グラフ 29-2] 「1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜)」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



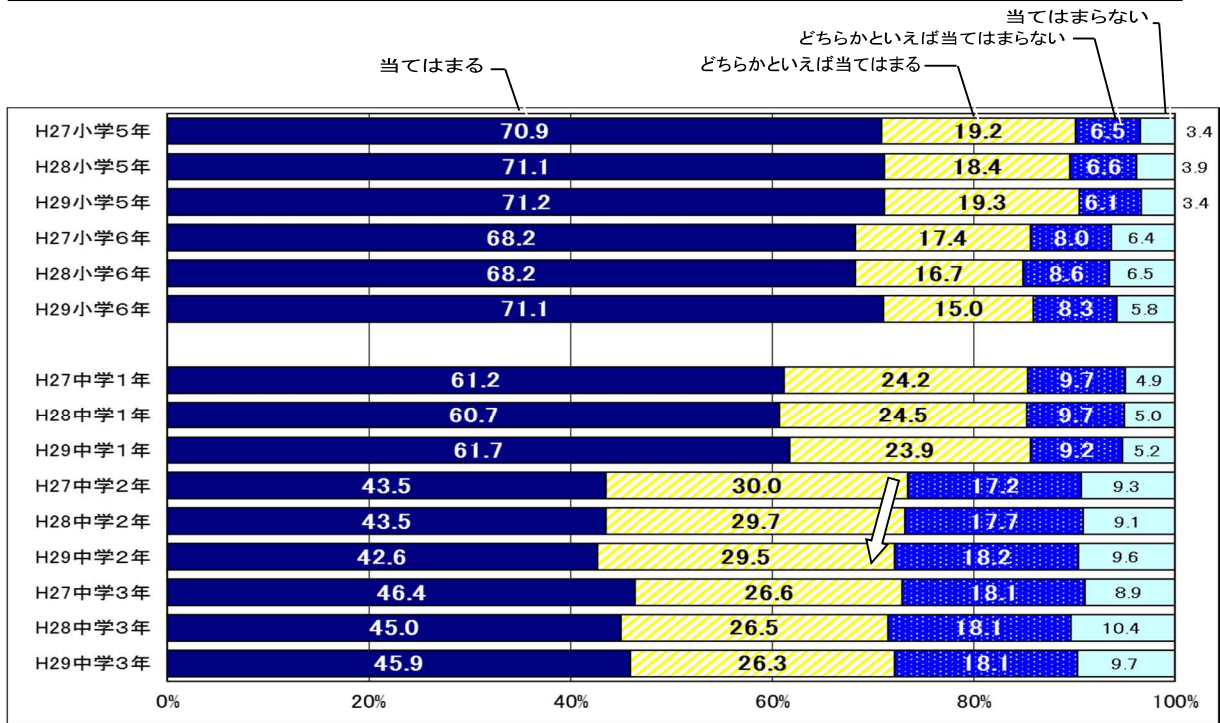
[グラフ 30-1] 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするか ※平成 26 年度から調査項目に加わった(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



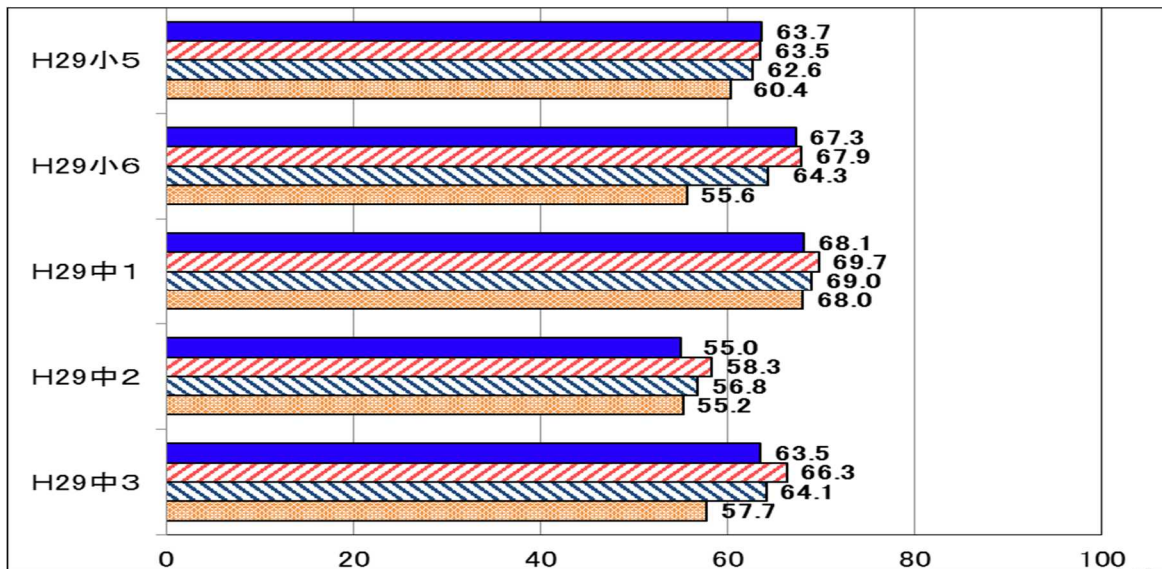
[グラフ 30-2] 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするか」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



[グラフ 31-1] 将来の夢や目標をもっている 平成 27～29 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 31-2] 「将来の夢や目標をもっている」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

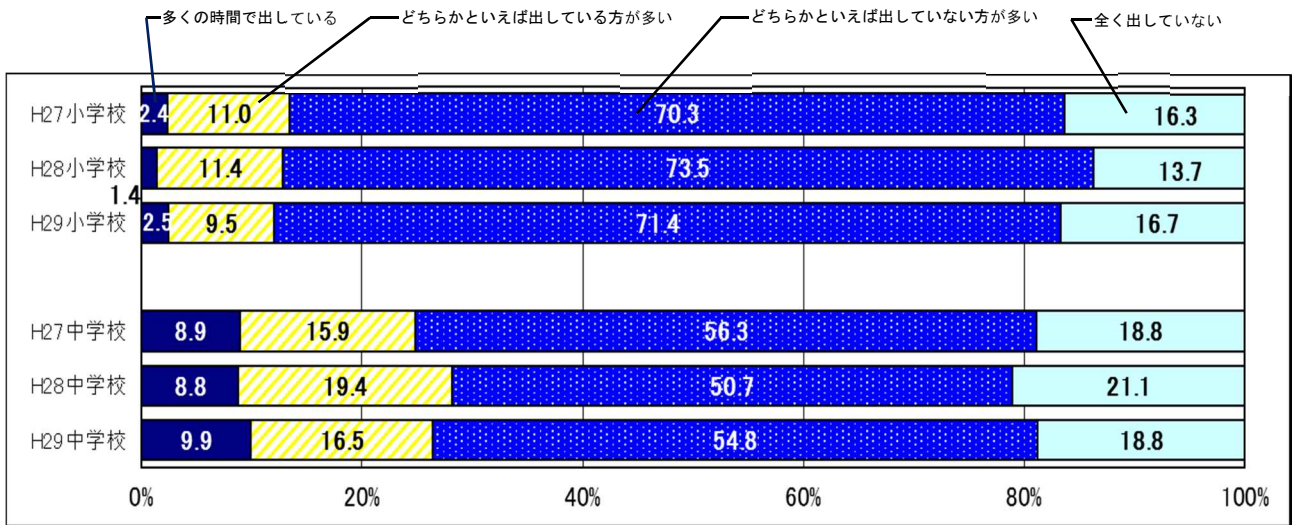


(5) 教師意識調査から

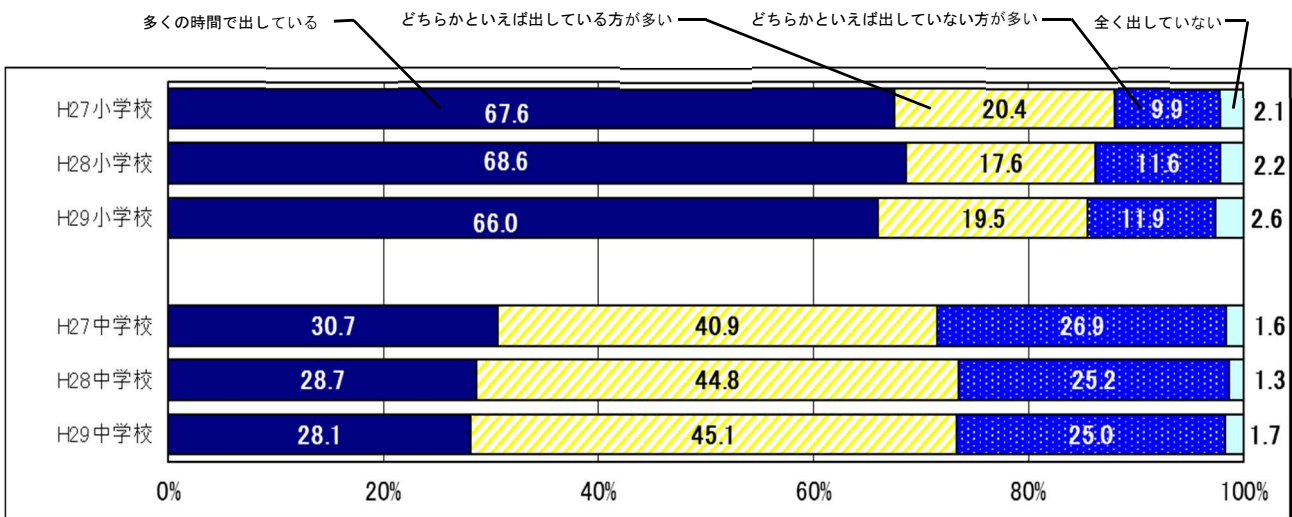
- 「予習的な宿題を出していますか。」という問いに「多くの時間を出している」「どちらかといえば出している方が多い」と回答した教師の割合は、小学校では減少しており、中学校では前年度を下回っている。小学校では約1割、中学校で3割弱である。[グラフ 32]
- 「復習的な宿題を出していますか。」という問いに「多くの時間を出している」「どちらかといえば出している方が多い」と回答した教師の割合は、小学校では減少しており、中学校では前年度を下回っている。小学校では9割弱、中学校では約7割である。[グラフ 33]
- 「レポートや作文など、書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。」という問いに対して「多くの単元で行っている」と回答をした教師の割合は、小学校では前年度を下回っており、中学校では前年度とほぼ同じである。小学校、中学校ともに約2割である。「半分程度の単元で行っている」を含めると、小学校で約5割、中学校で4割弱である。[グラフ 34]
- 「発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか。」という問いに対して「多くの単元で行っている」と回答をした教師の割合は前年度より増加しており、小学校では約6割、中学校では4割弱である。[グラフ 35]
- 「授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童に示す活動を計画的に取り入れていますか。」という問いに対して「取り入れている」と回答をした教師の割合は前年度より下回っており、小学校では9割弱、中学校では7割弱である。[グラフ 36]
- 「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか。」という問いに対して「取り入れている」と回答をした教師の割合は小学校、中学校ともに減少している。小学校では約4割、中学校では3割弱である。「どちらかといえば取り入れている」を含めた肯定的な回答は小学校で約9割、中学校で8割弱である。[グラフ 37]
- 「ノートのとまとめ方や話し合いの進め方など、学習方法についてきめ細やかに指導を行っていますか。」という問いに対して「行っている」と回答をした教師の割合は小学校、中学校ともに増加している。小学校では約4割、中学校では約2割である。「どちらかといえば行っている」を含めた肯定的な回答は小学校で約9割、中学校で約8割である。[グラフ 38]
- 「家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか。」という問いに対して「行っている」と回答をした教師の割合は小学校で増加している。「どちらかといえば行っている」を含めた肯定的な回答は小学校、中学校ともに約8割である。[グラフ 39]
- 「宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。」という問いに対して「図っている」と回答をした教師の割合は小学校で増加しており、中学校でも前年度を上回っている。「どちらかといえば図っている」を含めた肯定的な回答は小学校で約8割、中学校で約6割である。[グラフ 40]

※ 教師意識調査はいずれも当該年度の前年度2月に調査対象児童生徒を指導している教師を対象に実施したものである。(例： H29小学校 → 平成28年度中の平成29年2月に調査を実施)

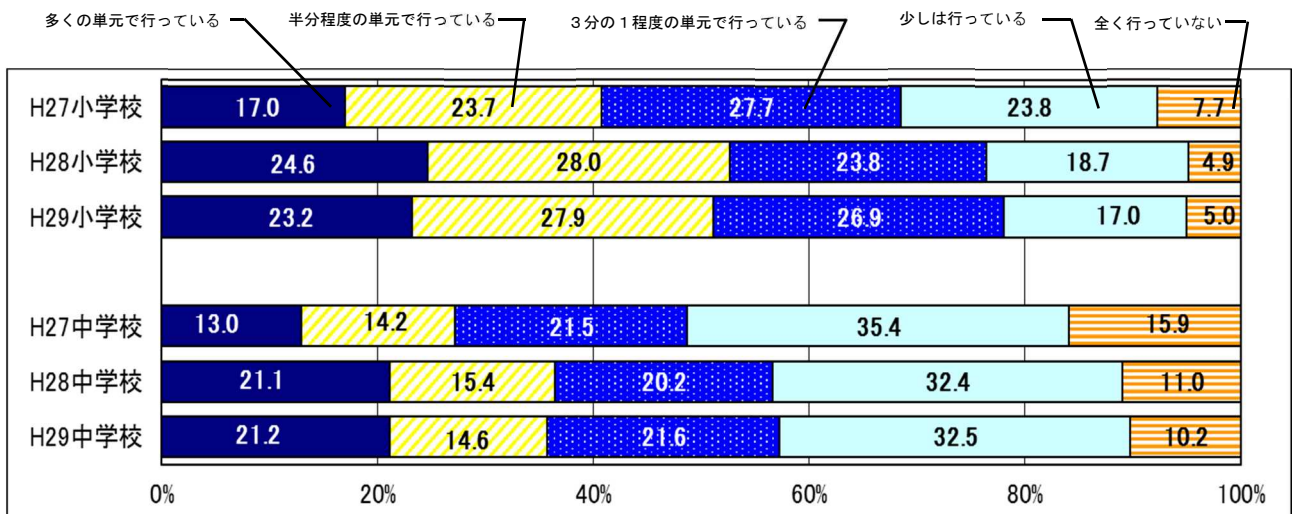
[グラフ 32] 予習的な宿題は出していますか。 平成 27～29 年度の経年比較



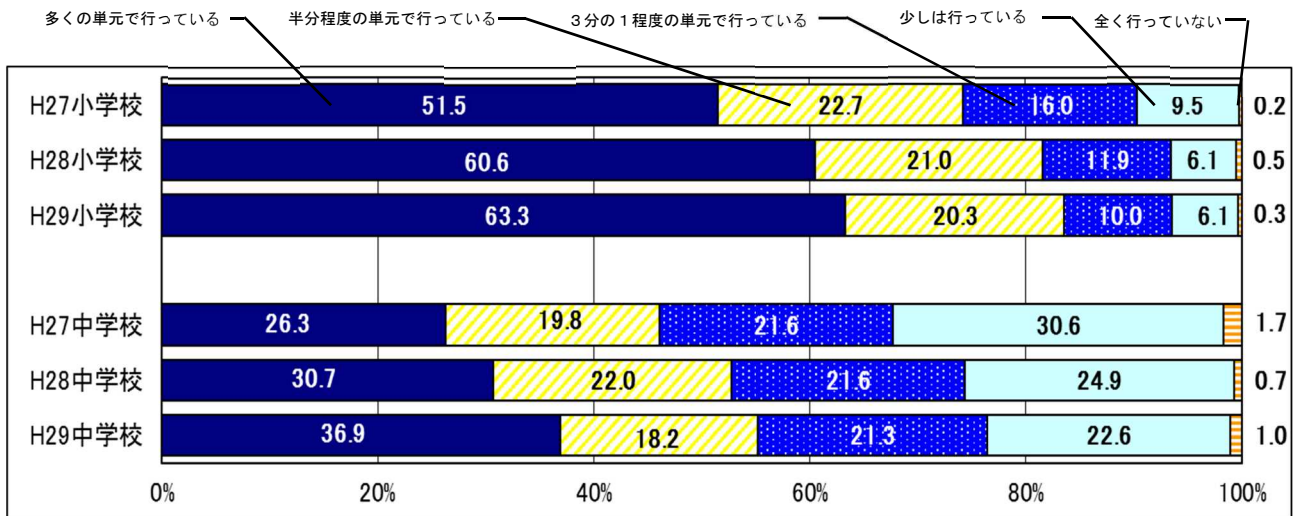
[グラフ 33] 復習的な宿題は出していますか。 平成 27～29 年度の経年比較



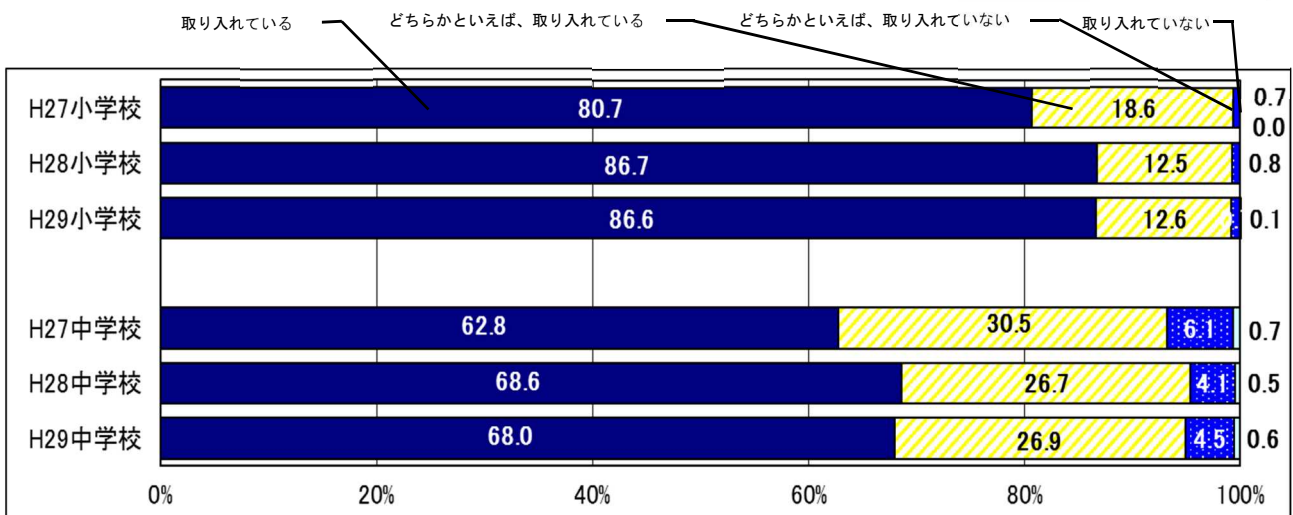
[グラフ 34] レポートや作文など、書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。 平成 27～29 年度の経年比較



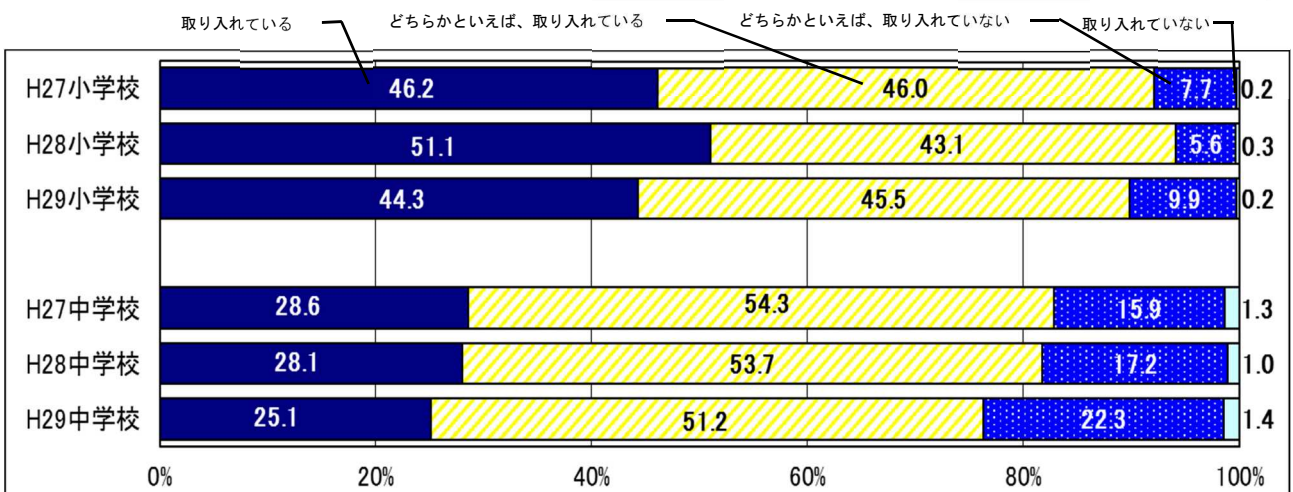
[グラフ 35] 発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか。
平成 27～29 年度の経年比較



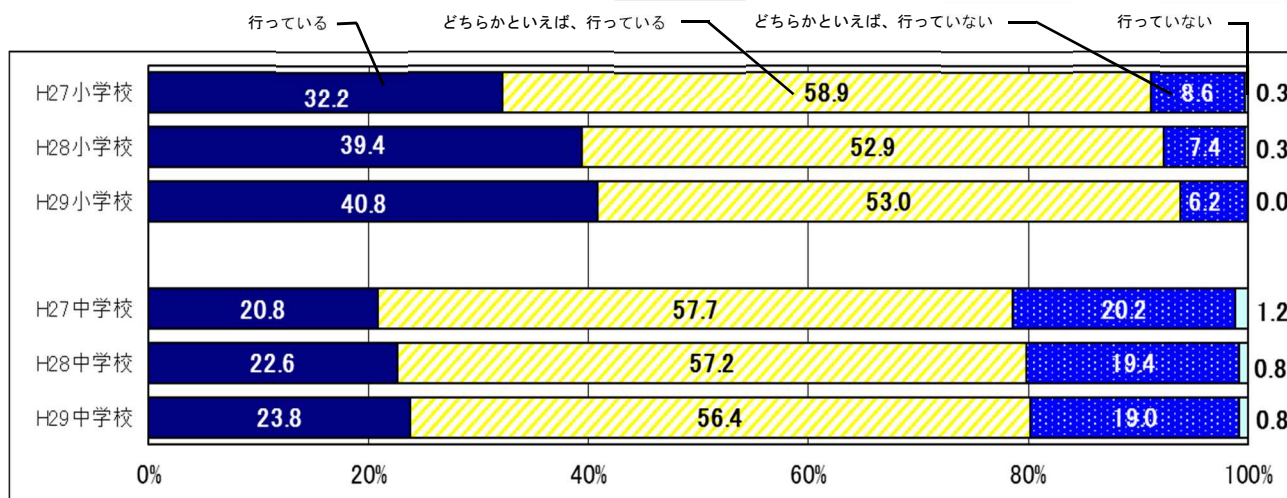
[グラフ 36] 授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童に示す活動を計画的に取り入れていますか。
平成 27～29 年度の経年比較



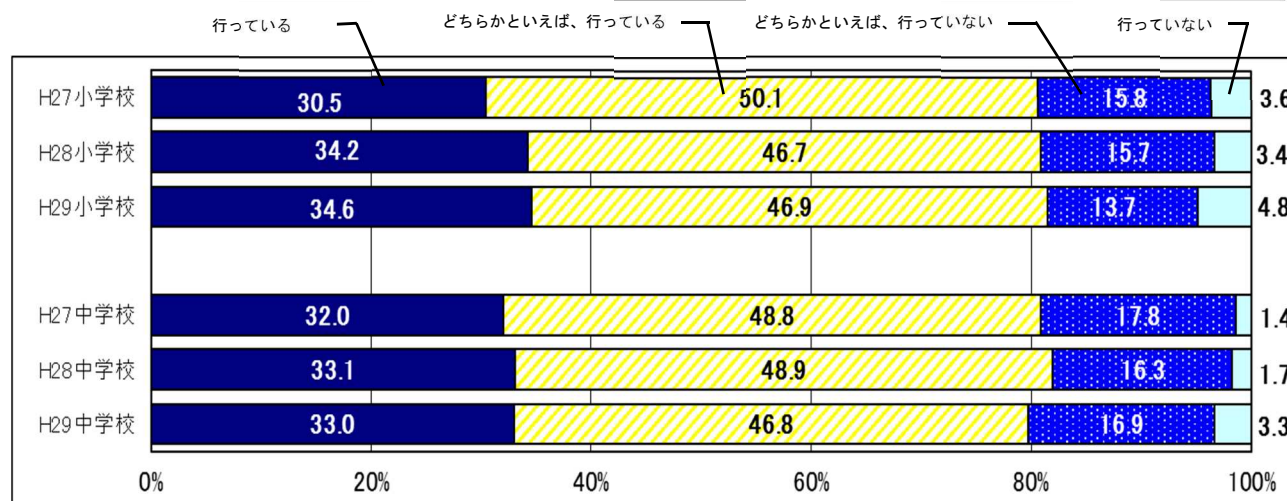
[グラフ 37] 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか。
平成 27～29 年度の経年比較



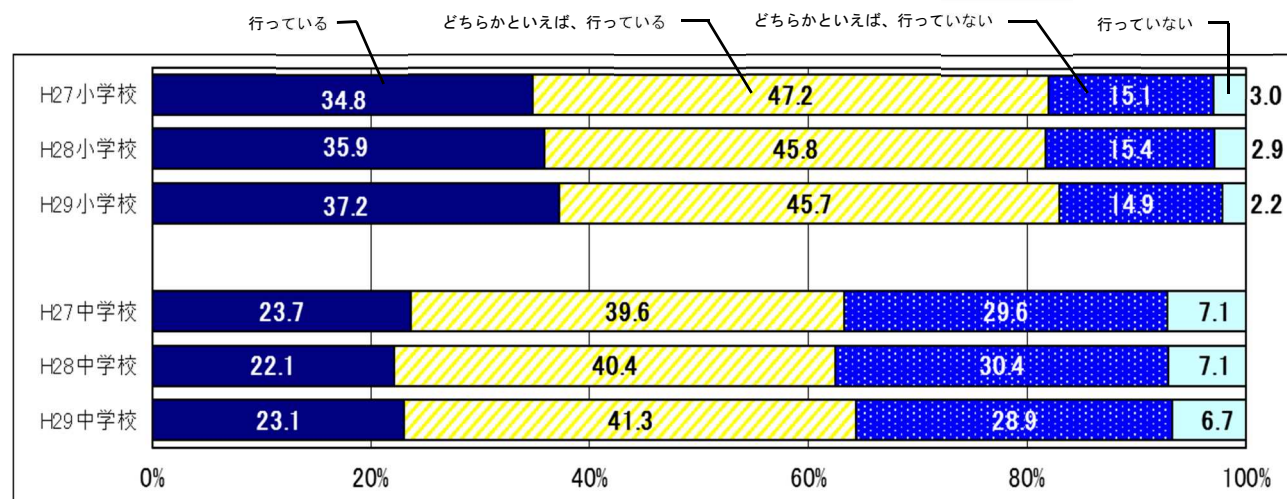
[グラフ 38] ノートのまとめ方や話し合いの進め方など、学習方法についてきめ細やかに指導を行っていますか。
平成 27～29 年度の経年比較



[グラフ 39] 家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか。
平成 27～29 年度の経年比較



[グラフ 40] 宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。
平成 27～29 年度の経年比較



(6) 地域別の状況

《児童生徒質問紙調査及び児童生徒意識調査》

① 学校での生活について

※県全体の回答との差が

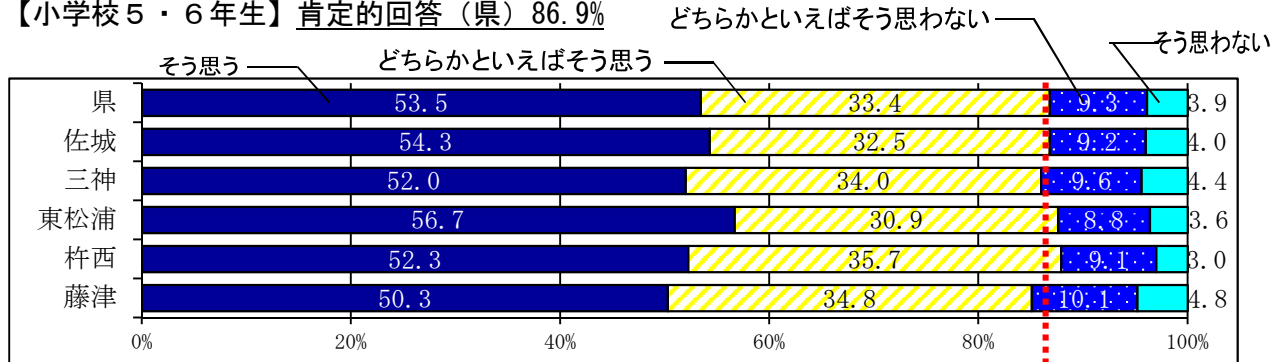
2.0以上5.0未満は「やや高い」「やや低い」

5.0以上は「高い」「低い」と標記している。

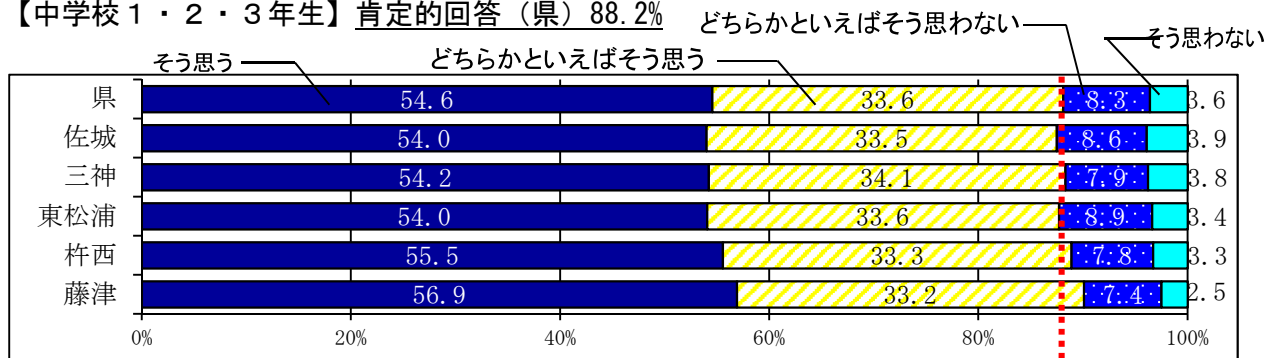
- 「学校に行くのは楽しいと思う」に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童生徒の割合は、小・中学校ともに地域差がほとんど見られないが、「そう思う」と答えた児童生徒の割合は、小学校では東松浦地域がやや高く、藤津地域がやや低い。中学校では藤津地域がやや高い。[グラフ 41]
- 「学校のきまりを守っている」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では東松浦地域がやや低い。中学校では地域差がほとんど見られない。[グラフ 42]

[グラフ 41] 学校に行くのは楽しいと思う。

【小学校 5・6年生】 肯定的回答（県）86.9%

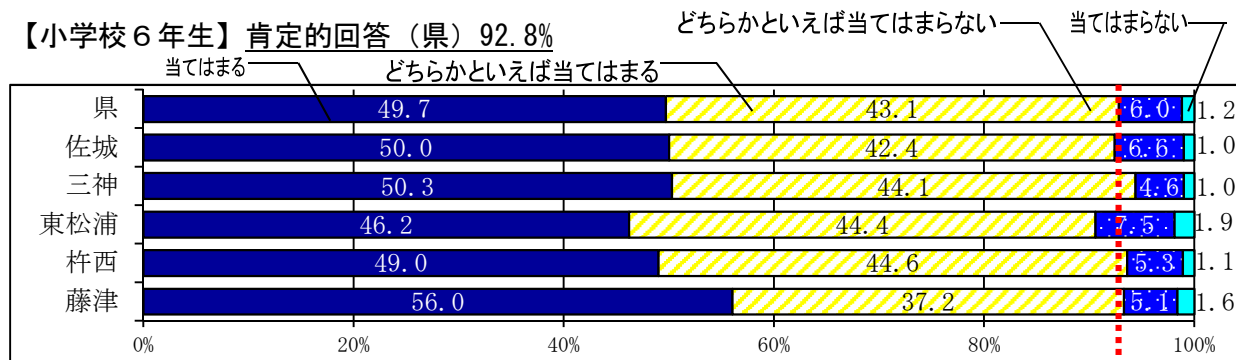


【中学校 1・2・3年生】 肯定的回答（県）88.2%

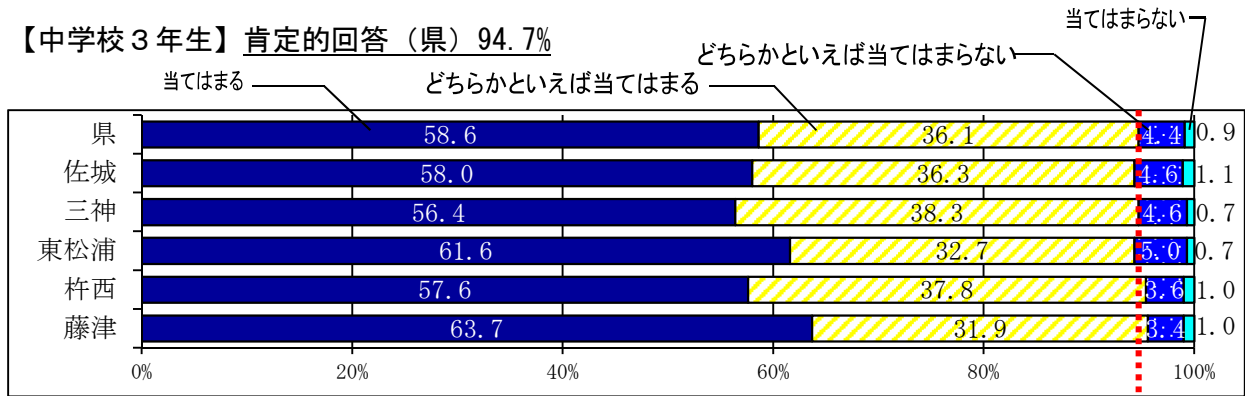


[グラフ 42] 学校のきまりを守っている。

【小学校 6年生】 肯定的回答（県）92.8%



【中学校3年生】肯定的回答（県）94.7%

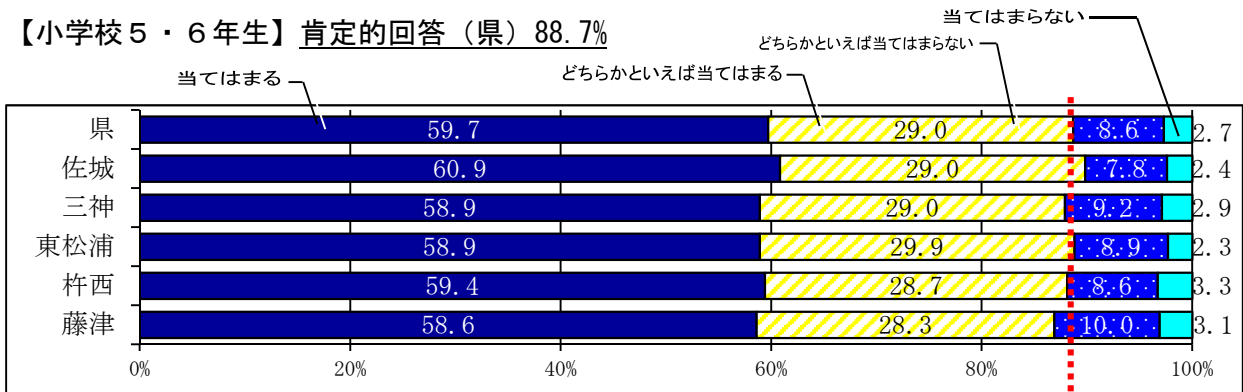


② 学習活動について

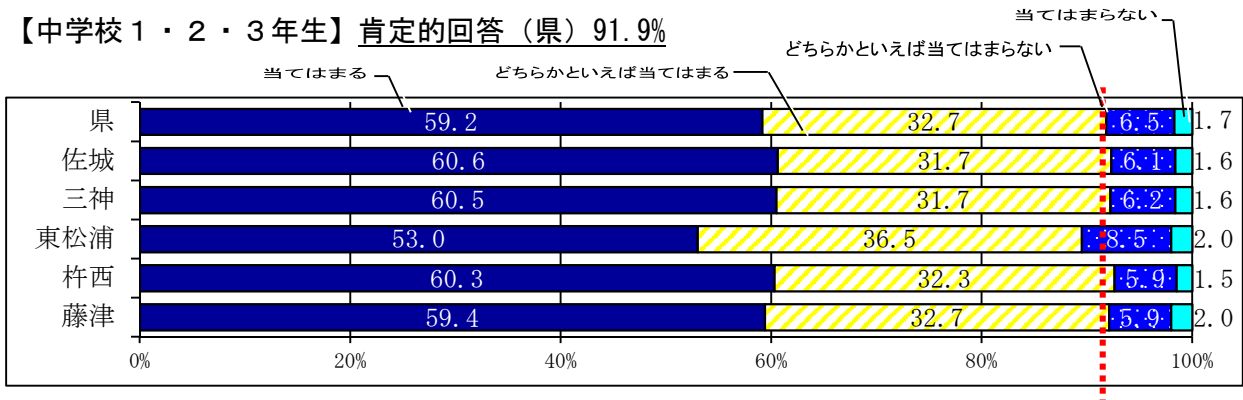
- 「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では地域差がほとんど見られないが、中学校では東松浦地域がやや低い。[グラフ 43]
- 「授業の最後に学習内容を振り返る活動」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では東松浦地域・藤津地域がやや高く、三神地域が低い。中学校では藤津地域がやや低い。
[グラフ 44]
- 「ノートに学習の目標とまとめを書くこと」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では地域差がほとんど見られないが、中学校では東松浦地域がやや低い。[グラフ 45]
- 「話し合う活動をよく行っていた」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小・中学校ともに地域差があまり見られないが、「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では三神地域・杵西地域がやや低い。中学校では東松浦地域がやや高く、杵西地域がやや低い。[グラフ 46]
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では地域差があまり見られないが、中学校では東松浦地域がやや低い。[グラフ 47]
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合は、小学校では、佐城地域がやや高い。中学校では地域差があまり見られないが、「当てはまる」と答えた生徒の割合は、杵西地域がやや低い。
[グラフ 48]
- 「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では地域差があまり見られないが、中学校では東松浦地域がやや低い。[グラフ 49]

【グラフ 43】 授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。

【小学校 5・6 年生】 肯定的回答（県）88.7%

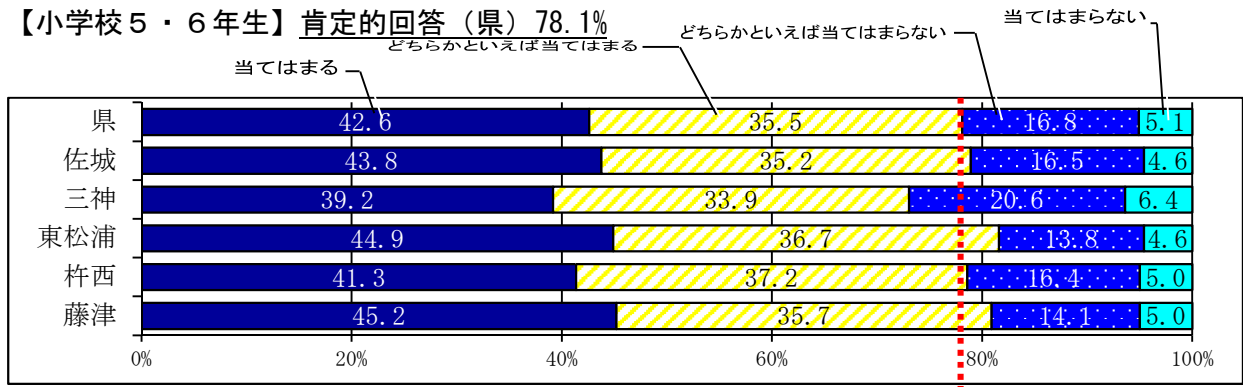


【中学校 1・2・3 年生】 肯定的回答（県）91.9%

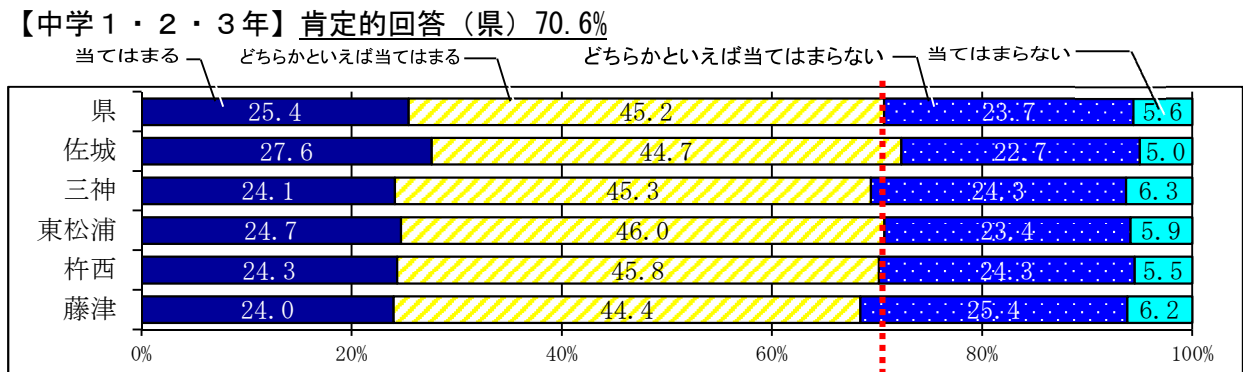


【グラフ 44】 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。

【小学校 5・6 年生】 肯定的回答（県）78.1%

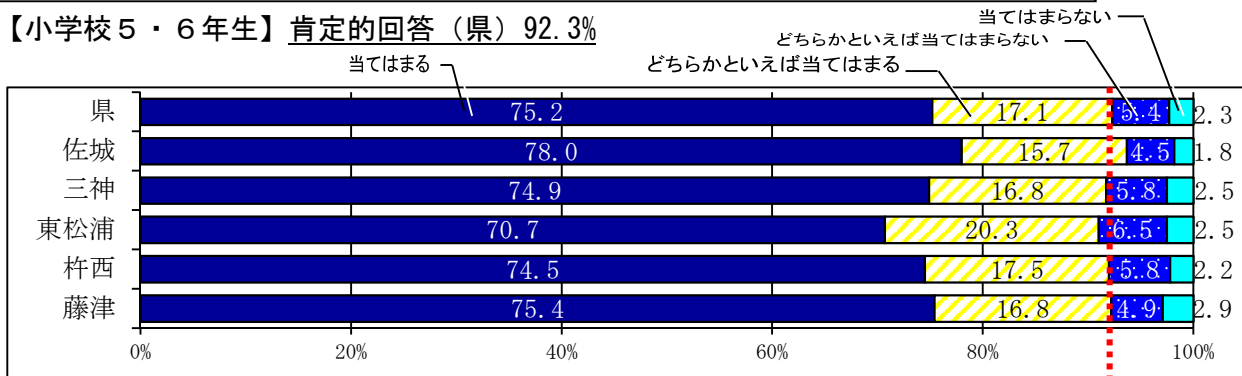


【中学 1・2・3 年】 肯定的回答（県）70.6%

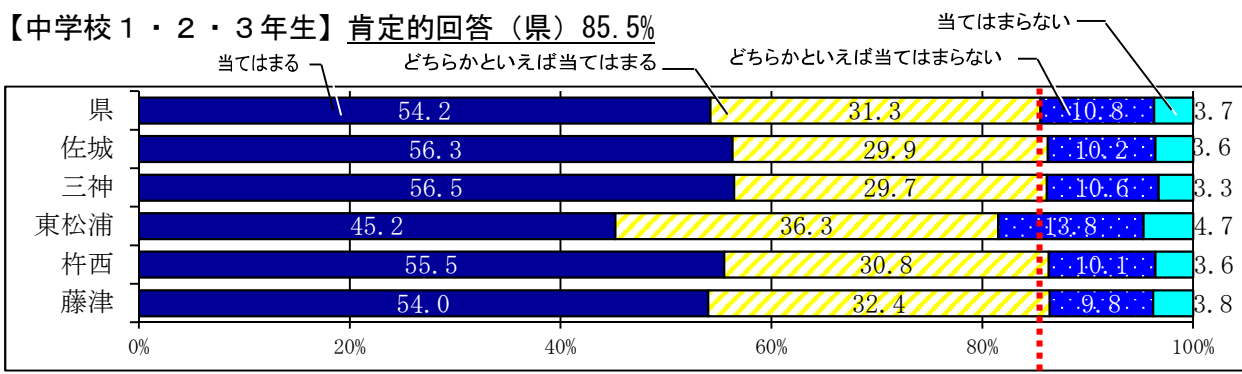


[グラフ 45] 授業で扱うノートには、学習の目標（めあて、ねらい）とまとめを書いていたと思う。

【小学校5・6年生】肯定的回答（県）92.3%

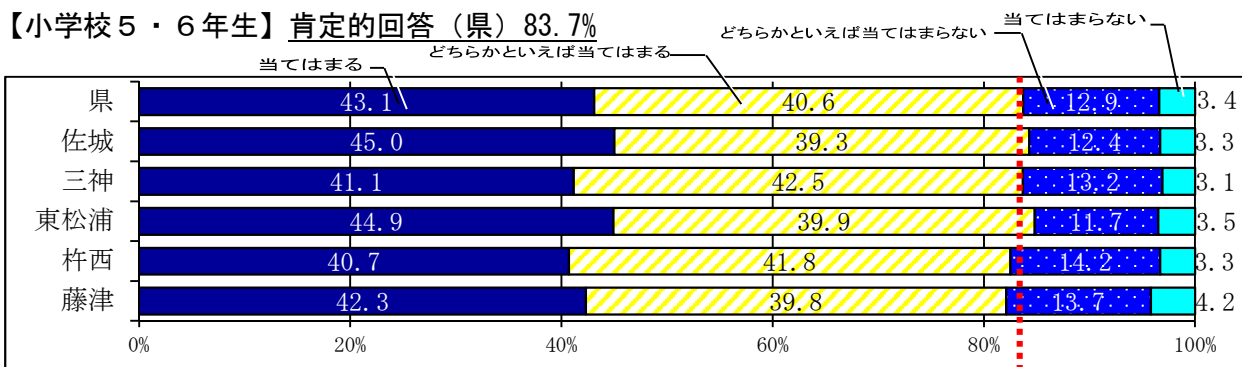


【中学校1・2・3年生】肯定的回答（県）85.5%

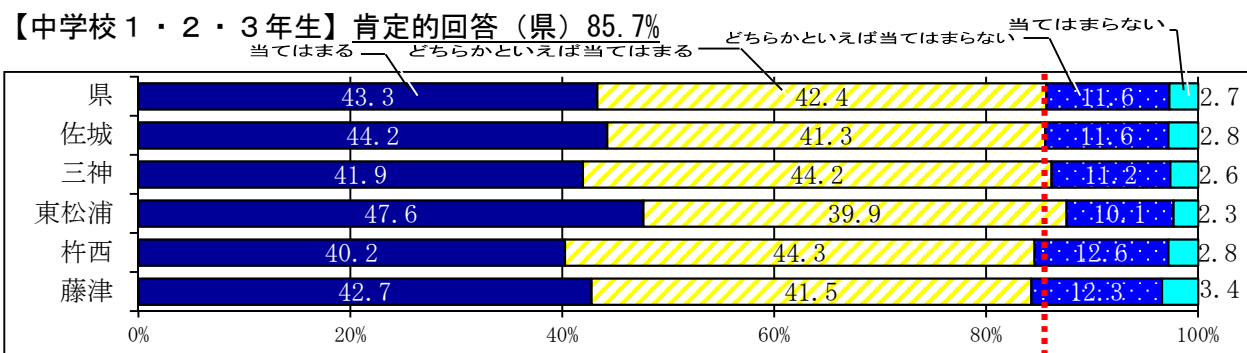


[グラフ 46] 授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う。

【小学校5・6年生】肯定的回答（県）83.7%

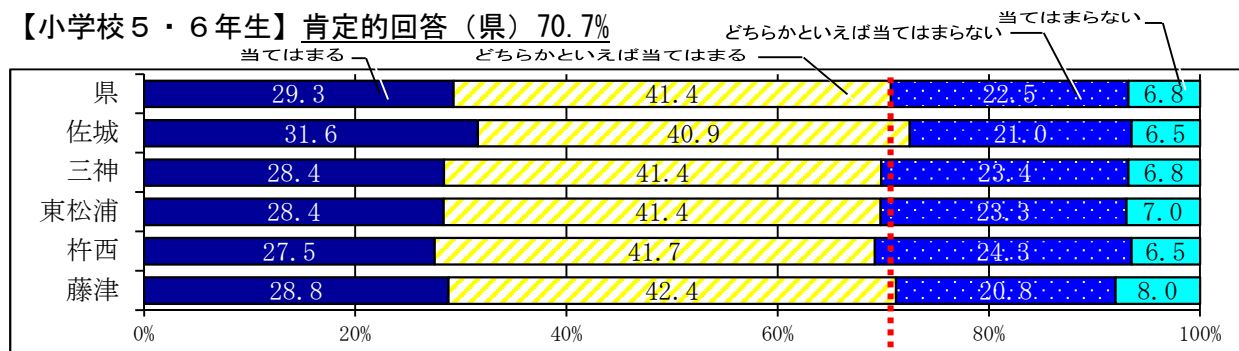


【中学校1・2・3年生】肯定的回答（県）85.7%

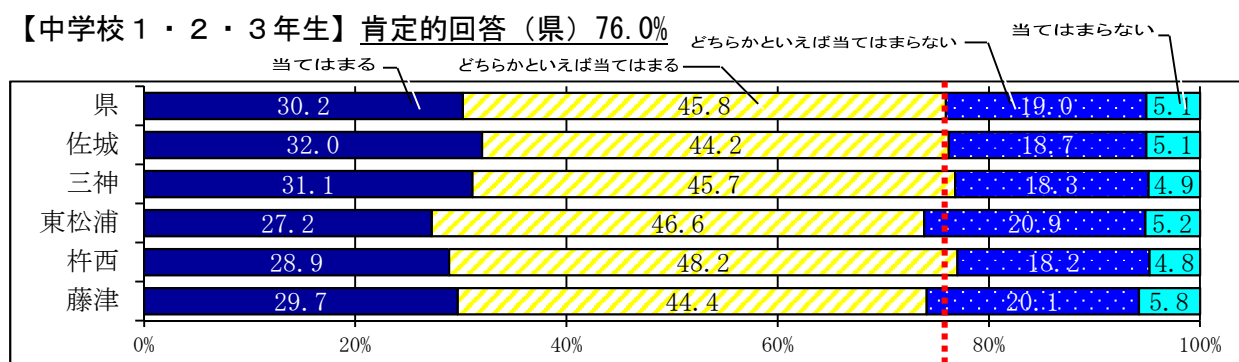


[グラフ 47] 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。

【小学校5・6年生】肯定的回答（県）70.7%

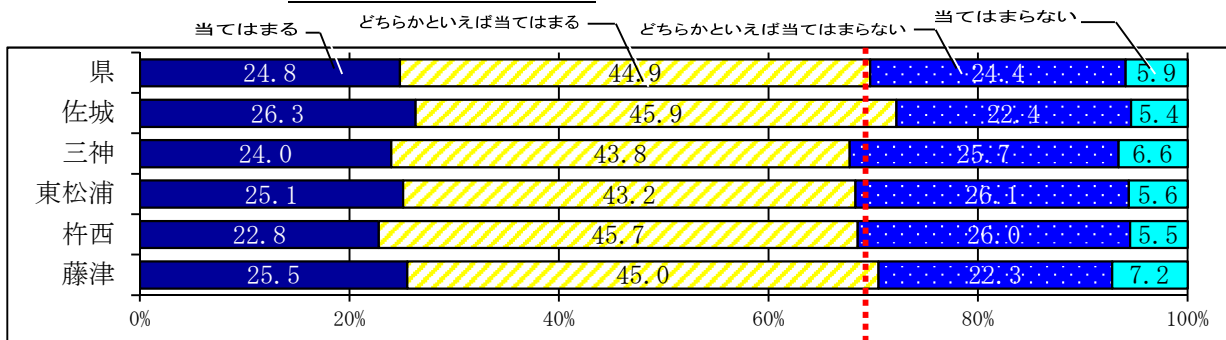


【中学校1・2・3年生】肯定的回答（県）76.0%

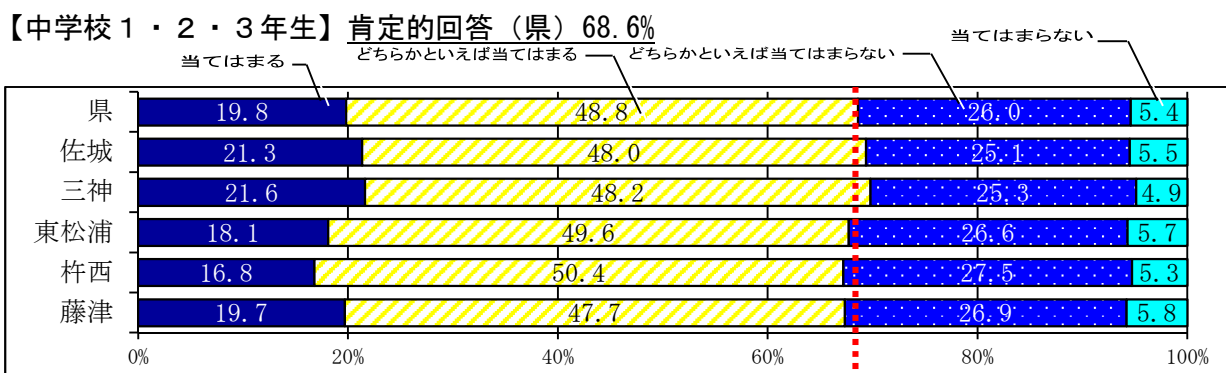


[グラフ 48] 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。

【小学校5・6年生】肯定的回答（県）69.7%

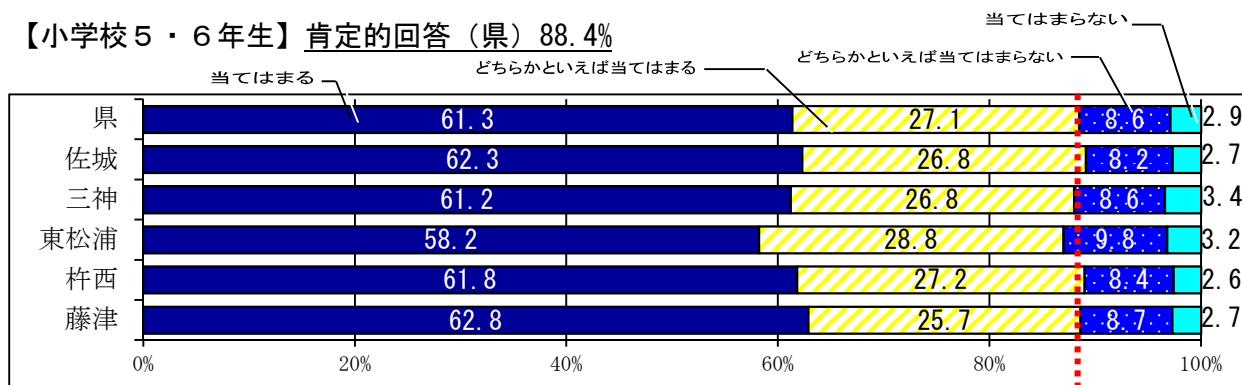


【中学校1・2・3年生】肯定的回答（県）68.6%

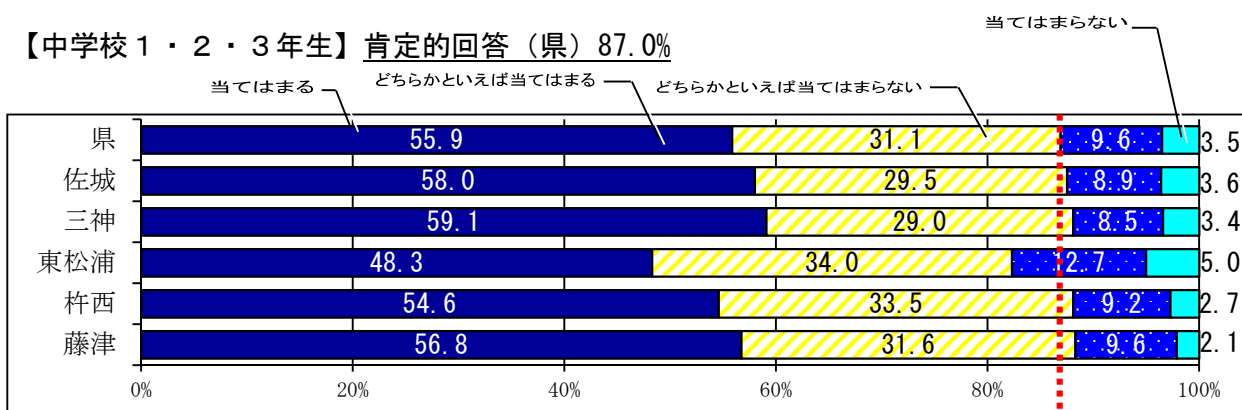


[グラフ 49] 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

【小学校5・6年生】肯定的回答（県）88.4%



【中学校1・2・3年生】肯定的回答（県）87.0%

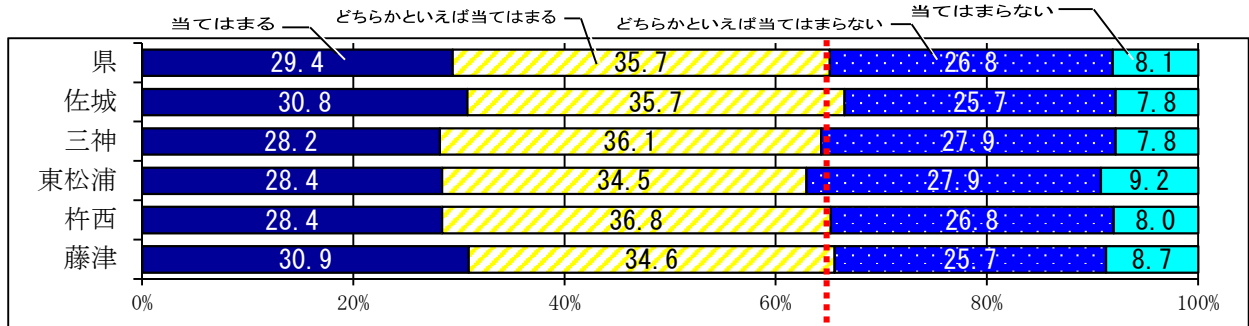


③ 家庭での学習について

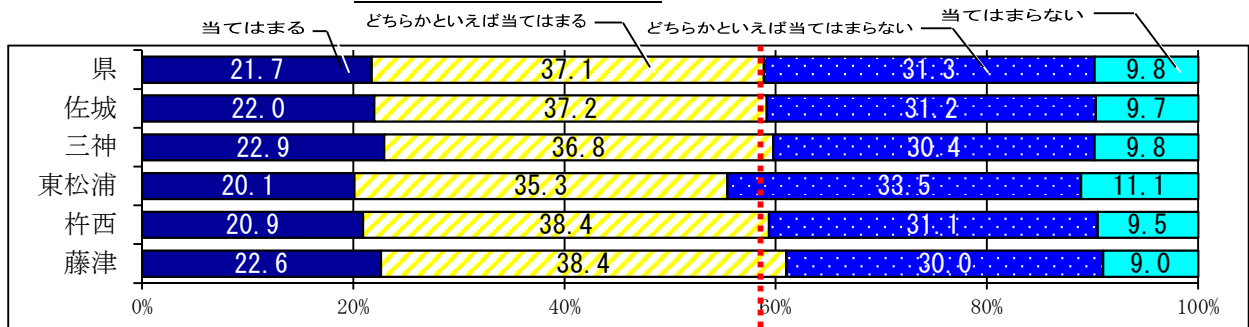
- 「自分で計画を立てて勉強をしている」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では東松浦地域がやや低く、中学校では東松浦地域がやや低く、藤津地域がやや高い。[グラフ 50]
- 「普段（月曜日から金曜日）、1時間以上勉強している」児童生徒の割合は、小学校では三神地域がやや高く、東松浦地域・藤津地域がやや低い。中学校では杵西地域・藤津地域がやや高く、東松浦地域が低い。[グラフ 51]
- 「土日に2時間以上勉強している」児童生徒の割合は、小学校では地域差はほとんど見られないが、中学校では藤津地域がやや高く、東松浦地域がやや低い。[グラフ 52]

[グラフ 50] 自分で計画を立てて勉強をしている。

【小学校5・6年生】肯定的回答（県）65.1%

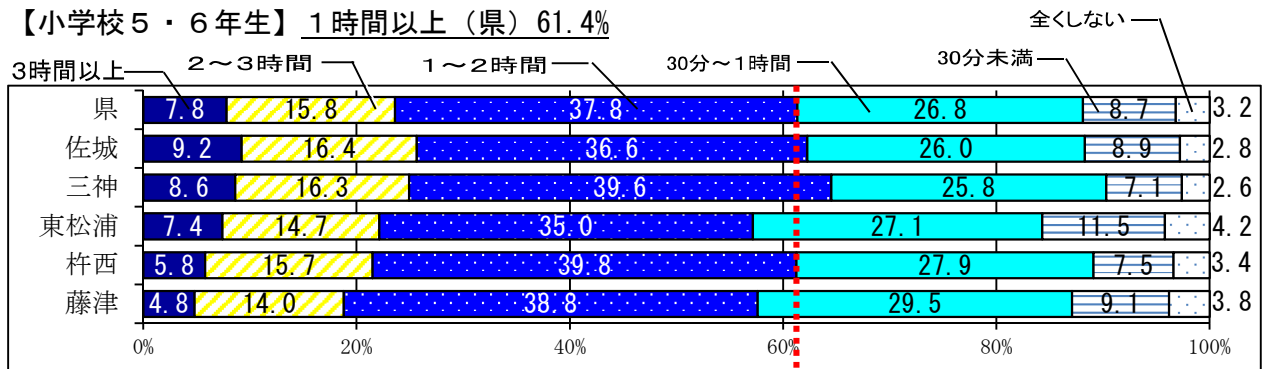


【中学校1・2・3年生】肯定的回答（県）58.8%

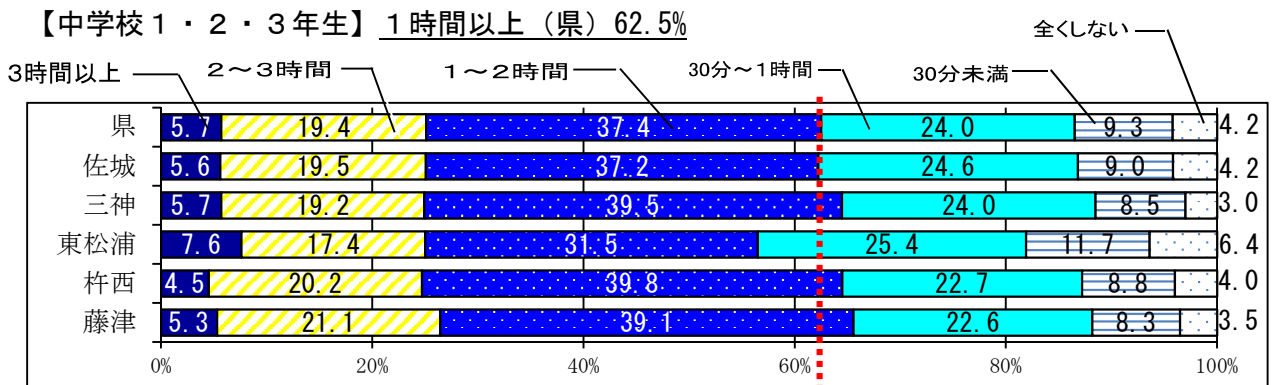


[グラフ 51] 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）

【小学校5・6年生】1時間以上（県）61.4%

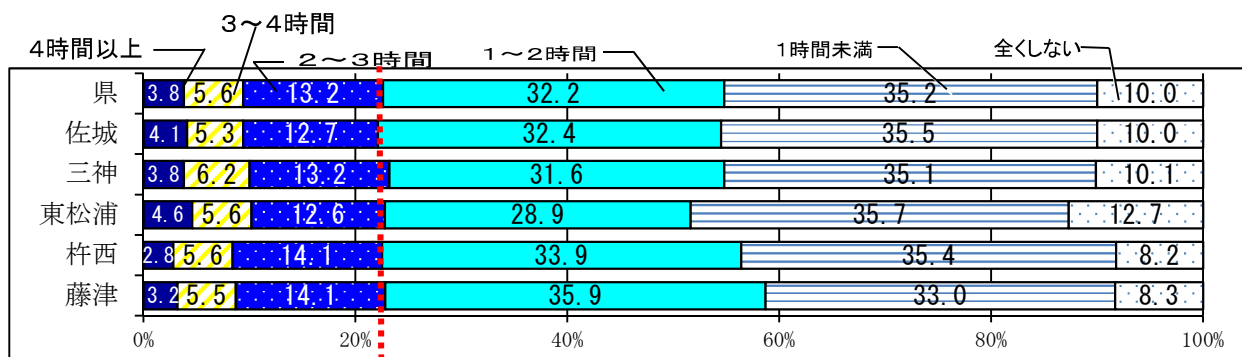


【中学校1・2・3年生】1時間以上（県）62.5%

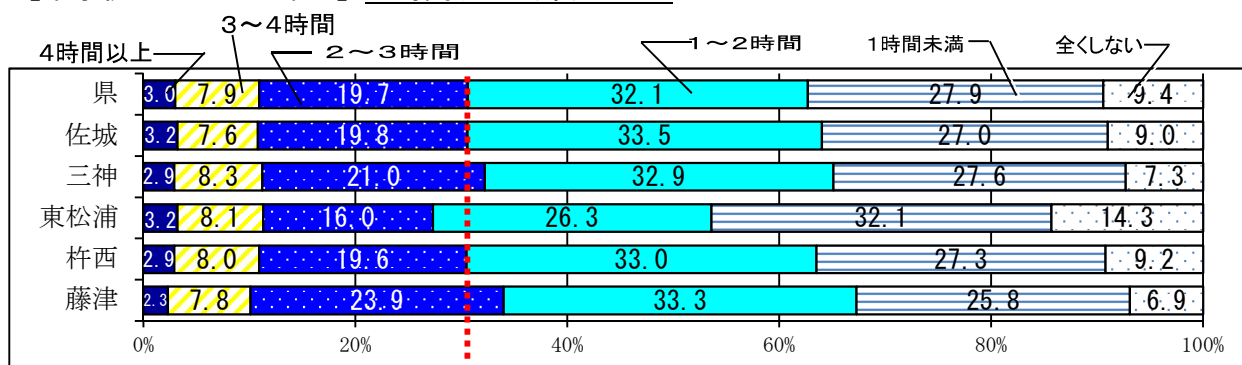


[グラフ 52] 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)

【小学校5・6年生】2時間以上(県)22.6%



【中学校1・2・3年生】2時間以上(県)30.6%

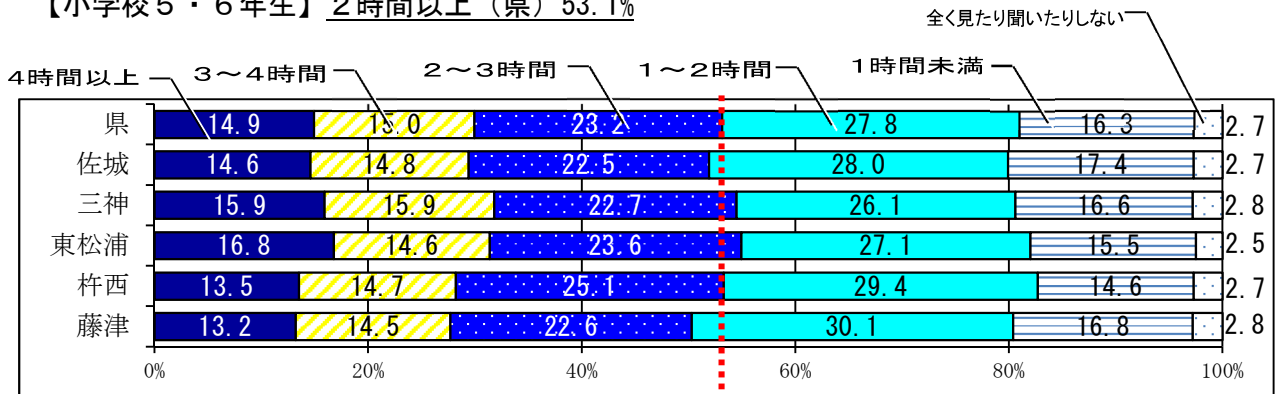


④ 家庭での生活について

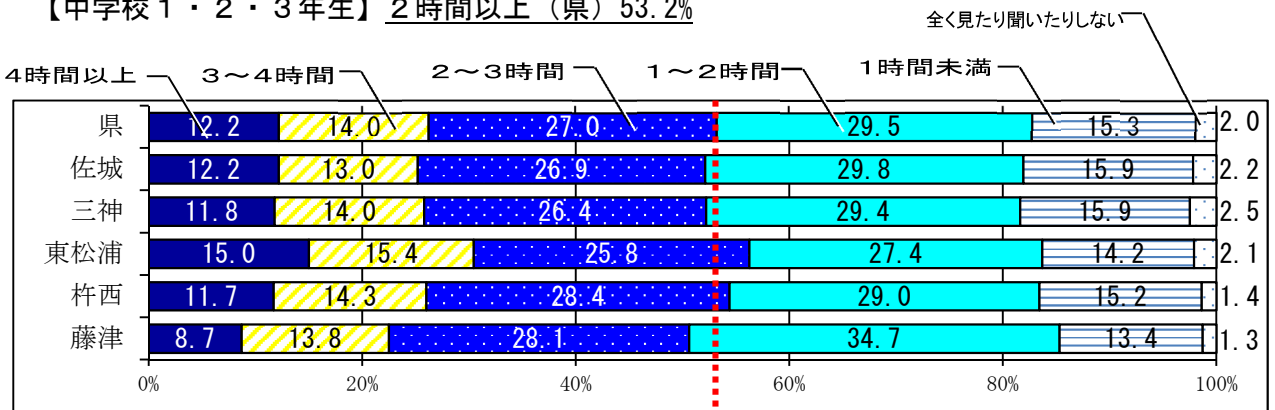
- 「1日あたりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間」で「2時間以上」と答えた児童生徒の割合は、小学校では藤津地域がやや低い。中学校では東松浦地域がやや高く、藤津地域がやや低い。[グラフ 53]
- 「1日あたりのゲームをする時間」で「1時間以上」と答えた児童生徒の割合は、小学校では地域差がほとんど見られないが、中学校では藤津地域がやや低い。[グラフ 54]
- 「1日あたりの通話やメール、インターネットをする時間」で「1時間以上」と答えた児童生徒の割合は、小学校では杵西地域・藤津地域がやや低い。中学校では三神地域がやや高く、東松浦地域が高い。また杵西地域がやや低く、藤津地域が低い。[グラフ 55]

[グラフ 53] 1日あたりのテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日)

【小学校5・6年生】2時間以上(県)53.1%

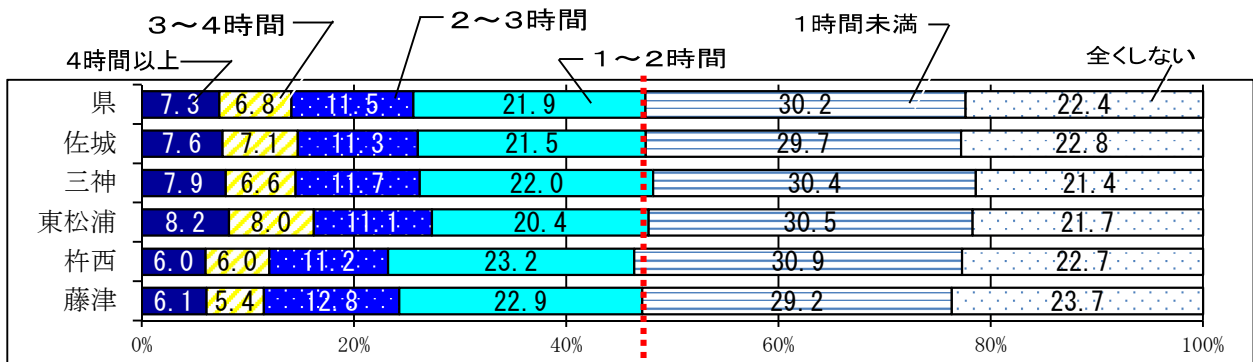


【中学校1・2・3年生】2時間以上(県)53.2%

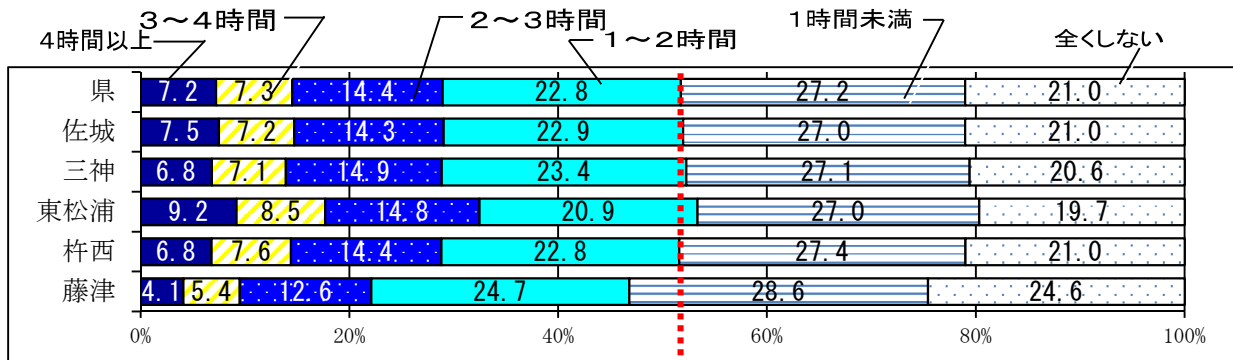


[グラフ 54] 1日あたりのテレビゲームをする時間(月～金曜日)(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)

【小学校5・6年生】1時間以上(県)47.5%

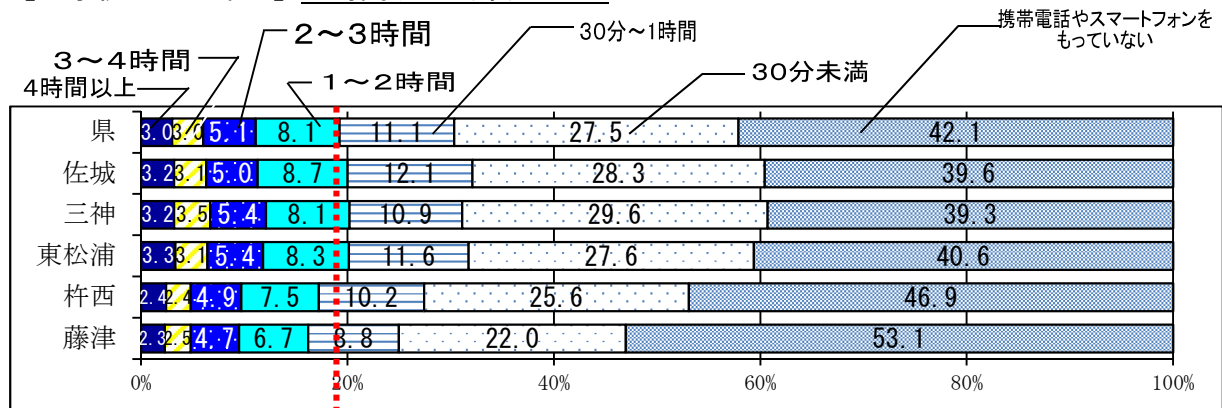


【中学校 1・2・3年生】 1時間以上 (県) 51.7%

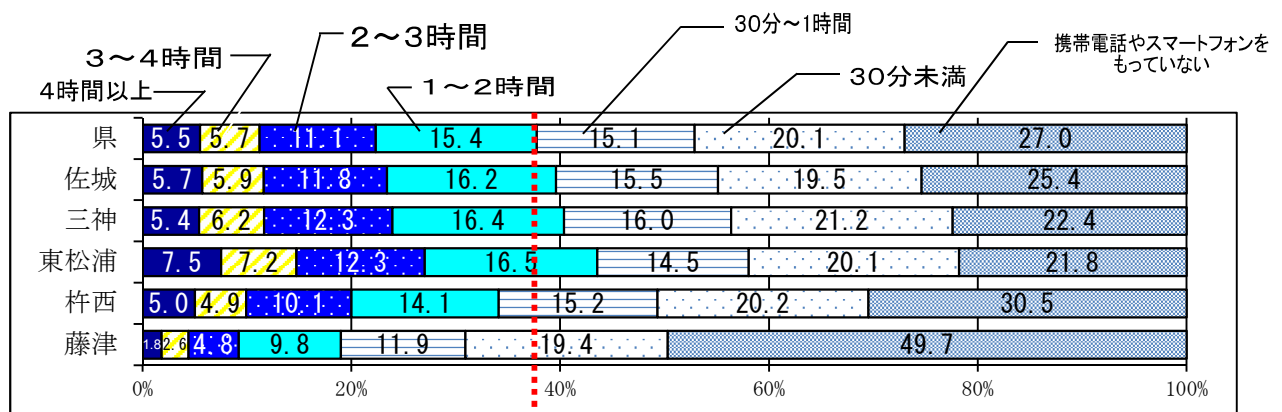


[グラフ55] 1日あたりの携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間(月~金曜日)(ゲームをする時間を除く)

【小学校 5・6年生】 1時間以上 (県) 19.2%



【中学校 1・2・3年生】 1時間以上 (県) 37.7%



《学校質問紙調査》

※県全体の回答との差が

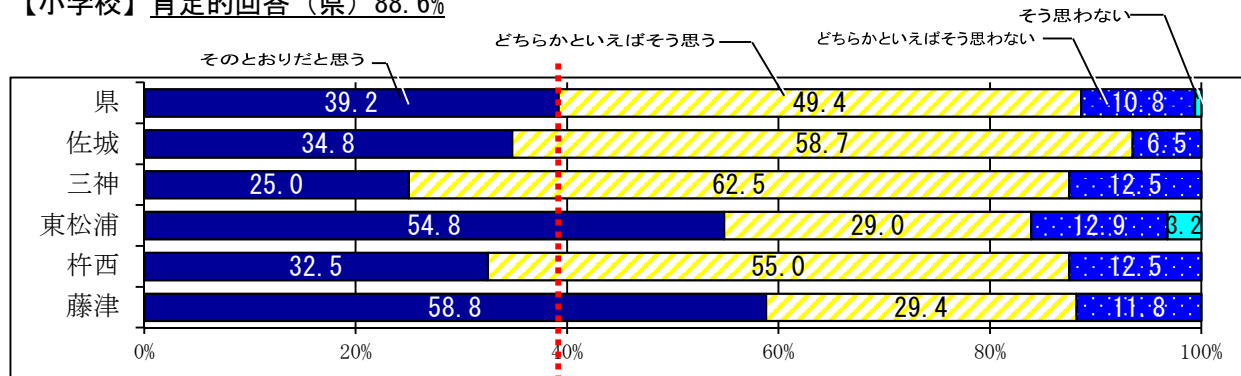
5.0以上は「高い」「低い」と標記している。

① 児童生徒について

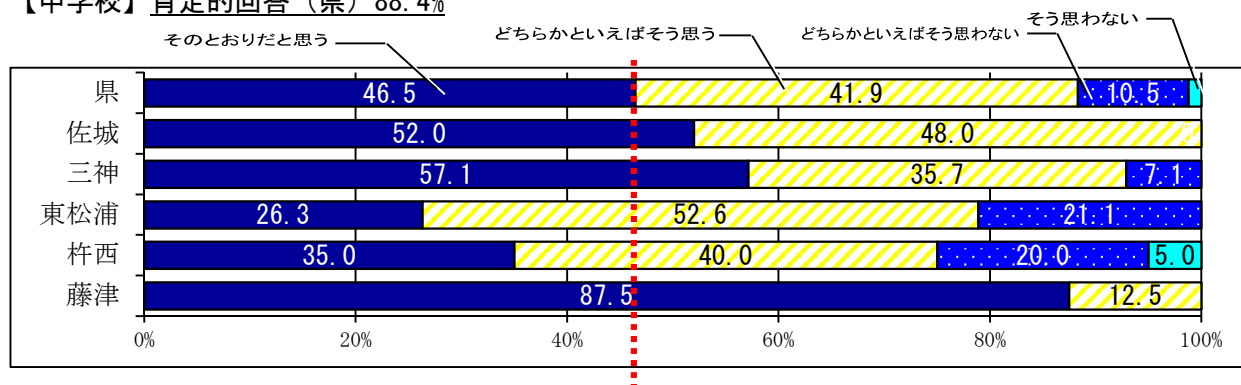
- 「授業中の私語が少なく落ち着いている」について、「そのとおりだと思う」と回答した学校の割合は、小学校では東松浦地域・藤津地域が高く、三神地域・杵西地域が低い。中学校では佐城地域・三神地域・藤津地域が高く、東松浦地域・杵西地域が低い。[グラフ 56]

[グラフ 56] 児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。

【小学校】 肯定的回答（県）88.6%



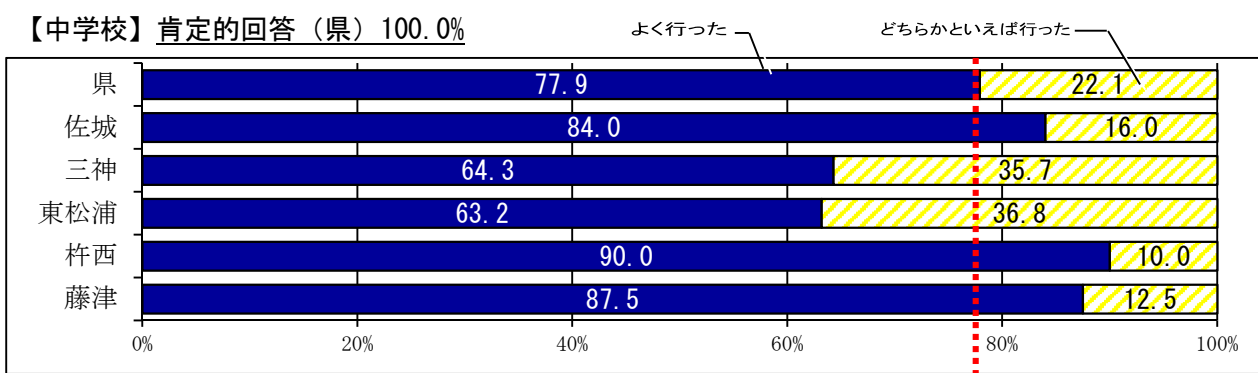
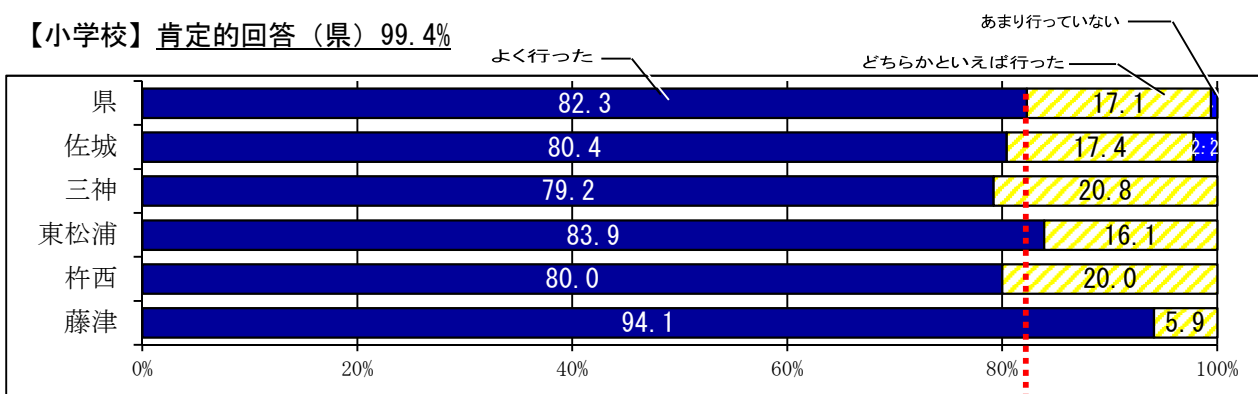
【中学校】 肯定的回答（県）88.4%



② 指導方法・学習規律について

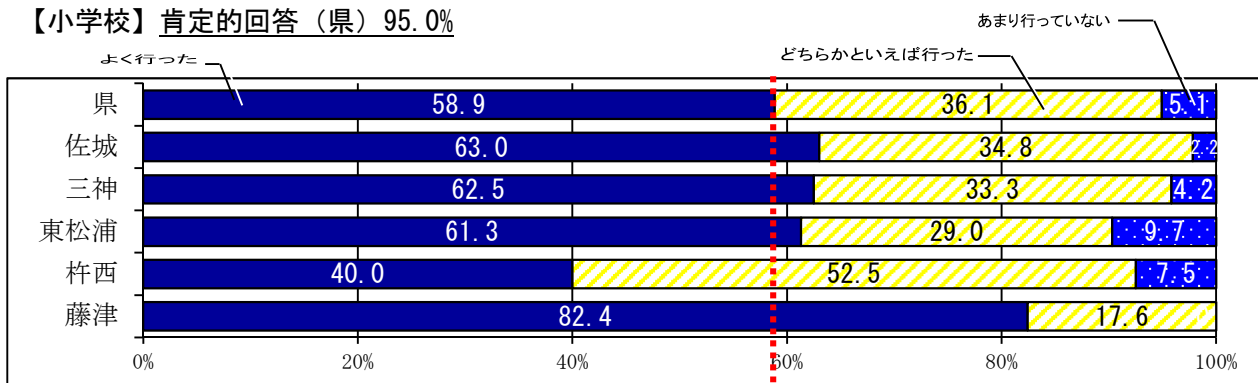
- 「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れている」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校は藤津地域が高い。中学校では佐城地域・杵西地域・藤津地域が高く、三神地域・東松浦地域が低い。
[グラフ 57]
- 「授業の最後に振り返る活動を計画的に取り入れている」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校は藤津地域が高く、杵西地域が低い。中学校では佐城地域・杵西地域が高く、三神地域・東松浦地域・藤津地域が低い。
[グラフ 58]
- 「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では東松浦地域・藤津地域が高く、佐城地域・三神地域・杵西地域が低い。中学校では佐城地域が高く、藤津地域が低い。
[グラフ 59]
- 「自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では東松浦地域・藤津地域が高く、杵西地域が低い。中学校では佐城地域が高く、藤津地域が低い。
[グラフ 60]
- 「学習規律の維持を徹底している」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では地域差がほとんど見られないが、中学校では佐城地域・杵西地域・藤津地域が高く、東松浦地域が低い。[グラフ 61]

【グラフ 57】 授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れている。

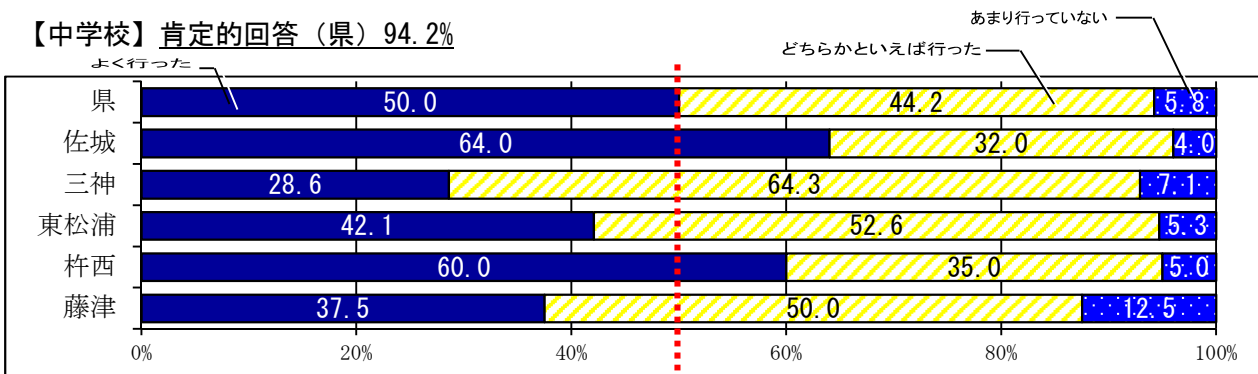


〔グラフ 58〕 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている。

【小学校】 肯定的回答（県） 95.0%

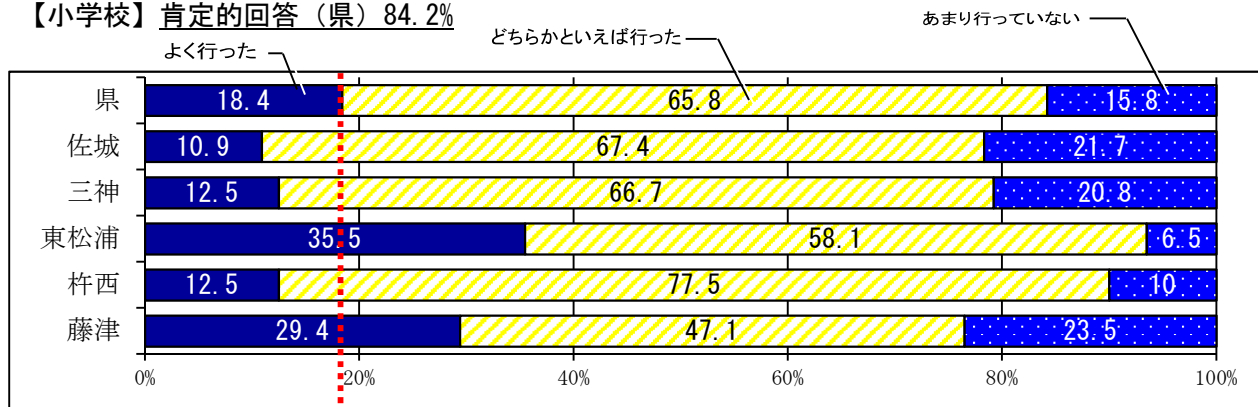


【中学校】 肯定的回答（県） 94.2%

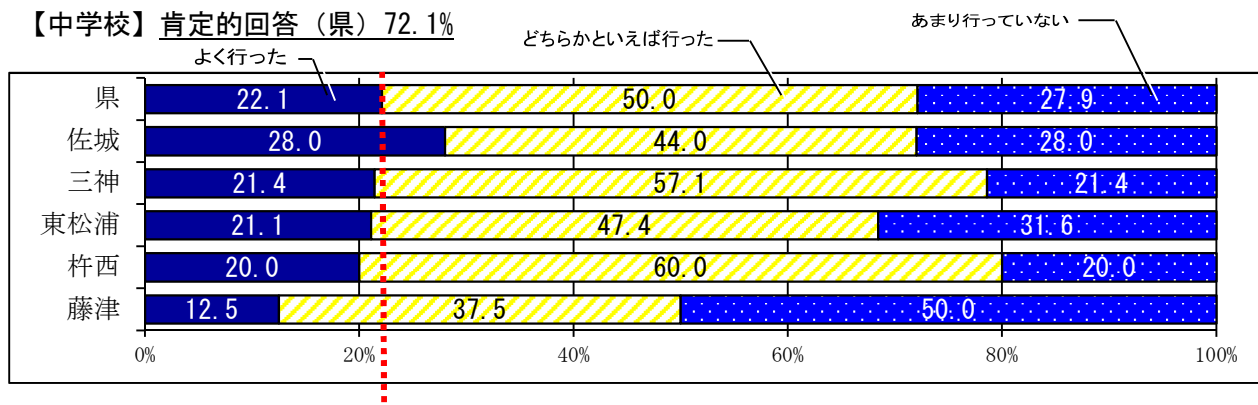


〔グラフ 59〕 授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた。

【小学校】 肯定的回答（県） 84.2%

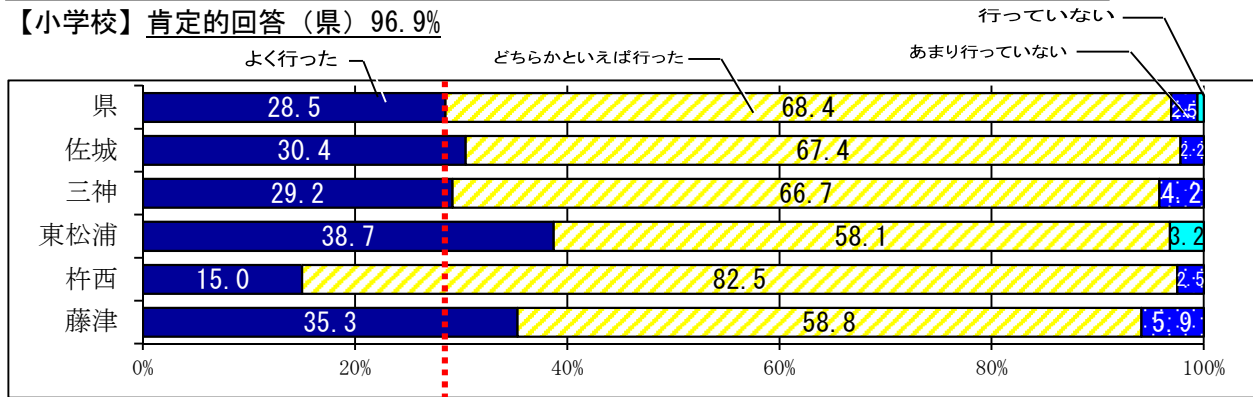


【中学校】 肯定的回答（県） 72.1%

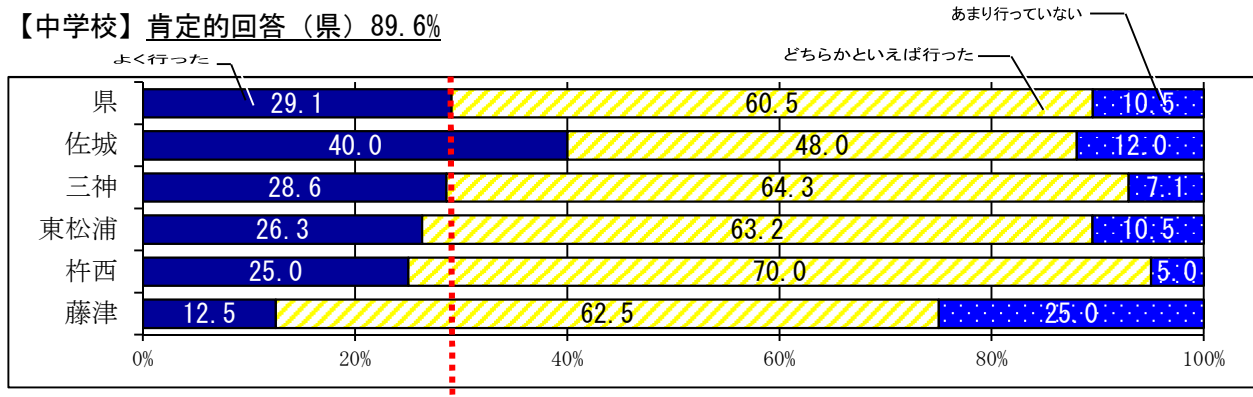


[グラフ 60] 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている。

【小学校】 肯定的回答（県）96.9%

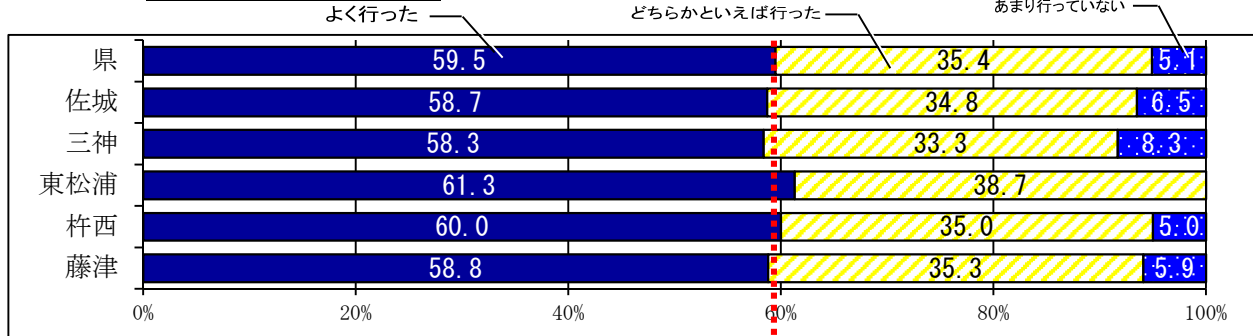


【中学校】 肯定的回答（県）89.6%

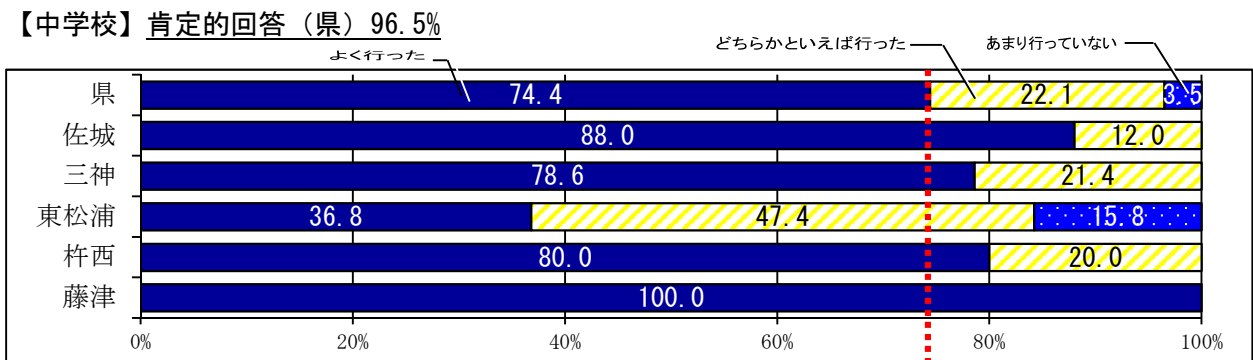


[グラフ 61] 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底している。

【小学校】 肯定的回答（県）94.9%



【中学校】 肯定的回答（県）96.5%

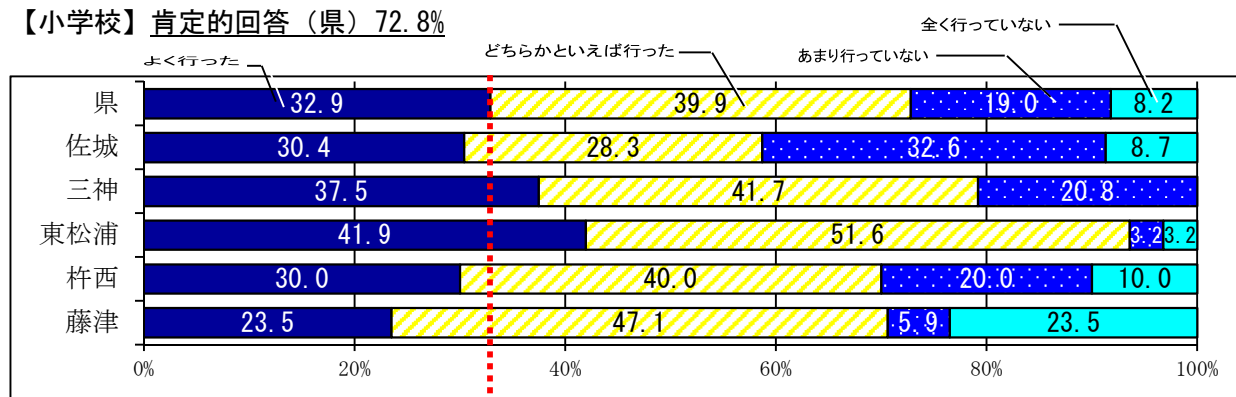


③ 小学校教育と中学校教育の連携

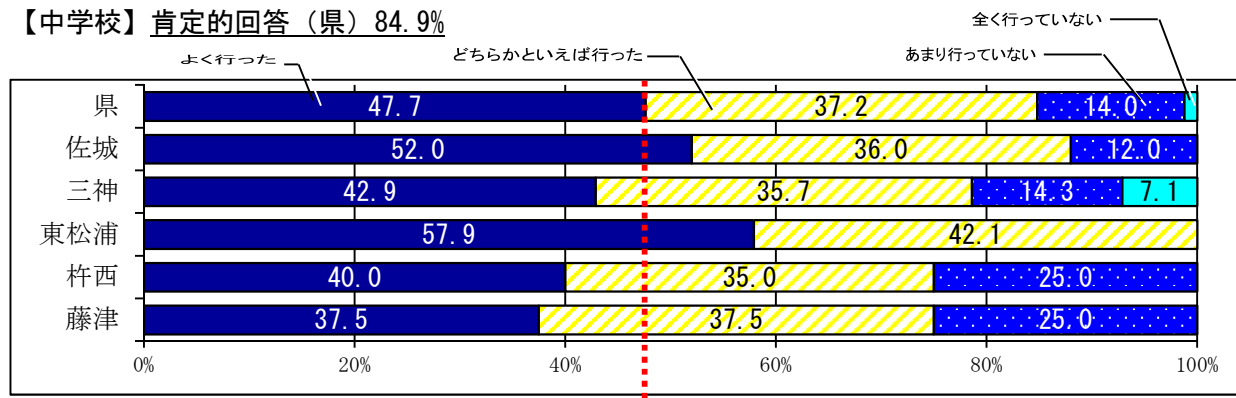
- 「近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った」について、「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では、東松浦地域が高く、藤津地域が低い。中学校では、東松浦地域が高く、杵西地域・藤津地域が低い。[グラフ 62]

[グラフ 62] 近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った。

【小学校】 肯定的回答（県） 72.8%



【中学校】 肯定的回答（県） 84.9%

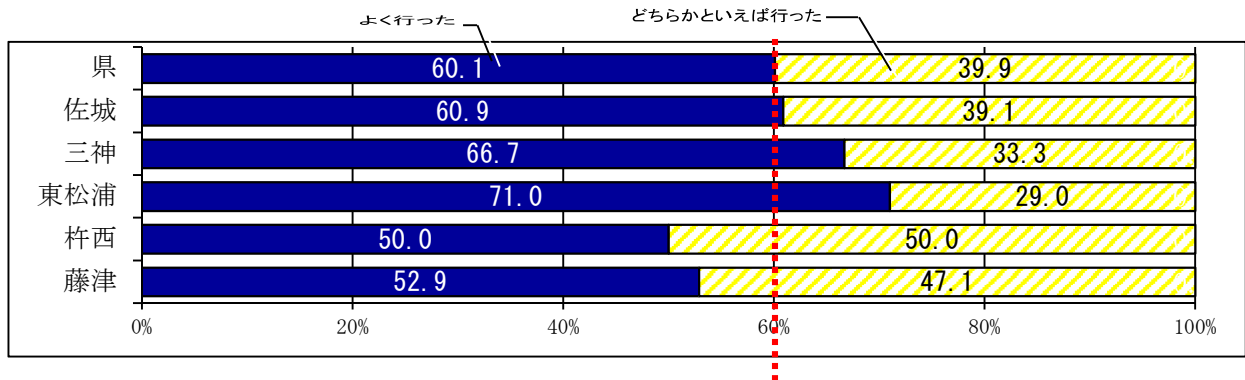


④ 家庭学習について

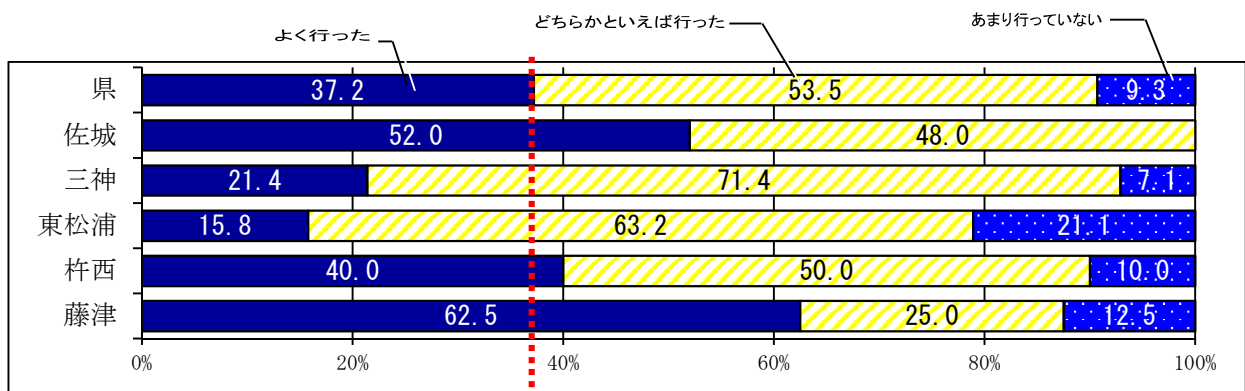
- 「保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行った」について「よく行った」と回答した学校の割合は、小学校では三神地域・東松浦地域が高く、杵西地域・藤津地域が低い。中学校では佐城地域・藤津地域が高く、三神地域・東松浦地域が低い。[グラフ 63]

[グラフ 63] 保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行った。

【小学校】 肯定的回答（県）100.0%



【中学校】 肯定的回答（県）90.7%

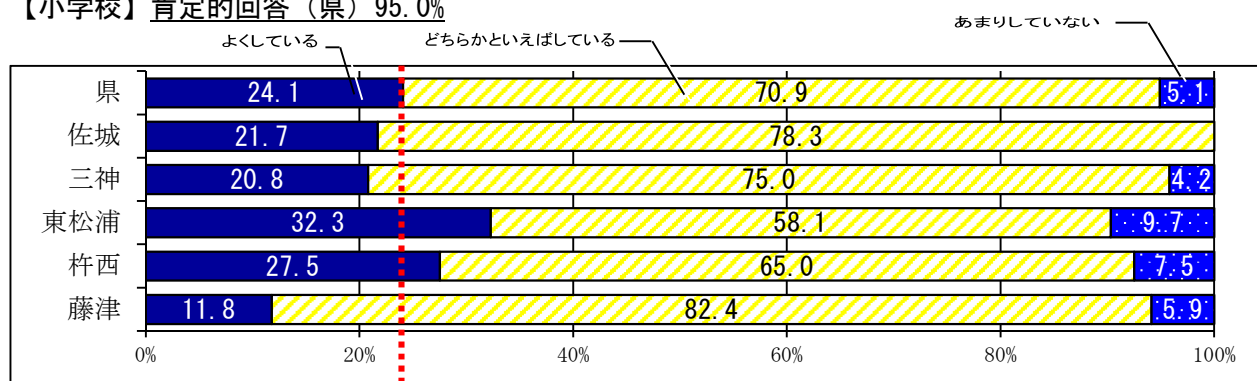


⑤ 教職員の取組について

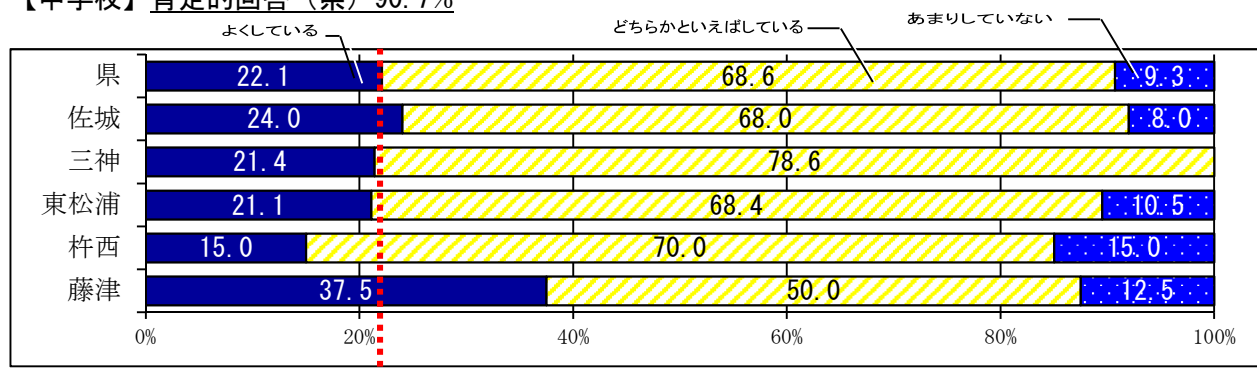
- 「一連のPDCAサイクルを確立している」について「よくしている」と回答した学校の割合は、小学校では東松浦地域が高く、藤津地域が低い。中学校では藤津地域が高く、杵西地域が低い。[グラフ 64]

[グラフ 64] 児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。

【小学校】 肯定的回答（県）95.0%



【中学校】 肯定的回答（県）90.7%



(7) 結果の考察と指導改善のポイント

ア 授業に対する関心、理解、有用性について

「各教科の勉強は好き」という問いに肯定的に回答した児童生徒の割合が前年度を上回った学年・教科は増えており、「各教科の授業の内容はよく分かる」「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに肯定的に回答した児童生徒の割合が前年度を上回った学年・教科はほぼ同数であることから、児童生徒の授業に対する関心は若干高まっていると考えられる。

中学1年の多くの教科で、「各教科の勉強は好き」「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに肯定的に回答した児童生徒の割合が減少していることから、小学6年における学習もしくは、小・中学校の接続の部分に何らかの課題があることが考えられる。

(指導改善のポイント)

□ 知的好奇心を喚起する授業づくり

新学習指導要領においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。この「主体的な学び」の最も根幹にあるのが、学習対象への興味・関心である。授業の導入において、教材との出会わせ方を工夫し、児童生徒が学習内容を「自分事」として捉えられるようにし、単元を通して、その気持ちが持続できるような指導の工夫が求められるところである。

□ 「分からない」児童生徒への迅速かつ適切な対応と学習内容の定着を図る指導の工夫

「分からない」と回答した児童生徒については、早急に対応する必要がある。「分からない」原因はそれぞれに異なると考えられるので、必要に応じて個別の対応が求められる。また、「分かる」と回答していても、該当教科の調査結果が思わしくない場合には、学習内容の定着が図られていないことが考えられる。反復練習的なドリル学習だけに終始することなく、学習したことを活用して考える場面などを多く設定するなどして、意図的に学習内容を繰り返し使いながら、身に付けていくような手立てを工夫する必要がある。

□ 学習内容の有用性を実感できる授業の工夫

児童生徒の「役に立つ」という意識は、授業の中で、他の学習場面や他の教科・領域との関連を意識させること、日常生活とのつながりに気付かせること、学習したことを活用させる場面を意図的に位置付けることなどによって育まれる。平成27年度から取り組んでいる「児童生徒の活用力向上研究指定事業」では、今年度、新たに8中学校区24校を指定し、県内16中学校区48校（義務教育学校1校含む）で研究が推進されている。このような先進的な取組等も参考にしながら、児童生徒の活用力を高め、児童生徒に学習内容の有用性を実感させることができるような指導を工夫する必要がある。

イ 学校での学習について

「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う」「授業では、学級との友達(生徒)の間で話し合う活動をよく行っていると思う」という問いに肯定的に回答した児童生徒の割合は全体的に増加しており、学習者主体の授業づくりが浸透している状況がうかがえる。教師意識調査において、「発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか」という問いに「多くの単元で行っている」と回答した教師が小学校、中学校ともに増加し

ていることとも呼応している。

また、各教科の学習活動に関する意識や態度を問う質問項目において、多くの学年・教科で肯定的な回答をした児童生徒の割合が増加していることから、児童生徒の学習活動に取り組む意識の向上や態度の形成が図られていると考えられる。

(指導改善のポイント)

□ 児童生徒意識調査の各教科の学習活動に関する質問項目の再確認

県調査の児童生徒意識調査に示している各教科の学習活動に関する質問項目（小学校は39～51、中学校は42～57）は、それぞれの教科における児童生徒の望ましい意識や態度をモデル化したものとなっている。（中学校56は例外）したがって、日頃の授業の中で、質問項目にあるような児童生徒の意識や態度が育っているかという視点で、自らの授業を見直してみることが有効である。例えば、「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」（小・中 国語）という質問項目に着目すると、指導する単元や1単位時間の授業における、自分の考えを書かせる場面で、考えの理由が分かるように気を付けて書くことができるような指導をしているのかという視点で授業を見直してみるとよい。

□ 児童生徒の主体的な活動を支える3つの視点のチェック

授業における書く活動やペアやグループでの話し合う活動など、児童生徒の主体的な活動を展開するに当たって、①モチベーション(その活動に取り組むことに児童生徒の必然性はあるか、児童生徒は取り組みたいと思っているか)、②スキル(その活動の進め方やゴールなどを児童生徒は理解しているか)、③コンテンツ(取り組む内容は児童生徒にとって魅力的であるか、児童生徒は取り組む価値を感じているか)の3つの視点が整っているかどうかを教師は常に考えておく必要がある。いずれかが欠けていると、児童生徒の主体性を欠くことにもなる。大切なキーワードは、児童生徒が「やりたい、やれそう、やってよかった」と思えるような活動にすることである。

ウ 家庭での学習について

家庭学習の時間は、校種・学年によって、いくらか増減があるものの全体としては大きく変わらない。しかしながら、家庭学習の取組において、「自分で計画を立てて勉強している」という問いに肯定的に回答した児童生徒は全体的に増加しており、児童生徒が見通しをもって計画的に学習に取り組むことができるようになっている様子が見えてくる。一方で、いずれの校種・学年においても、「30分より少ない」「全くしない」という児童生徒が一定数いることについては引き続き課題であり、個別の手立てが必要である。

学校の宿題については、小学校(中学1年を含む)では約9割、中学校では7割から8割の児童生徒が「している」と回答しており、小学5年と中学2年では増加していることから、学校の宿題に対する児童生徒の取組状況はこれまでと同様に高い水準にある。

「学校の授業の予習をしている」という問いに肯定的に回答した児童生徒は小学5年で増加しているが、その他の校種・学年では減少している。「している」と回答した児童生徒の割合は中学1年が最も高く2割であるが、その他の校種・学年は2割未満である。「学校の授業の復習をしている」という問いに肯定的に回答した児童生徒は小学5年で増加しているが、その他の校種・学年ではほぼ同数である。「している」と回答した児童生徒の割合は中学1年が最も高く3割弱であるが、その他の校種・

学年では約2割である。これらのことから、児童生徒の家庭学習の内容は復習中心であることがうかがわれる。教師が出す宿題の内容が、復習的な内容が中心であることにも起因していると考えられる。

(指導改善のポイント)

□ 家庭学習の質の充実

家庭学習の習慣化を図るためには、小学校低学年からの家庭と連携した指導が重要である。「家庭で学習をする」という習慣を早い段階から身に付けておくことが、家庭学習の時間の充実につながる。また、児童生徒の発達の段階にもよるが、学年が上がるにつれて、「何時間行ったか」「何ページ書いたか」といったような量的な基準だけでなく、「分かるまで行ったか」「できるようになるまで行ったか」「覚えるまで行ったか」といったように家庭学習の内容を重視した質的な充実を図ることも大切である。

□ 復習的な内容の宿題と予習的な内容の宿題のバランスを図る工夫

学校の宿題に対する児童生徒の取組状況はこれまでと同様に高い水準にあることから、宿題の在り方やその内容について、教師の間で議論を交わすなどして、学校としての宿題の質を充実させることが、学習内容の定着や授業における主体的な学習への取組を実現するのに有効であると考えられる。

その一つの視点として、復習的な内容の宿題と予習的な内容の宿題のバランスということが挙げられる。児童生徒に課されている宿題の多くは、授業における学習内容の定着を図るための復習的な内容の宿題である。そのこと自体を否定するものではないが、児童生徒が次時の授業内容を見通すことができる予習的な内容の宿題を工夫することによって、児童生徒の主体的な授業への取組が促進されることや、予習的な内容の宿題を授業の中で活用することによって、児童生徒の授業に対する参加意識が高まることが期待される。「授業→復習的な内容の宿題」だけでなく、「予習的な内容の宿題→授業」ということも視野に入れた授業構想に取り組みされてはどうか。

また、復習的な内容の宿題についても、児童生徒の発達の段階に応じて、例えば、「習った漢字を10回書いてくる」宿題だけでなく、「習った漢字を使って文をつくる」宿題を課すなどして、「書けるようになる」ための宿題なのか、「使えるようになる」ための宿題なのかといったように、ねらいを明確にした宿題の出し方を工夫することも大切である。

エ 学校生活、家庭生活について

学校生活では、「学校に行くのは楽しいと思う」「学校では落ち着いて勉強することができている」という問いに肯定的に回答した児童生徒の割合は全体的に増加しており、いずれも8割から9割であることから、多くの児童生徒が楽しく学校生活を送り、落ち着いて学習に取り組むことができていることがうかがわれる。

家庭生活では、平日に2時間以上テレビやビデオ・DVDを視聴する児童生徒の割合は全体的に減少しているが、平日に携帯電話やスマートフォンを1時間以上使用している児童生徒の割合は全体的に増加している。

(指導改善のポイント)

□ 学力向上の基盤となる環境の維持・向上

学力向上を図る基盤として、児童生徒が楽しい学校生活を送り、落ち着いて学習に取り組める環境

が整っているということは大切な要件である。県全体としては良好な状態にあると考えられるが、それぞれの学校において、児童生徒にとっての良好な学習環境が整っているかどうかということを定期的に確認するとともに、維持・向上に努めることが大切である。

□ 家庭での過ごし方を主体的に見直すことができる指導

毎日、家庭での学習時間や生活の様子を記録させるなどして、家庭での様子を把握している学校や教師は多いと思われる。家庭での過ごし方に課題がある児童生徒については、家庭と連携しながらの個別指導が必要である。特に小学校の低学年や中学年においては、保護者や本人から情報収集をするなどして、平日の帰宅後や学校が休みの日に家庭でどのように過ごしているのかを把握しておくことが大切である。小学校高学年や中学校では、家庭での過ごし方を児童生徒が主体的に見直すことができるような指導が大切である。具体的には、学級活動などにおいて、児童生徒が自分の家庭での過ごし方を見直し、改善を図ることができるような取組を行うことなどが考えられる。

オ 教師意識調査から

「発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか」という問いに「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合や「ノートのまとめ方や話し合いの進め方など、学習方法についてきめ細やかに指導を行っていますか」という問いに「行っている」と回答した教師の割合は増加しており、児童生徒主体の学習活動の充実が図られていると考えられる。また、「授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童に示す活動を計画的に取り入れていますか」という問いに「取り入れている」と回答した教師は前年度を下回っているが、小学校では8割、中学校では6割を超えており、他の質問項目より高い水準にある。一方で「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか」という問いに「取り入れている」と回答した教師の割合は全体的に減少している。

(指導改善のポイント)

□ 「授業づくりのステップ1・2・3」の積極的な活用

前述した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、学習者主体の授業づくりを行うことが必然となる。「授業づくりのステップ1・2・3」では、授業づくりの基本的な視点を「めあて」、「まとめ」、「書く活動」、「話し合う活動」、「振り返り」の5つに焦点化し、それぞれを3つのステップで示している。ぜひ、自らの授業の日々の振り返りや校内授業研究会での参観の視点などに積極的に活用し、児童生徒にとっての「主体的・対話的で深い学び」となっているかどうかといった視点で不断の見直しを図り、授業の質的な改善につなげてほしい。

以上、意識調査結果の考察と指導改善のポイントについて示している。各学校の実態や学校を取り巻く環境はそれぞれに異なると思われるので、各学校においても調査結果についての考察を行い、参考となる指導改善のポイントについてはぜひ活用していただきたい。